

人権に関する市民意識調査 報 告 書

上 田 市
上田市教育委員会

令和 4 年 12 月

— 目 次 —

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
1.回答者の属性	3
1-1. 性別	3
1-2. 年代	3
2.人権に関する意識について	4
2-1. 「人権」に対するイメージ	4
2-2. 人権問題への関心	6
2-3. 人権に関する講演会・研修会・懇談会・学習会・イベントへの参加経験	7
2-4. 各種関連法の認知度	8
【小括】人権に関する意識について	11
3.人権侵害の経験について	12
3-1. 人権侵害の経験の有無	12
3-2. 人権侵害の内容	13
3-3. 人権侵害のあった場所	14
3-4. 人権侵害を受けた理由	16
3-5. 人権侵害を受けた時の対応	18
【小括】人権侵害の経験について	19
4.各分野における人権課題に関する意識について	20
4-1. 女性に対する人権意識について	20
4-2. 子どもに対する人権意識について	22
4-3. 高齢者に対する人権意識について	24
4-4. 障がいのある人に対する人権意識について	26
4-5. 外国人に対する意識について	28
4-6. 犯罪被害者等に対する人権問題について	30
4-7. インターネットによる人権問題について	31
4-8. HIV 感染者・エイズ患者等に対する意識について	33
4-9. ハンセン病患者・元患者等に対する意識について	35
4-10. LGBTQ 等の性的少数者の方々に対する意識について	37
4-11. 新型コロナウイルス感染症に対する意識について	39
【小括】各分野における人権課題に関する意識について	41
5.同和問題に関する意識について	42
5-1. 同和問題(部落差別)の認知度	42
5-2. 同和問題(部落差別)を知ったきっかけ	43
5-3. 同和問題(部落差別)に対する考え	45
5-4. 同和問題(部落差別)があると思う場面	46
5-5. 同和地区の人との恋愛や結婚についての考え	48
5-6. 同和地区の人との恋愛や結婚に対する対応	49
5-7. 同和問題の解決策	50
【小括】同和問題に関する意識について	52
6.人権課題を解決する方策について	53
6-1. 市が積極的に取り組む必要があると思われる課題	53
6-2. 人権啓発を推進するために効果的だと思う啓発活動	56
6-3. 人権課題を解決するために必要と思われること	57
6-4. ご意見・ご希望	59
【小括】人権課題を解決する方策について	62
III 調査資料	63

I 調査の概要

1 調査目的

人権問題に関する市民の意識や実態を把握し、上田市の人権教育推進の基礎資料とするとともに、今後の人権施策推進の参考とするため市民意識調査を実施した。

2 調査項目

人権に関する意識、人権侵害の経験、回答者の属性に関する設問など選択式の設問41項目（枝問含む）、記述式の設問1項目。

3 調査方法

- (1) 調査地域 上田市全域
(2) 調査対象 市内在住の18歳以上の男女2,000人
(3) 抽出方法 令和4年7月1日現在の住民基本台帳から男女別、年齢別に無作為抽出

	10歳代 (18・19歳)	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	34	161	161	161	161	161	161	1,000
女性	34	161	161	161	161	161	161	1,000
合計	68	322	322	322	322	322	322	2,000

- (4) 調査方法 郵送配布し、郵送またはWEBでの回答
(5) 調査期間 令和4年8月25日から9月15日まで

4 回収結果

- (1) 発送数 2,000件
(2) 到達数 1,995件
(3) 回答数 841件
(4) 有効回答数 841件(42.2%)

5 調査結果の集計・表示方法及び数値等の取り扱い

- (1) 本調査と以下の過年度に実施した調査で、共通の設問については比較分析している。
・平成19年に実施した上田市の「人権問題に関する市民意識調査」(有効回答数 868件)
・平成24年に実施した上田市の「人権問題に関する市民意識調査」(有効回答数 843件)
・平成29年に実施した上田市の「人権問題に関する市民意識調査」(有効回答数 834件)
- (2) 本調査と、県が実施した以下の調査で共通の設問については比較分析している。
・令和2年9月実施の長野県県民文化部人権・男女共同参画課「人権に関する県民意識調査」
(有効回答数 1,300件)
- (3) 調査結果の比率は、各設問の無回答を含む回答数に対する百分比(%)を表している。このため、複数回答の設問では、百分比(%)の合計は、100.0%を超えるものもある。
- (4) 百分比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記している。個々の比率の合計と全体の数値が一致しない場合もある。
- (5) グラフ中の「n」は Number of case の略であり、「n=」は、その質問への回答数を表す。
- (6) 図表では、煩雑さを避けるために選択肢の言葉や文章を省略形にする場合がある。

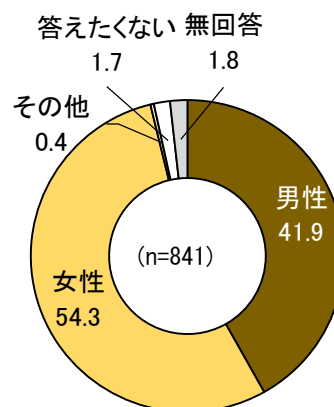
Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

- 回答者の性別は、「男性」が41.9%、「女性」が54.3%、「その他」は0.4%、「答えたくない」は1.7%となっている。
- 年代は、10・20歳代～50歳代は1～2割弱、60歳代と70歳以上は2割程度となっている。

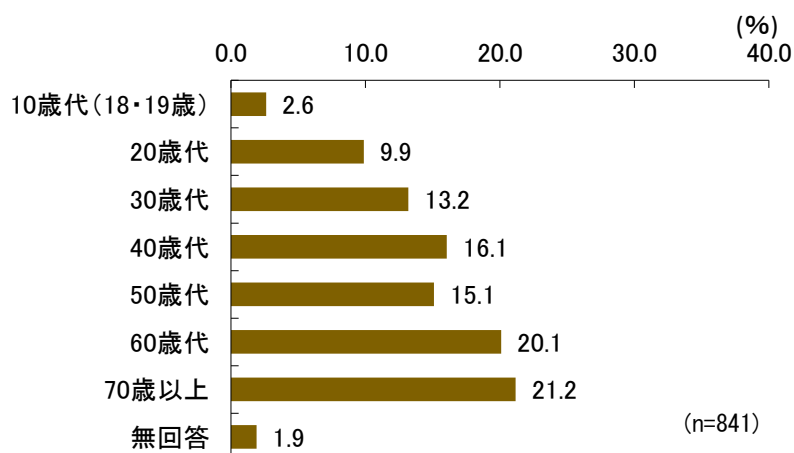
1-1. 性別

	回答数	割合(%)
男性	352	41.9
女性	457	54.3
その他	3	0.4
答えたくない	14	1.7
無回答	15	1.8
合計	841	100.0



1-2. 年代

	回答数	割合(%)
10歳代 (18・19歳)	22	2.6
20歳代	83	9.9
30歳代	111	13.2
40歳代	135	16.1
50歳代	127	15.1
60歳代	169	20.1
70歳以上	178	21.2
無回答	16	1.9
合計	841	100.0



2. 人権に関する意識について

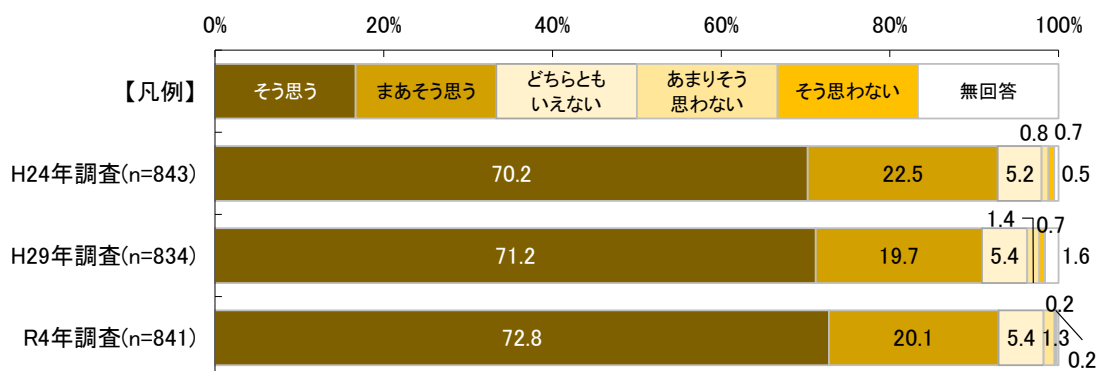
2-1. 「人権」に対するイメージ

問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ(印象、感想)を持っていますか。

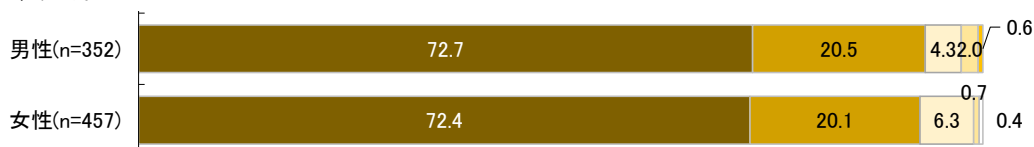
(1) 重要である

- 全体で「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は、92.9%となっている。過年度と比べ、「そう思う」の割合は微増している。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別では、10・20歳代で「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は95.2%と、他年代に比べ高くなっている。
- 長野県と比較し、上田市は「そう思う」の割合が県より8.0ポイント低い。しかし、「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は県と同様の水準となっている。

◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



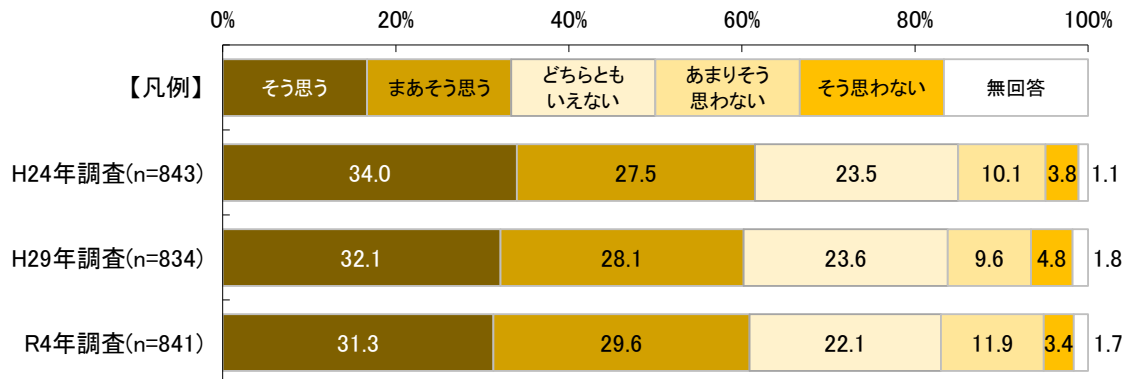
◆長野県との比較

	上田市 (n=841)	長野県 (n=1,300)
そう思う	72.8%	80.8%
まあそう思う	20.1%	13.5%
どちらともいえない	5.4%	3.9%
あまりそう思わない	1.3%	0.8%
そう思わない	0.2%	0.5%
無回答	0.2%	0.4%

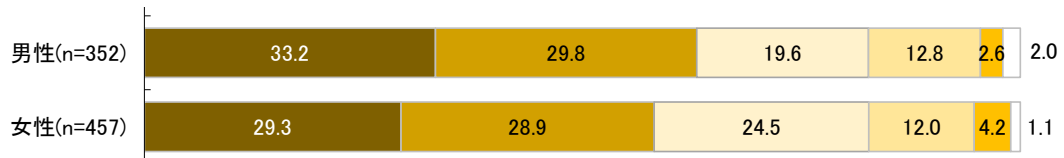
(2) 自分に関係が深い

- 「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合は60.9%となっている。過年度と比較し、「そう思う」の割合は微減している。
- 性別では、女性に比べ、男性では「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合がやや高くなっている。
- 年代別では、30歳代で「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が全体に比べ高く、7割以上となっている。比較的若い年代の方が自分と関係が深いと思う割合が高い傾向がみられる。
- 長野県と比較し、上田市は「そう思う」「まあそう思う」を合わせた割合が9.4ポイント低くなっている。

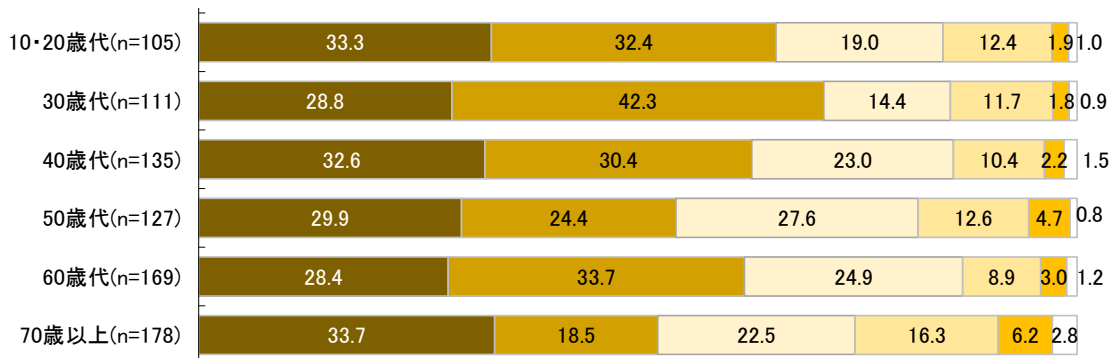
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



◆長野県との比較

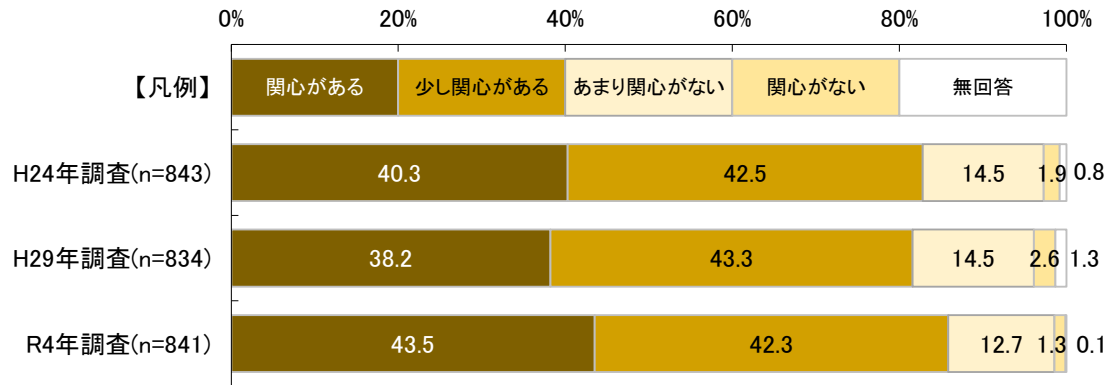
	上田市 (n=841)	長野県 (n=1,300)
そう思う	31.3%	39.8%
まあそう思う	29.6%	30.5%
どちらともいえない	22.1%	17.9%
あまりそう思わない	11.9%	9.9%
そう思わない	3.4%	1.1%
無回答	1.7%	0.7%

2-2. 人権問題への関心

問2 日本の社会では、女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題、性的少数者などの差別をはじめさまざまな人権問題がありますが、あなたは、人権問題に関心を持っていますか。

- 全体で「関心がある」「少し関心がある」を合わせた割合は85.8%であり、過年度と比較すると、やや増加している。
- 性別では、男性に比べ、女性の方が関心は高くなっている。
- 年代別では、40、50歳代における関心度が他世代に比べやや低い。
- 長野県とは比較し、ほぼ同様の水準である。

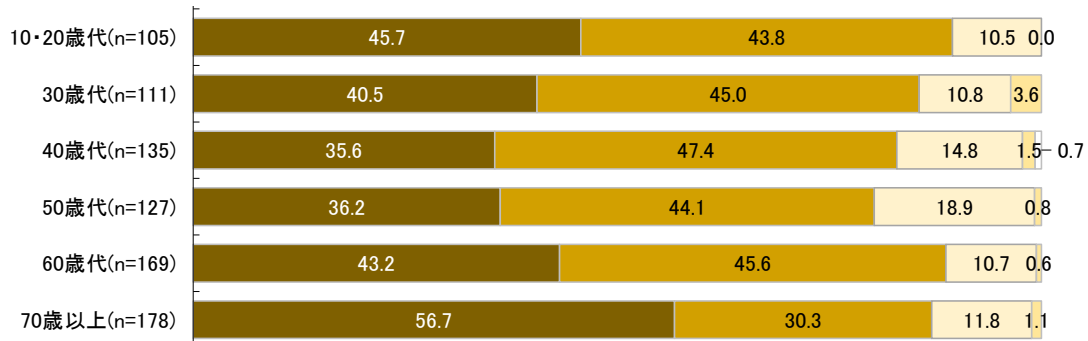
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



◆長野県との比較

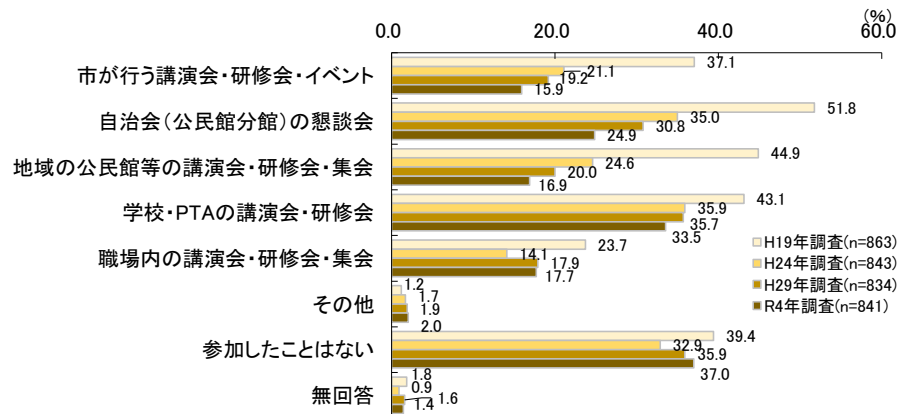
	上田市 (n=841)	長野県 (n=1,300)
関心がある	43.5%	46.2%
少し関心がある	42.3%	40.8%
あまり関心がない	12.7%	11.1%
関心がない	1.3%	1.5%
無回答	0.1%	0.4%

2-3. 人権に関する講演会・研修会・懇談会・学習会・イベントへの参加経験

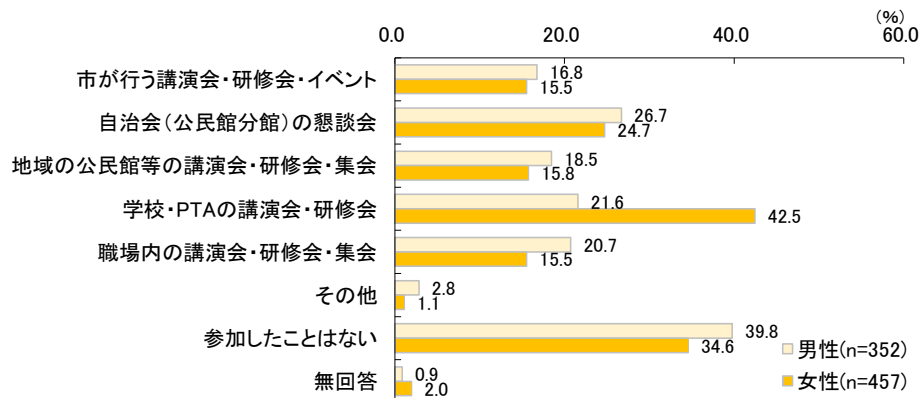
問3 人権に関する講演会・研修会・懇談会・学習会・イベントに参加したことがありますか。(あるものすべてに○)

- 全体で人権に関する講演・研修等への参加経験がある市民の割合は63.0%、参加したことがない割合は37.0%である。過年度と比較し、令和4年度調査ではいずれの講演・研修等において減少傾向が確認され、新型コロナウイルス感染拡大の影響がうかがえる。
- 性別では、総じて男性の方が女性より参加率は高いが、「学校・PTA の講演会・研修会」の割合は女性の方が突出して高い。
- 年代別にみると、「学校・PTA の講演会・研修会」や「職場内の講演会・研修会・集会」を除き、年代が上がるほど参加率が高い。一方、40歳以下の年代では「参加したことがない」の割合が高く、特に30歳代で高い。

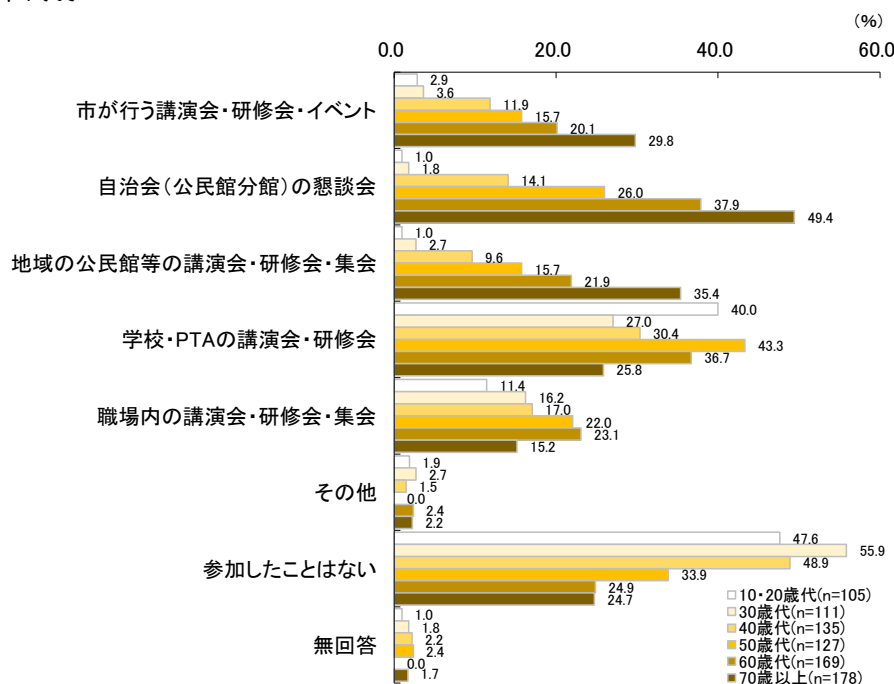
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



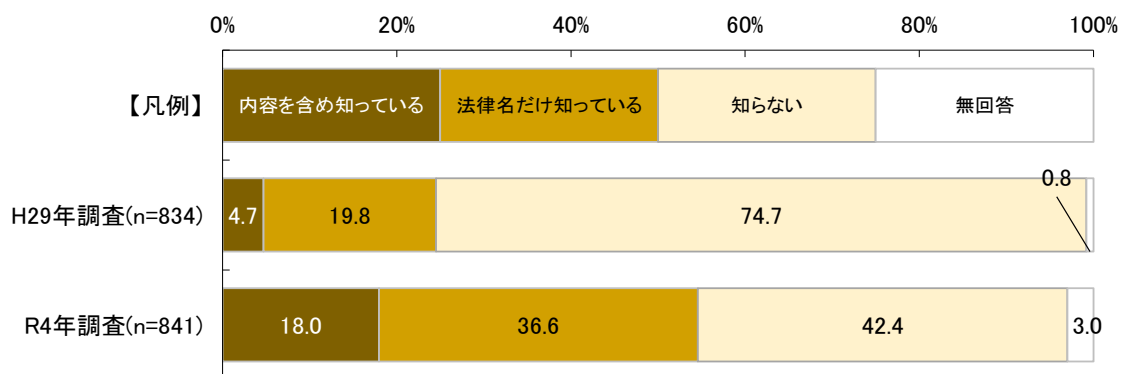
2-4. 各種関連法の認知度

問4 あなたは、次の法律についてご存じですか。

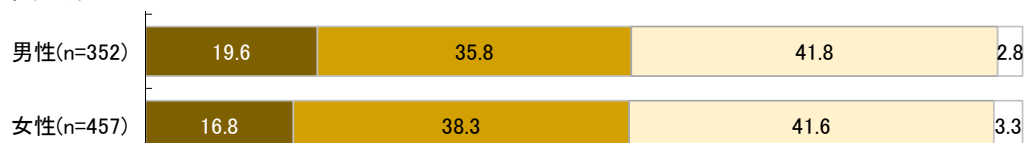
(1) 部落差別解消推進法

- 全体で「内容も含め知っている」の割合は18.0%で、前回調査より13.3ポイントも高くなっている。また、法律名だけの認知度も大きく伸びている。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別では、50歳代以降、年代が上がるほど「内容も含め知っている」の割合が高くなっている。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験では、経験がある人の方が「内容も含め知っている」、「法律名だけ知っている」ともに認知度が高くなっている。

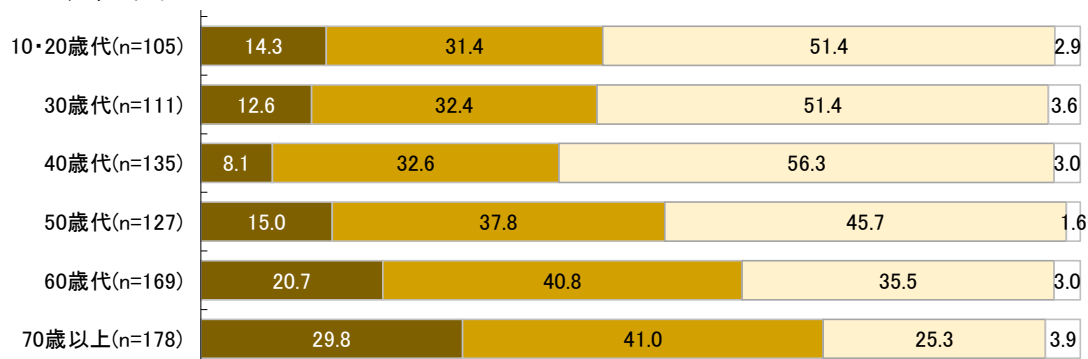
◆全体（経年比較）



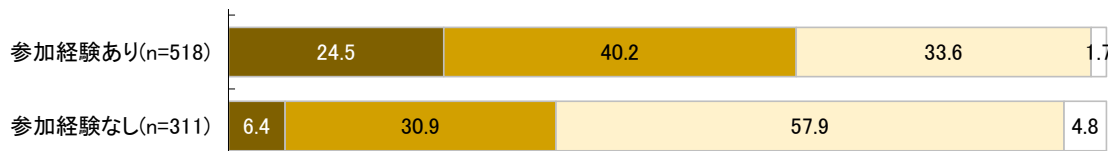
◆性別



◆年代別



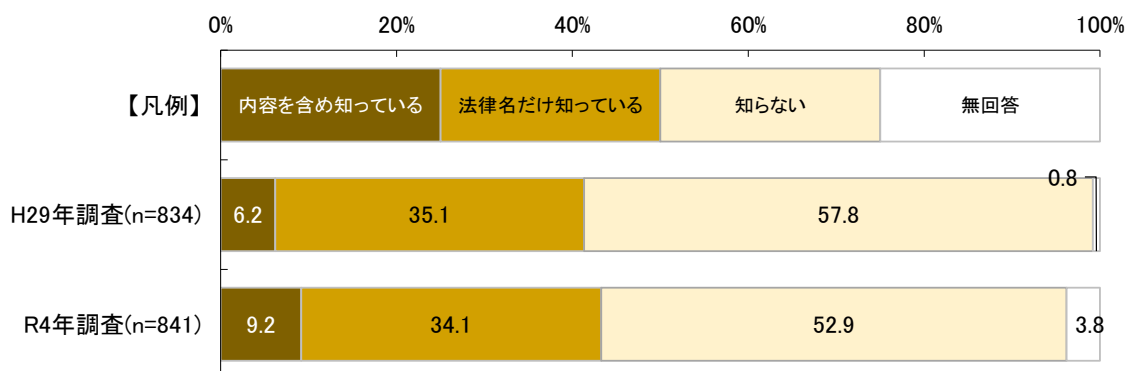
◆人権に関する講演・研修等への参加経験別



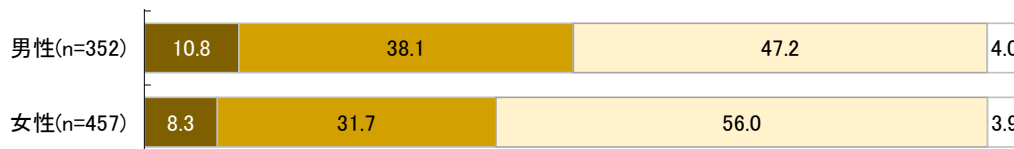
(2) ヘイトスピーチ解消法

- 全体で「内容も含め知っている」の割合は9.2%で、前回調査と比較して微増しているが、全体として大きな変化はみられない。
- 性別では、女性に比べ、男性の方が「内容も含め知っている」の割合が高くなっている。
- 年代別では50、60歳代において、「内容も含め知っている」、「法律名だけ知っている」を合わせた割合は他世代よりも高くなっている。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験がある人の方が認知度が高くなっている。

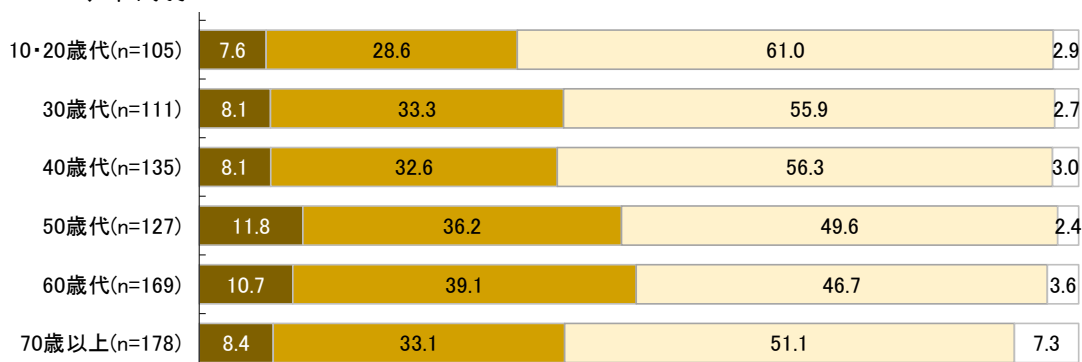
◆全体（経年比較）



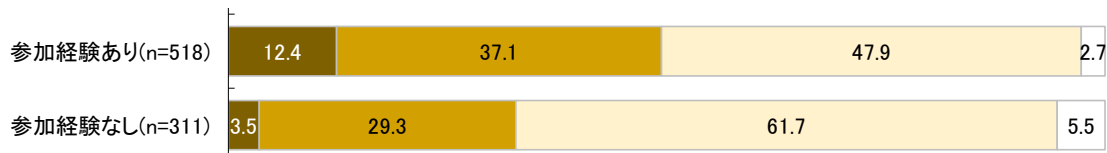
◆性別



◆年代別



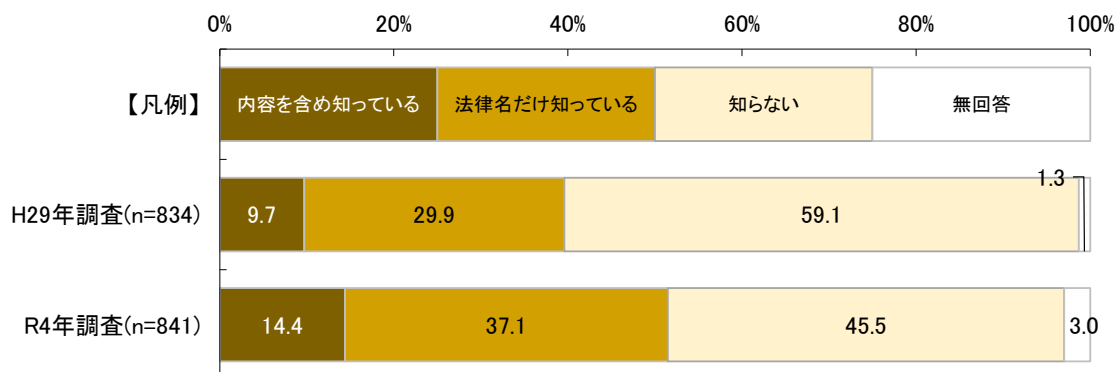
◆人権に関する講演・研修等への参加経験別



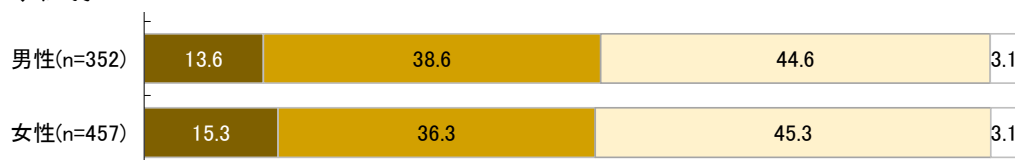
(3) 障害者差別解消法

- 全体で「内容も含め知っている」割合は14.4%で、前回調査と比較して4.7ポイント増加している。また、法律名だけの認知度も合わせて増加している。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別にみると、70代以上で「内容も含め知っている」の割合が20.8%と、他世代に比べて高くなっている。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験がある人の方が認知度が高くなっている。

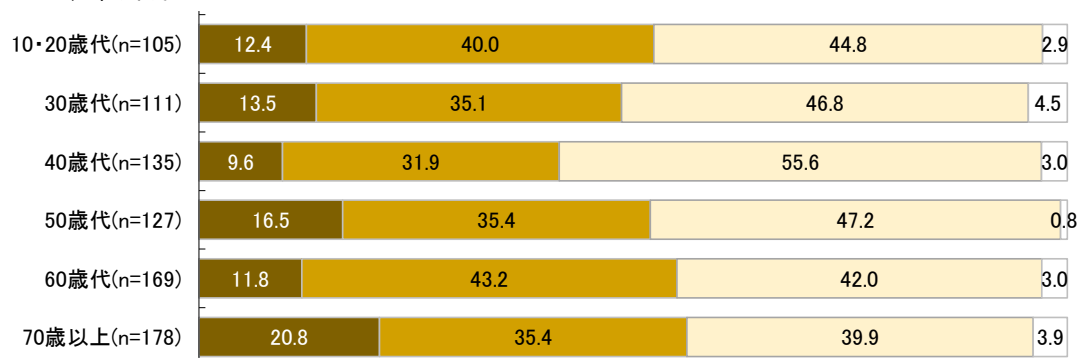
◆全体（経年比較）



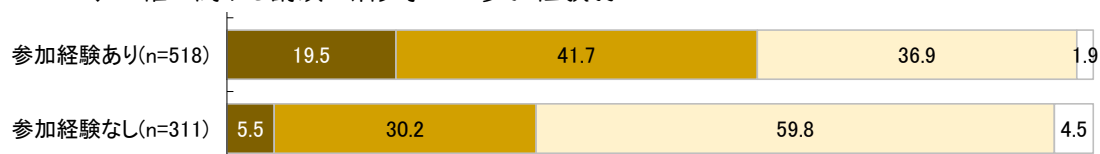
◆性別



◆年代別



◆人権に関する講演・研修等への参加経験別



【小括】人権に関する意識について

- 「人権」に対するイメージ
 - ・ 人権を重要と思う割合は9割以上、自分に関係が深いと思う割合は6割程度である。
 - ・ 重要視はしているものの、自分との関係性はないと思う人が多く、自分事として十分捉えられていない可能性があり、人権に関する継続・発展的な意識啓発が重要と考えられる。
- 人権問題への関心度
 - ・ 85.8%が関心を持っており、過年度に比べやや高まっている。特に、70歳以上の関心が高い。
 - ・ 一方で、40、50代における関心度が4割以下と他世代に比べて低く、この層を中心にさらに関心度を高めることが必要といえる。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験
 - ・ 参加したことがある割合は63.0%、参加したことがない割合は37.0%。
 - ・ 参加経験がない割合は微増しており、その傾向は若い年代で顕著である。若者の学びの機会と関心を喚起する取組強化が求められる。
- 各種関連法の認知度
 - ・ 5年前と比較して各法の認知度は上昇している。
 - ・ 年代が上がるほど内容も含めた認知度は高くなっている。各種関連法における認知度が低い若～中年代層への学習や情報提供が求められる。
 - ・ また、人権に関する講演・研修等への参加経験がある人の方が明らかに認知度は高くなっており、施策の効果があると考えられる。

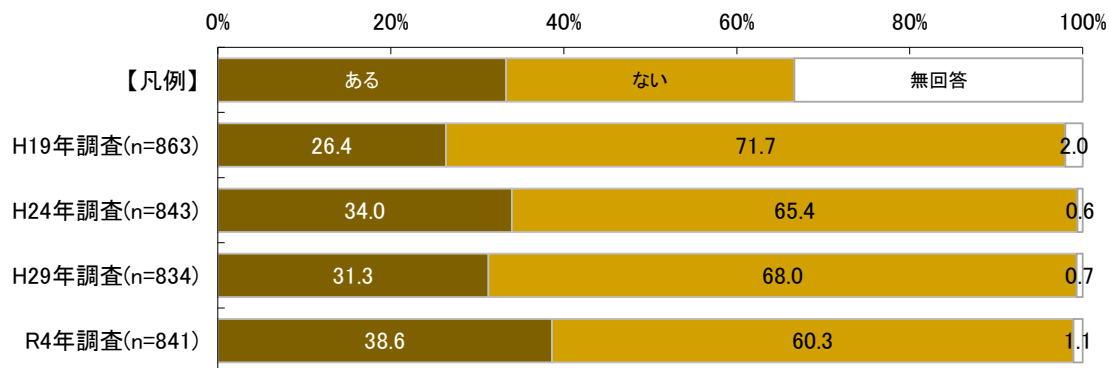
3. 人権侵害の経験について

3-1. 人権侵害の経験の有無

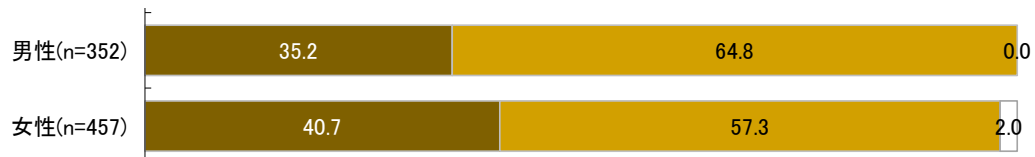
問5 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

- 全体で人権侵害の経験が「ある」と回答した割合は、38.6%であり、過年度と比較して最も高くなっている。
- 男性に比べ、女性で「ある」と回答した割合がやや高くなっている。
- 年代別では、10・20歳代で「ある」と回答した割合が他世代に比べやや高くなっている。

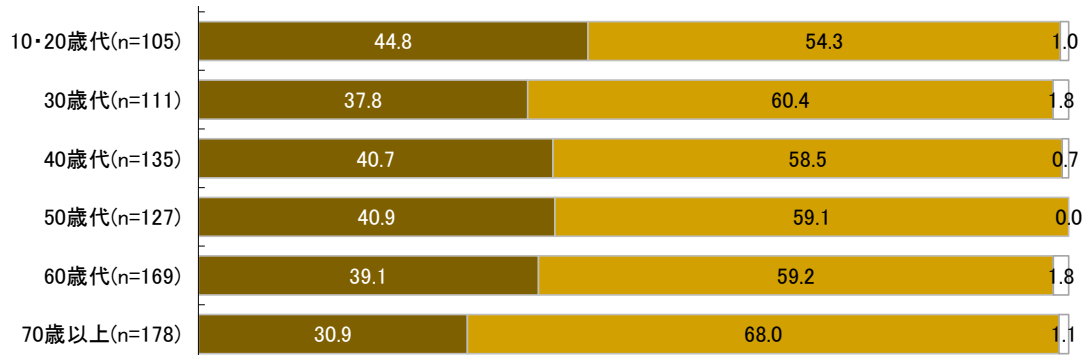
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



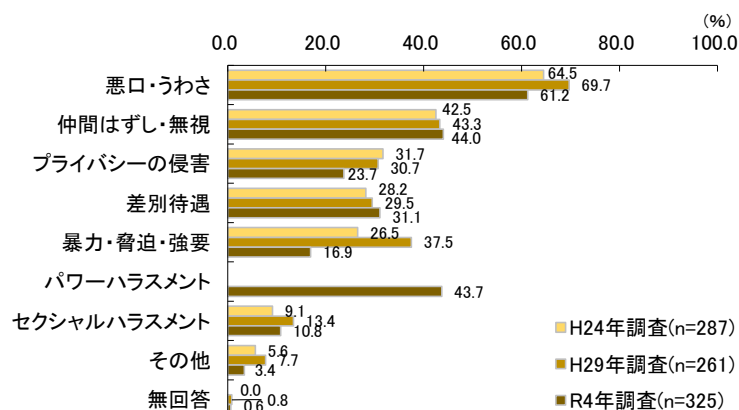
●人権侵害が「ある」と答えた方

3-2. 人権侵害の内容

問5-1 その人権侵害はどのようなものでしたか。(あてはまるものすべてに○)

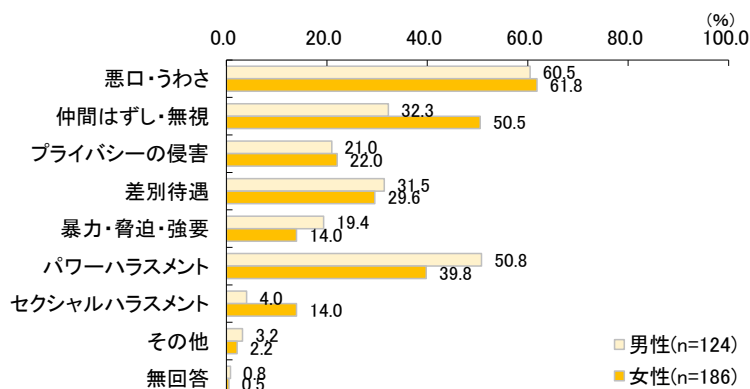
- 全体では「悪口・うわさ」の割合が61.2%と最も高く、次いで「仲間はずし・無視」、「パワー・ハラスメント」の割合が高くなっている。
- 性別では、男性では「パワー・ハラスメント」の割合が、女性では「仲間はずし・無視」の割合が高くなっている。
- 年代別では、どの年代においても「悪口・うわさ」の割合は高く、特に10・20歳代で高い。また、30歳代以降では、年代が若いほど「仲間はずし・無視」、「パワー・ハラスメント」の割合が高い一方、年代が上がるほど「差別待遇」を受けた割合が高くなっている。

◆全体(経年比較)

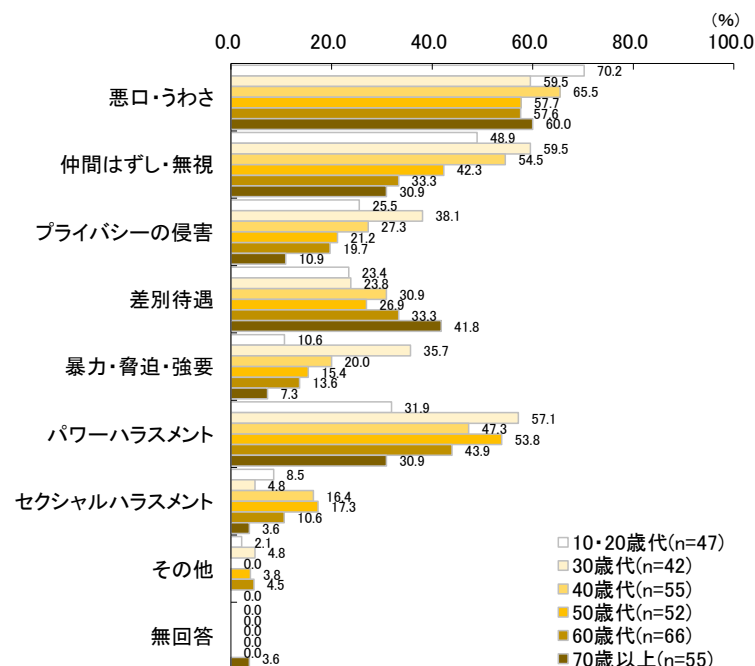


※H24年、H29年調査では、「暴力・脅迫・強要（パワー・ハラスメント含む）」の選択肢だったが、R4年調査では「暴力・脅迫・強要」と「パワー・ハラスメント」の2つの選択肢に分かれているため、単純に比較できない。

◆性別



◆年代別

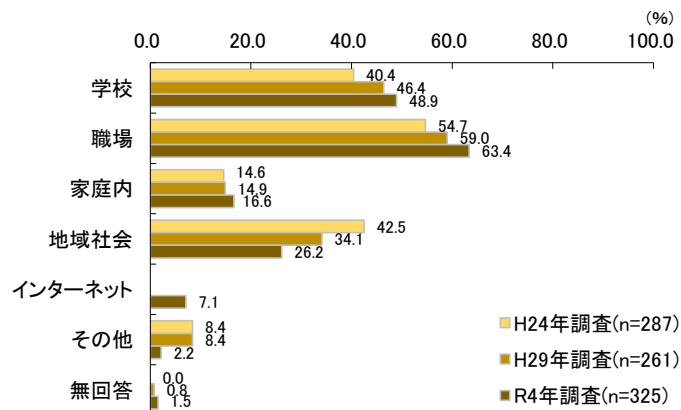


3-3. 人権侵害のあった場所

問5-2 その人権侵害はどこでありましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「職場」の割合が63.4%と最も高く、次いで「学校」の割合が高くなっている。過年度と比較すると、「学校」「職場」における人権侵害がともに増加傾向にある。一方で、「地域社会」における人権侵害は減少傾向がみられる。
- 人権侵害のあった場所を人権侵害の内容別にみると、「学校」では、「仲間はずし・無視」が7割以上、「職場」では「セクシャルハラスメント」や「パワーハラスメント」が9割以上と高い。「家庭」では「暴力・脅迫・強要」、「地域社会」では「セクシャルハラスメント」の割合が高くなっている。

◆全体（経年比較）

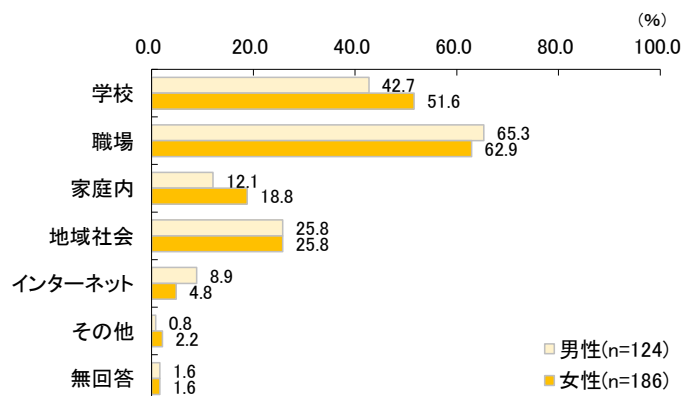


◆人権侵害の内容別 人権侵害のあった場所

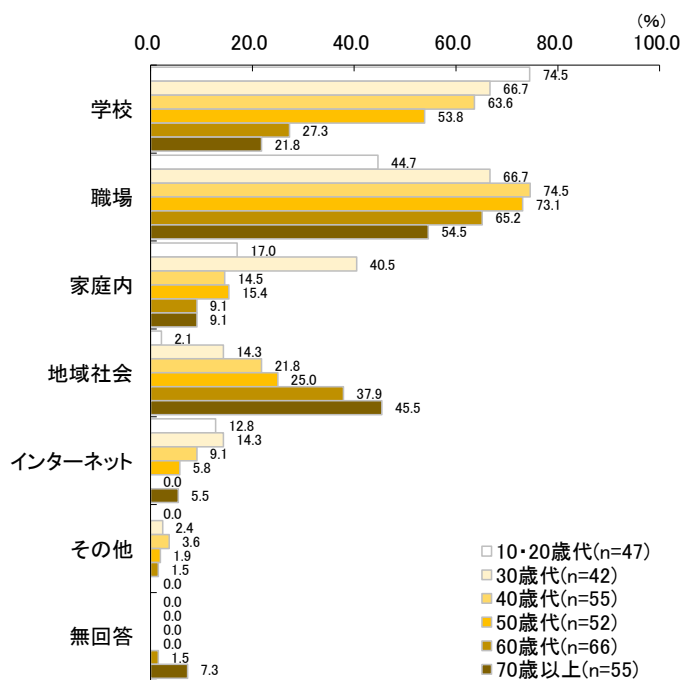
	学校	職場	家庭内	地域社会	インターネット	その他	無回答
悪口・うわさ(n=197)	65.5%	63.5%	15.7%	28.9%	8.6%	1.5%	1.0%
仲間はずし・無視(n=141)	73.8%	63.1%	17.7%	27.7%	7.8%	1.4%	1.4%
プライバシーの侵害(n=76)	48.7%	72.4%	22.4%	39.5%	11.8%	2.6%	1.3%
差別待遇(n=100)	51.0%	74.0%	18.0%	36.0%	7.0%	3.0%	1.0%
暴力・脅迫・強要(n=54)	64.8%	68.5%	42.6%	31.5%	11.1%	5.6%	1.9%
パワーハラスメント(n=139)	45.3%	90.6%	15.8%	23.7%	7.2%	2.2%	2.2%
セクシャルハラスメント(n=35)	68.6%	94.3%	17.1%	42.9%	2.9%	8.6%	0.0%
その他(n=11)	36.4%	27.3%	45.5%	18.2%	0.0%	27.3%	0.0%

- 性別では、男女ともに「学校」「職場」の割合が高いが、女性では「学校」や「家庭」の割合が、また、男性では、「職場」や「インターネット」の割合がやや高くなっている。
- 年代別では、10・20歳代は「学校」、30歳代以上は「職場」、70歳代以上は「地域社会」と世代によって人権侵害を受ける場所の違いがみられる。

◆性別



◆年代別

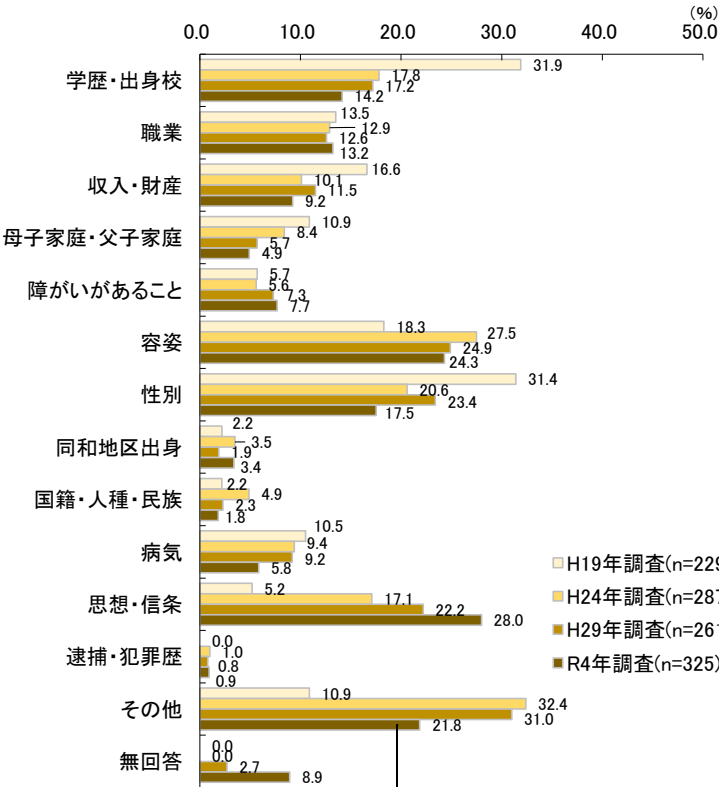


3-4. 人権侵害を受けた理由

問5-3 それは、どのような理由による人権侵害ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「思想・信条」が28.0%と最も高い(※)。一方、過年度で割合が高かった「学歴・出身校」や「性別」の割合は減少傾向にある。
- 人権侵害の内容別に理由をみると、「思想・信条」や「性別」を理由に、「セクシャルハラスメント」を受けた割合が高く、また、「容姿」を理由にして「仲間はずし・無視」を受けた割合がやや高くなっている。

◆全体(経年比較)



<その他理由>

- ・理由は分からない／特に明確な理由はない
- ・相手の気分
- ・親の職業や学歴、出身地
- ・恨み、妬み
- ・育ち、性格 など

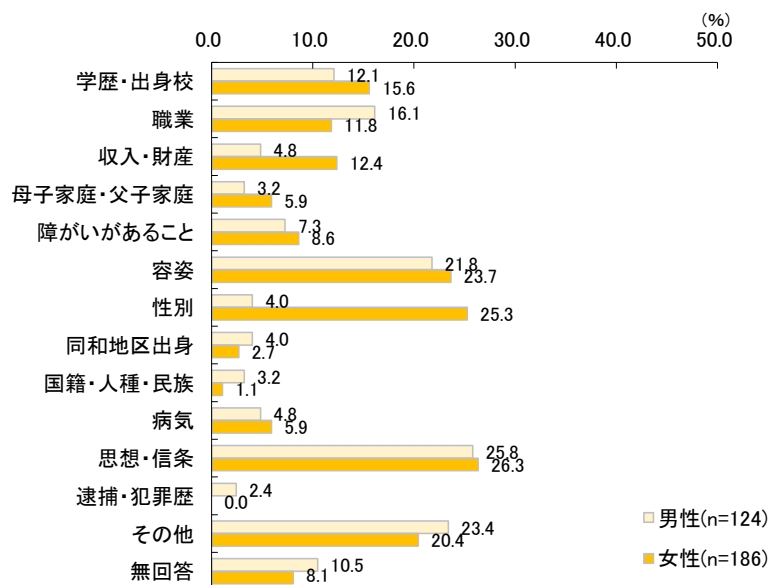
※「思想・信条」の選択肢がR4年調査では「思想・信条(考え方、価値観などを含む)」に変わっており、単純に比較はできない。

◆人権侵害の内容別 人権侵害を受けた理由

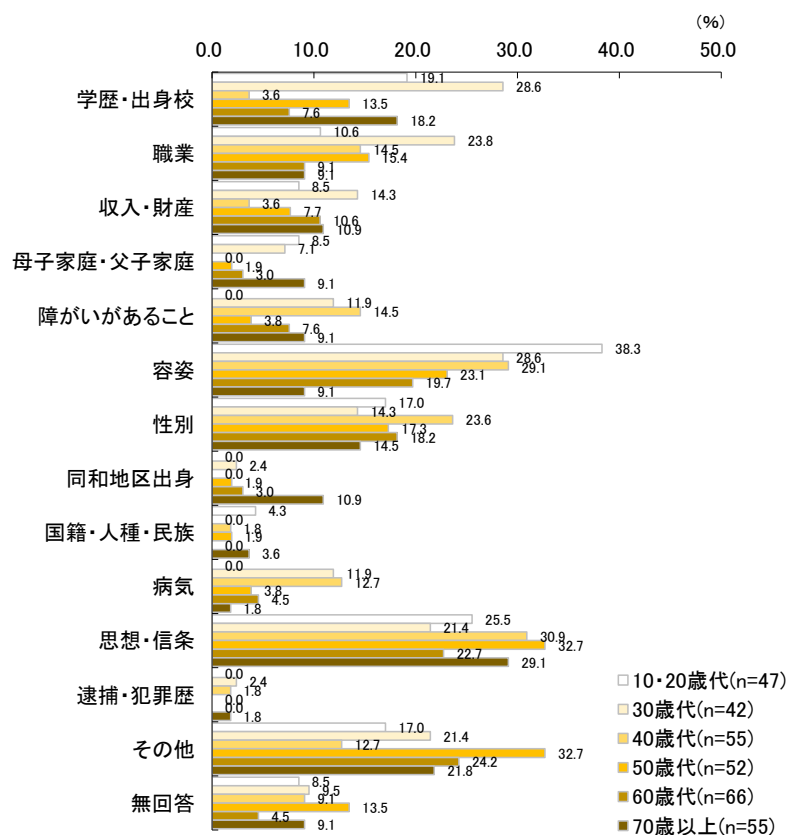
	学歴・出身校	職業	収入・財産	母子家庭・父子家庭	障がいがあること	容姿	性別	同和地区出身	国籍・人種・民族	病気	思想・信条	逮捕・犯罪歴	その他	無回答
悪口・うわさ(n=183)	16.4%	12.6%	10.4%	4.9%	9.8%	36.1%	18.0%	2.2%	1.6%	7.7%	34.4%	0.5%	20.8%	8.7%
仲間はずし・無視(n=130)	17.7%	13.8%	10.8%	5.4%	8.5%	43.8%	16.9%	0.8%	2.3%	10.0%	29.2%	0.8%	23.8%	10.0%
プライバシーの侵害(n=70)	21.4%	24.3%	12.9%	8.6%	11.4%	34.3%	21.4%	1.4%	1.4%	8.6%	37.1%	2.9%	24.3%	10.0%
差別待遇(n=97)	20.6%	14.4%	16.5%	10.3%	13.4%	26.8%	26.8%	4.1%	4.1%	10.3%	29.9%	1.0%	21.6%	4.1%
暴力・脅迫・強要(n=51)	19.6%	25.5%	17.6%	7.8%	13.7%	33.3%	23.5%	0.0%	3.9%	11.8%	43.1%	0.0%	23.5%	7.8%
パワーハラスメント(n=128)	19.5%	22.7%	9.4%	7.0%	6.3%	30.5%	24.2%	2.3%	2.3%	7.8%	38.3%	0.8%	25.8%	10.9%
セクシャルハラスメント(n=35)	20.0%	20.0%	14.3%	8.6%	5.7%	34.3%	71.4%	2.9%	2.9%	8.6%	57.1%	0.0%	17.1%	0.0%
その他(n=11)	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	18.2%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	54.5%	0.0%

- 性別では、男性は「思想・信条」「容姿」「職業」の順で割合が高く、女性では「思想・信条」「性別」「容姿」の順となっている。特に女性では「性別」を理由に挙げる割合が突出して高くなっている。
- 年代別では、若い世代ほど「容姿」を理由に挙げる割合が高く、特に10・20歳代で突出して高くなっている。30歳代以降では、若い世代ほど「職業」の割合が高い。また、70代以上では、「同和地区出身」の割合が他世代に比べて高くなっている。

◆性別



◆年代別

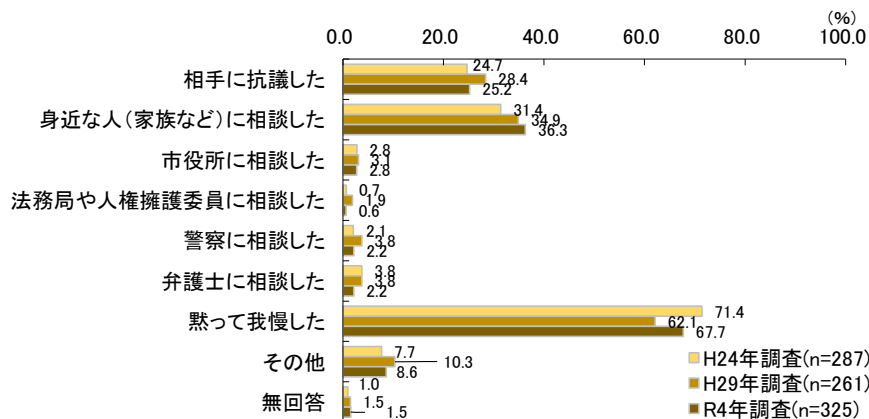


3-5. 人権侵害を受けた時の対応

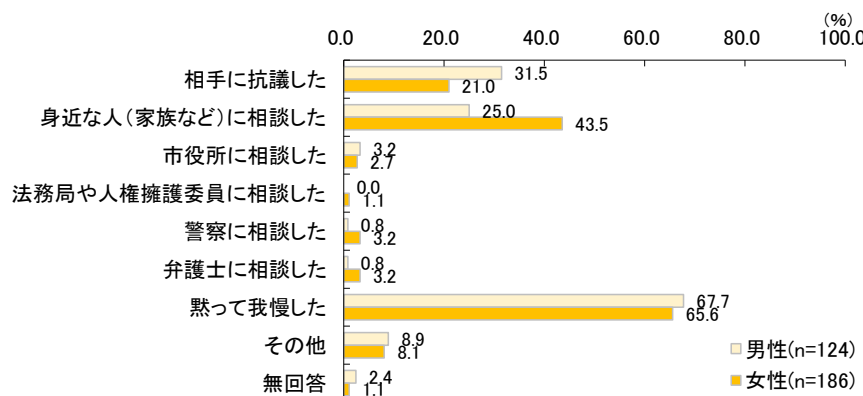
問5-4 そのとき、どのような対応をしましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「黙って我慢した」が67.7%と最も高く、過年度と同様の傾向である。「身近な人(家族など)に相談した」と回答する割合は微増している。
- 「身近な人(家族など)に相談した」については男性より女性が18.5ポイントも高く、一方「相手に抗議した」については女性より男性が10.5ポイント高くなっている。
- 年代別では、「身近な人に相談した」の割合が若い世代で高く、特に30歳代で高くなっている。

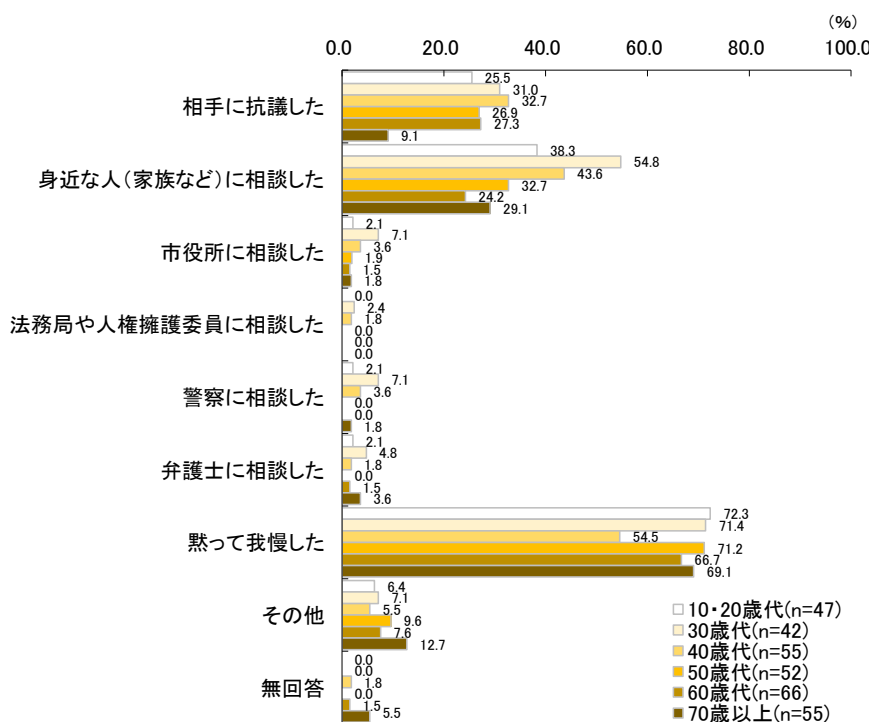
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



【小括】人権侵害の経験について

- 人権侵害の経験の有無
 - ・ 「ある」と回答した割合は38.6%と過年度と比較して最も高くなっている。
- 人権侵害の内容・場所・受けた理由
 - ・ 性別問わず、「悪口・うわさ」が高くなっている。
 - ・ また、男性では「パワーハラスメント」、女性では、「仲間はずし・無視」や「セクシャルハラスメント」を受ける傾向がみられる。
 - ・ 特に、「学校」において「悪口・うわさ」や「仲間はずし・無視」、職場では「セクシャルハラスメント」や「パワーハラスメント」が引き起こされる傾向がみられる。
 - ・ 「容姿」を理由にして「仲間はずし・無視」を受けたり、「思想・信条」や「性別」を理由に「セクシャルハラスメント」を受ける傾向がみられる。
 - ・ 固定的な役割分担意識をはじめ、考え方や価値観などの違いによって人権問題が引き起こされていると考えられる。
- 人権侵害を受けた時の対応
 - ・ 「黙って我慢した」と回答する割合は約7割と、誰にも相談できずにいる割合が依然として高い。
 - ・ 人権被害にあったときの相談窓口の充実など、セーフティネットの整備やそれらの周知が重要である。

4. 各分野における人権課題に関する意識について

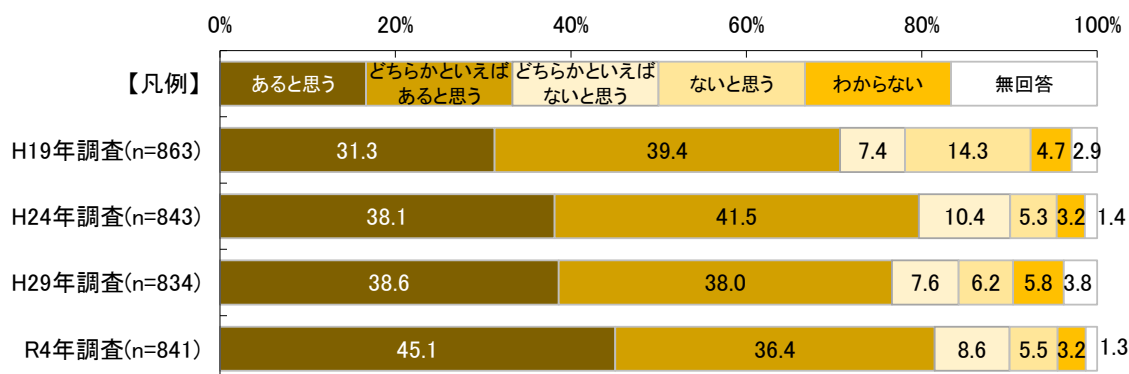
4-1. 女性に対する人権意識について

(1) 女性に対する差別・偏見への考え

問6 あなたは、現在の社会で女性に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は81.5%となっている。「あると思う」割合は過年度と比較して増加傾向がみられる。
- 性別では、男性に比べ、当事者である女性の方が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は85.6%と、高くなっている。
- 年代別では、40歳代の「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は、他世代に比べ、やや低くなっている。

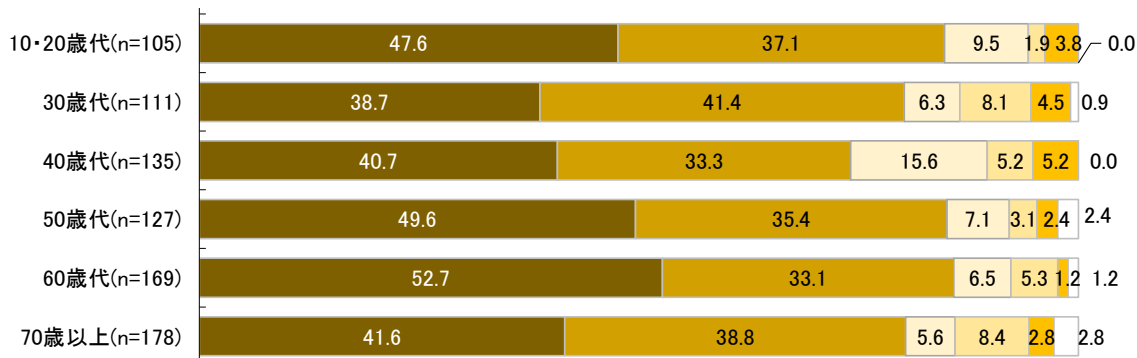
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



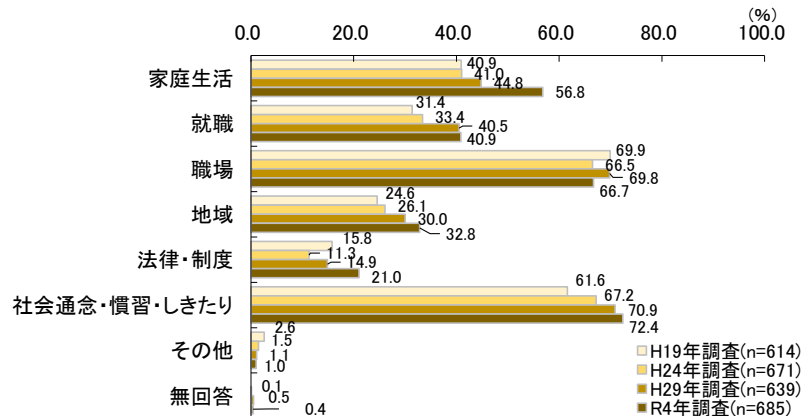
●女性に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方

(2) 女性に対する差別・偏見があると思う場面

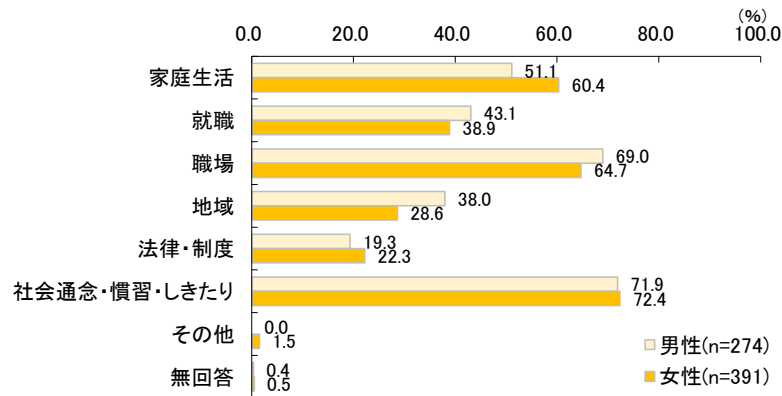
問6-1 どのような面で女性に対する差別・偏見があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「社会通念・慣習・しきたり」の割合が72.4%と最も高く、次いで「職場」、「家庭生活」となっている。過年度と比較すると、「職場」以外の項目で増加傾向がみられる。
- 性別でみると、女性では「家庭生活」の割合が高く、男性では「地域」の割合が高くなっている。
- 年代別では、「家庭生活」では40歳代以下の割合が高く、「職場」では40～60歳代の割合が、他世代に比べてやや高くなっている。

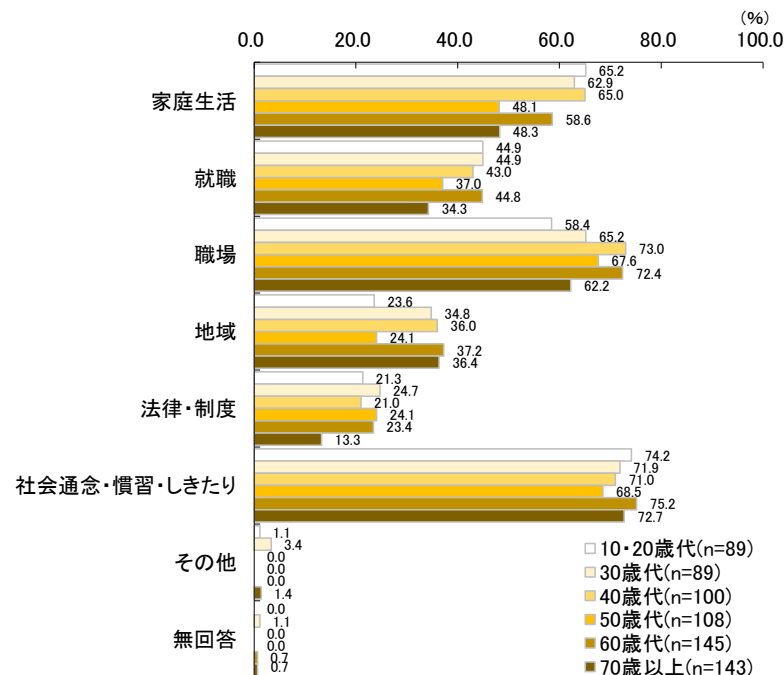
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



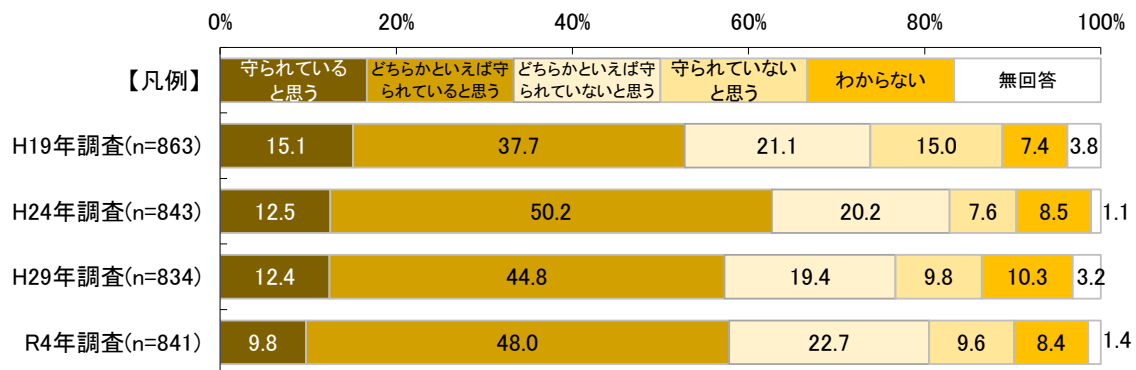
4-2. 子どもに対する人権意識について

(1) 子どもの人権に対する考え

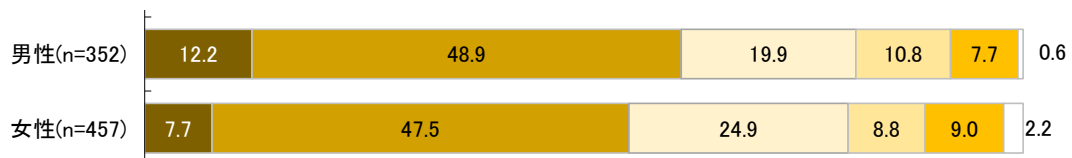
問7 あなたは、現在の社会で子どもの人権が守られていると思いますか。

- 全体で「守られていると思う」「どちらかといえば守られていると思う」を合わせた割合は、57.8%となっている。過年度と比較すると、「守られていると思う」の割合はやや減少している。
- 性別では、男性に比べ、女性の方が「守られていると思う」「どちらかといえば守られていると思う」を合わせた割合が低くなっている。
- 年代別では、70歳代以上を除いたほとんどの世代で、「守られていると思う」の割合が1割程度と低い。

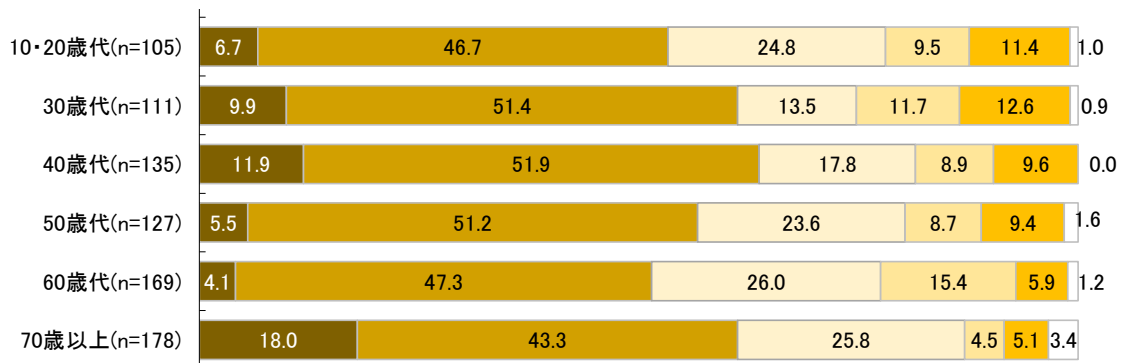
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



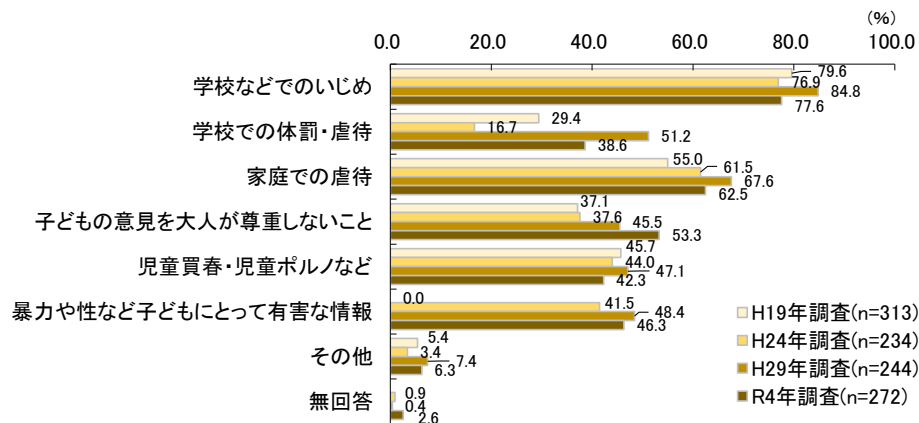
●子どもの人権が「守られていないと思う」「どちらかといえば守られていないと思う」と答えた方

(2) 子どもの人権が守られていないと思う場面

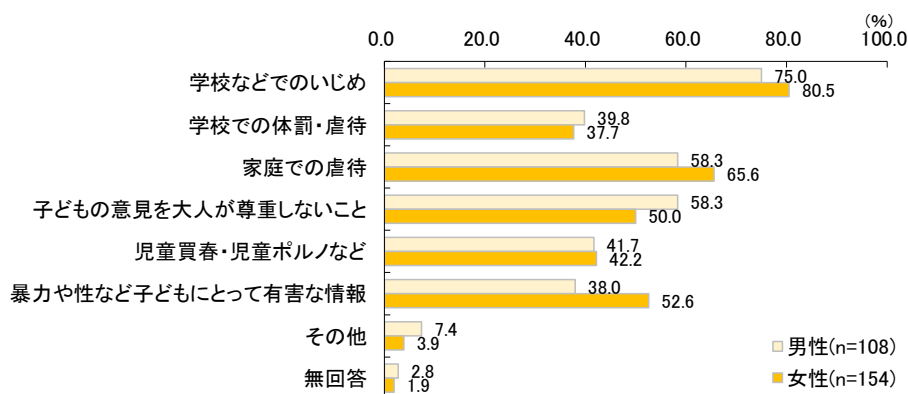
問7-1 どのような面で子どもの人権が守られていないと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「学校などでのいじめ」が77.6%と最も高い。次いで「家庭での虐待」、「子どもの意見を大人が尊重しないこと」。
- 性別では、男性に比べ、女性の方が「学校などでのいじめ」「学校での虐待」「暴力や性など子どもにとって有害な情報」の割合が高い。また、男性では女性に比べ、「子どもの意見を大人が尊重しないこと」の割合がやや高くなっている。
- 年代別では、年代が上がるほど「家庭での虐待」や「学校での体罰・虐待」の割合が高くなっている。一方、「子どもの意見を大人が尊重しないこと」と回答する割合は若い世代で高く、特に30歳代で高い。

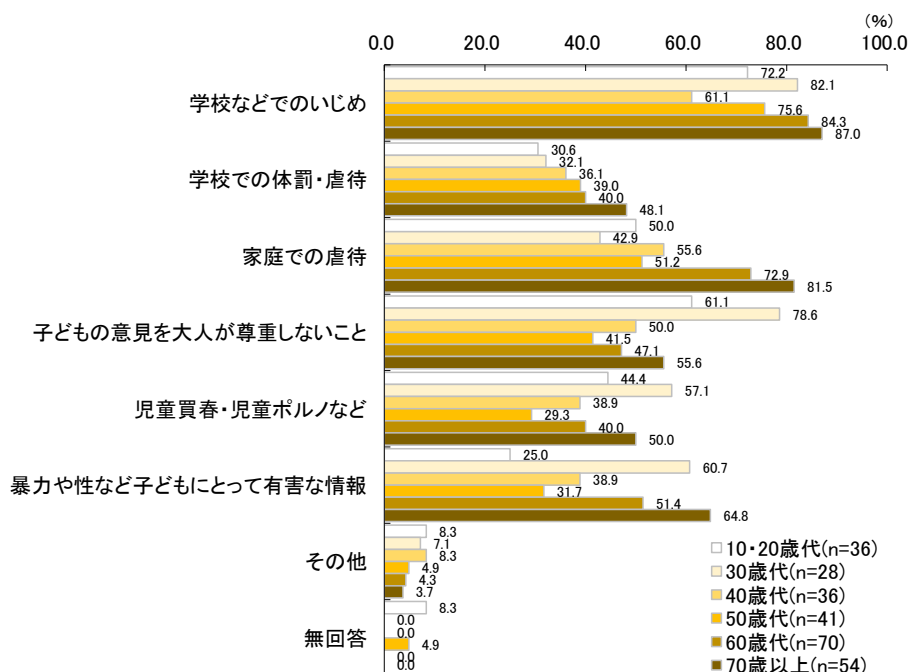
◆全体(経年比較)



◆年代別



◆年代別



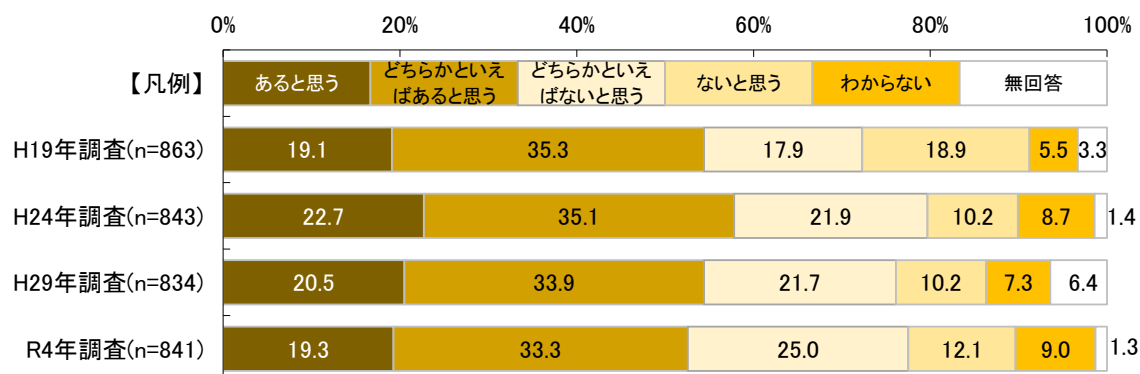
4-3. 高齢者に対する人権意識について

(1) 高齢者に対する差別・偏見への考え

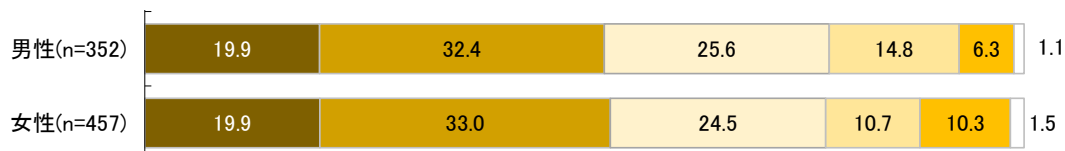
問8 あなたは、現在の社会で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は、52.6%で、過年度と比較して微減している。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別でみると、他世代に比べ、50、60歳代で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合が高くなっている。

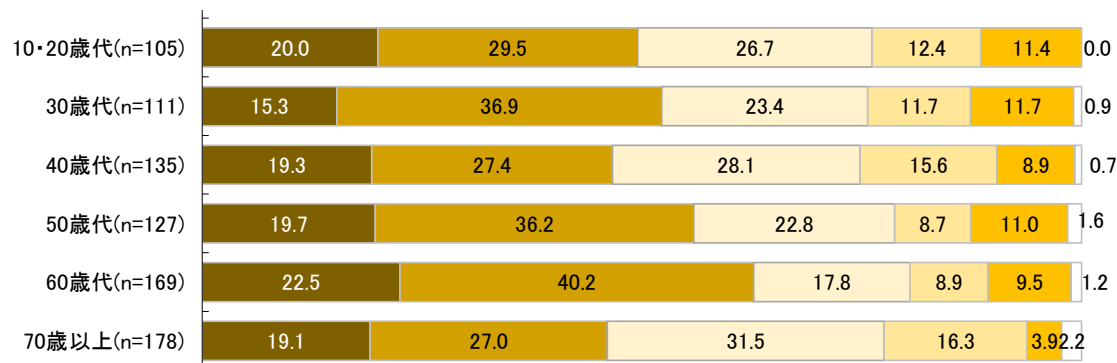
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



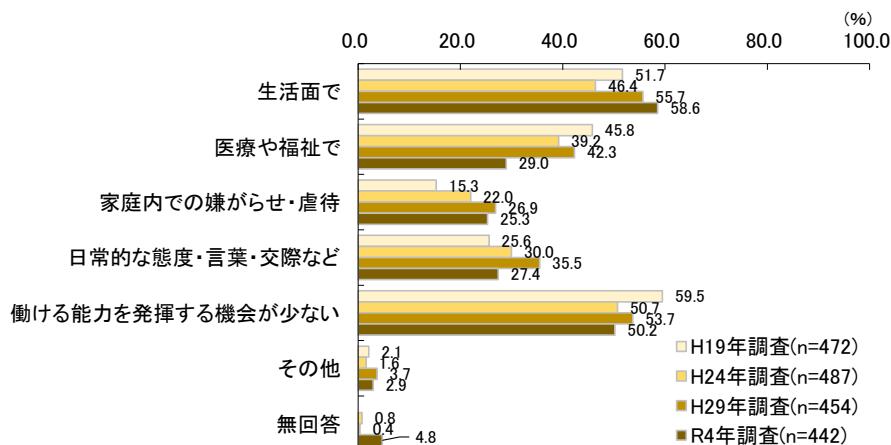
●高齢者に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きます

(2) 高齢者に対する差別・偏見があると思う場面

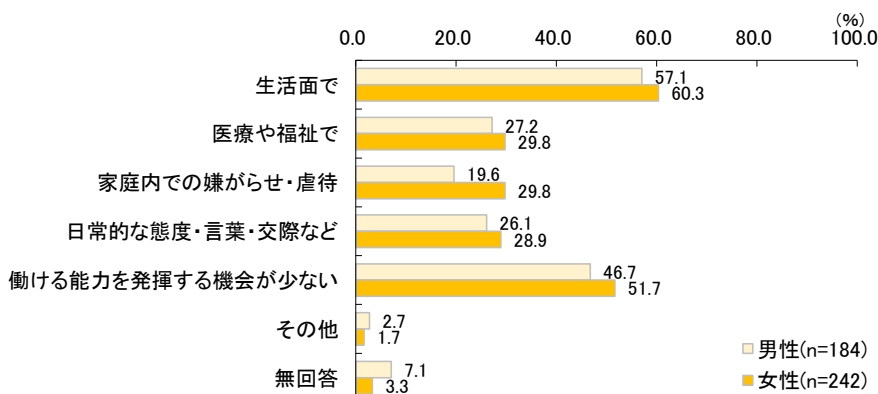
問8-1 どのような面で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「生活面で」と回答する割合が58.6%と最も高く、次いで「働ける能力を発揮する機会が少ない」となっている。過年度と比較すると、「医療や福祉で」、「働ける能力を発揮する機会が少ない」で減少傾向がみられる。
- 男性に比べ、女性では「家庭内での嫌がらせ・虐待」の割合が高くなっている。
- 年代別では、「日常的な態度・言葉・交際など」の割合が60歳代、70歳代以上で高くなっている。

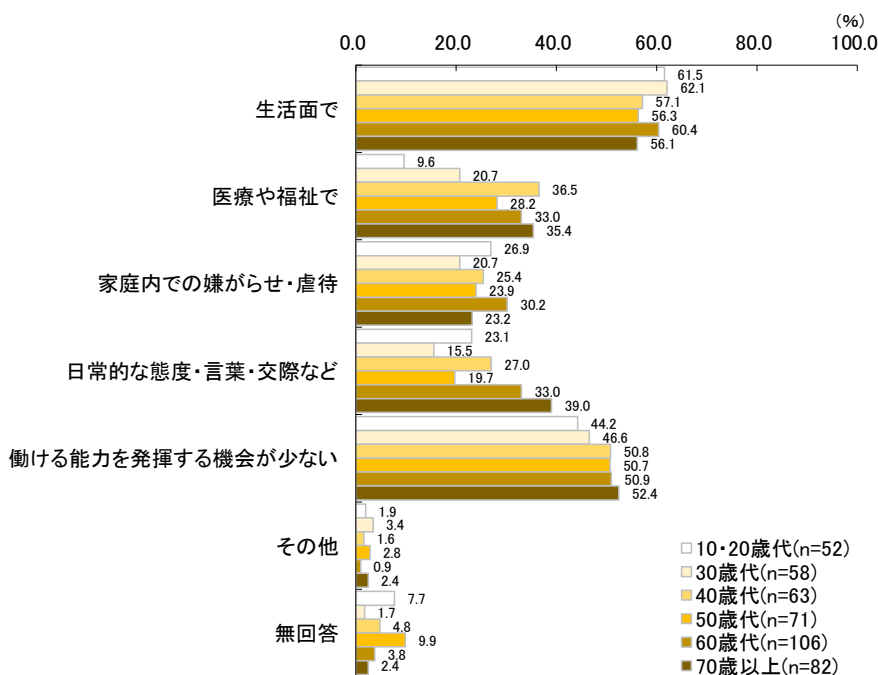
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



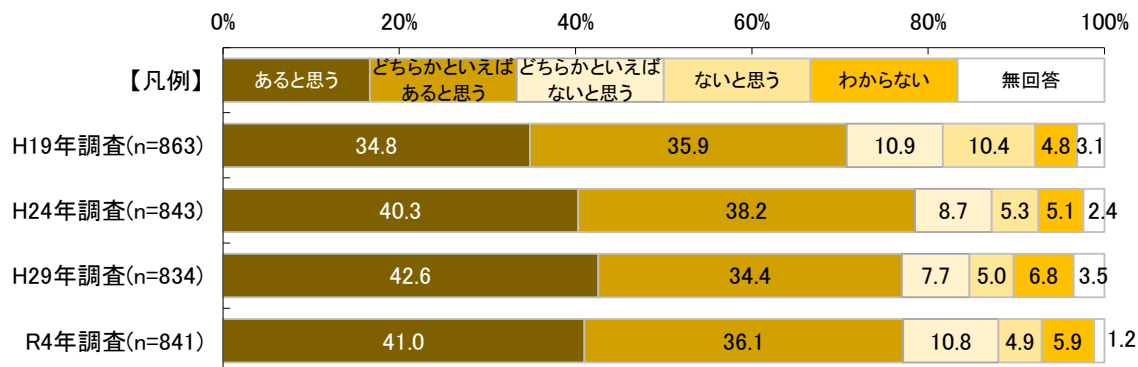
4-4. 障がいのある人に対する人権意識について

(1) 障がいのある人に対する差別・偏見への考え

問9 あなたは、現在の社会で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は 77.1%となっている。過年度と比較して大きな変化はみられない。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別でみると、10・20歳代で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合が他世代と比べて最も高く、年代が上がるにつれて低くなっている。

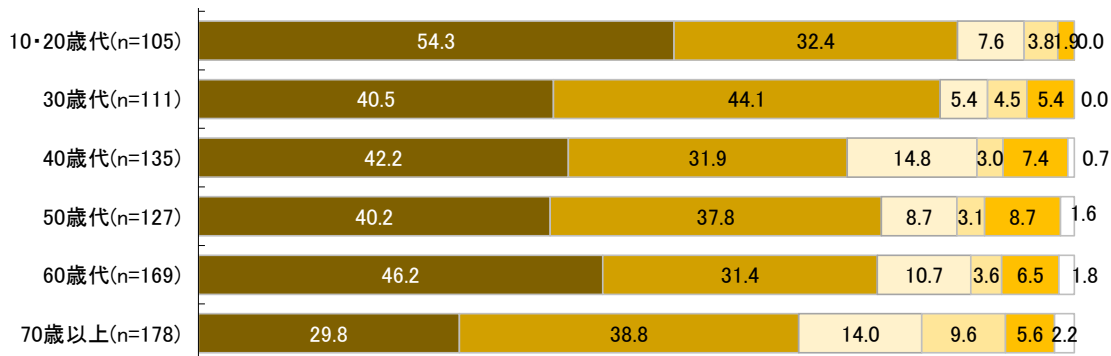
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



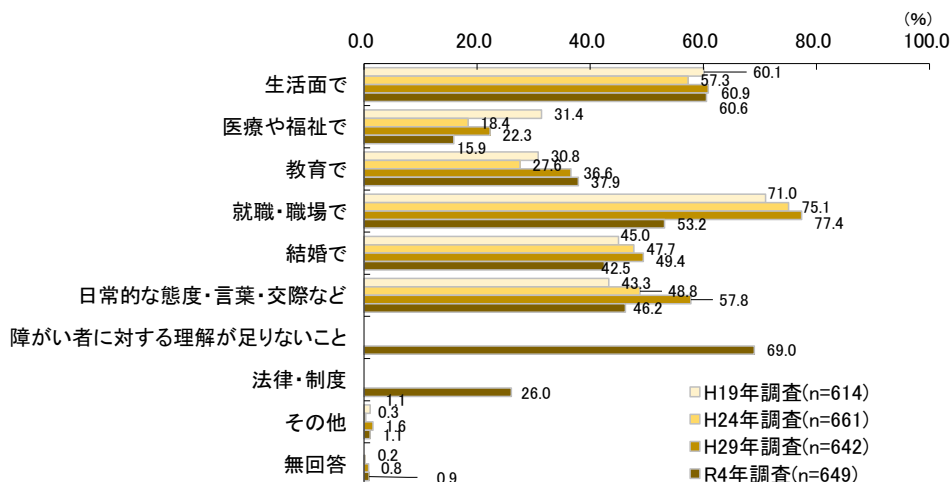
●障がい者に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方

(2) 障がいのある人に対する差別・偏見があると思う場面

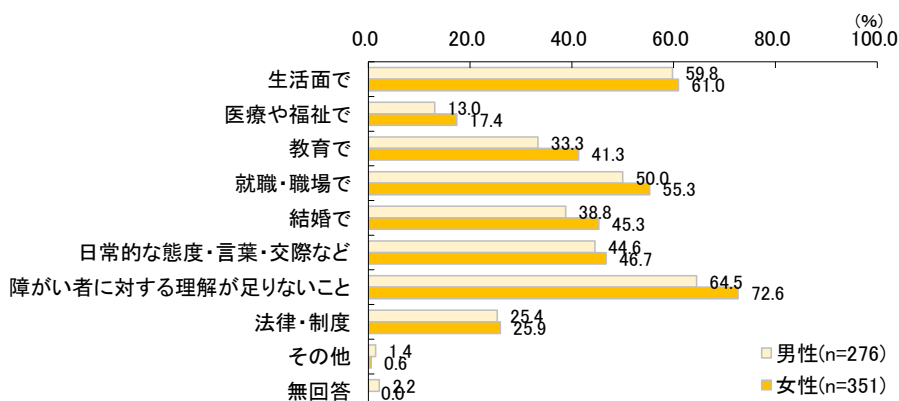
問9-1 どのような面で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「障がい者に対する理解が足りないこと」の割合が69.0%と最も高く、次いで「生活面で」、「就職・職場で」となっている。
- 多くの項目において、男性に比べ、女性の回答割合が高くなっている。
- 年代別では、10・20歳代では「教育で」や「日常的な態度・言葉・交際など」の割合が特に高い。30歳代以降では、若い世代ほど「障がい者に対する理解が足りないこと」の割合が高い。一方、60歳代、70歳以上では「就職・職場で」や「結婚で」の割合が高くなっている。

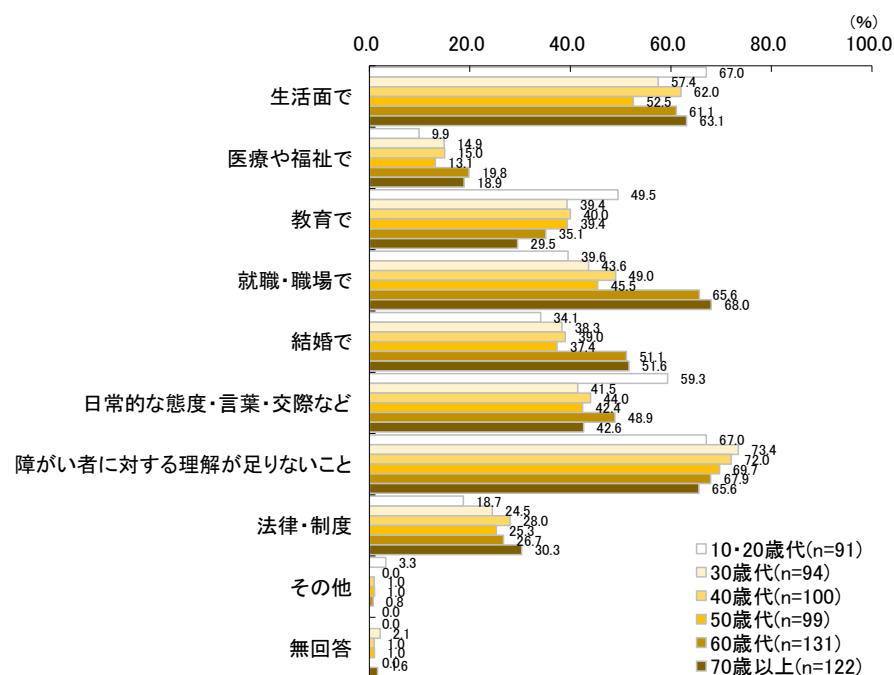
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



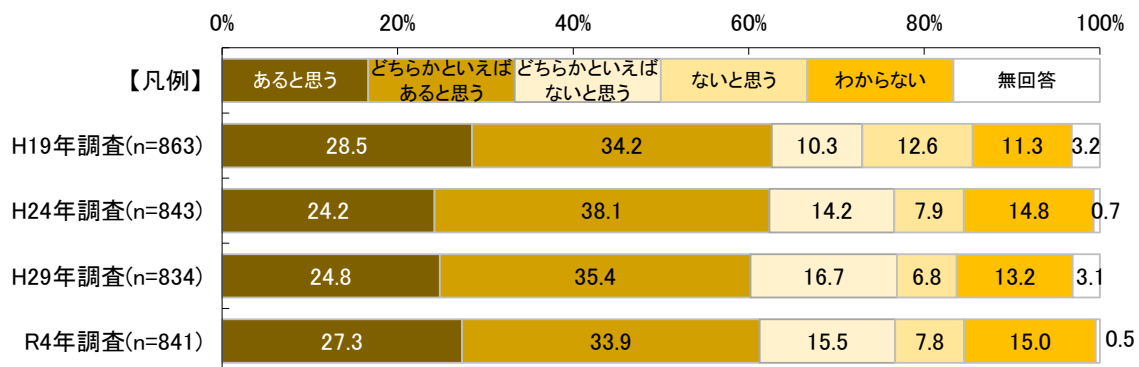
4-5. 外国人に対する意識について

(1) 外国人に対する差別・偏見への考え

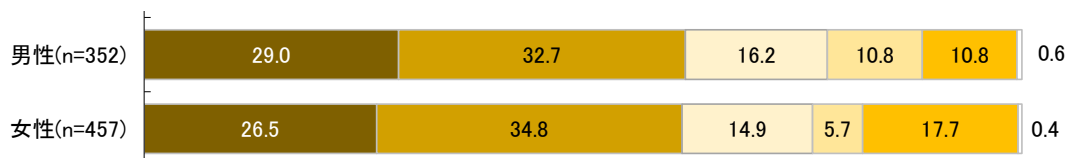
問10 あなたは、現在の社会で日本に居住している外国人に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は61.2%となっている。過年度と比べて大きな差はみられない。
- 男性に比べ、女性の方が「わからない」の割合が高くなっている。
- 年代別でみると、50、60歳代で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合が、他世代に比べて高くなっている。

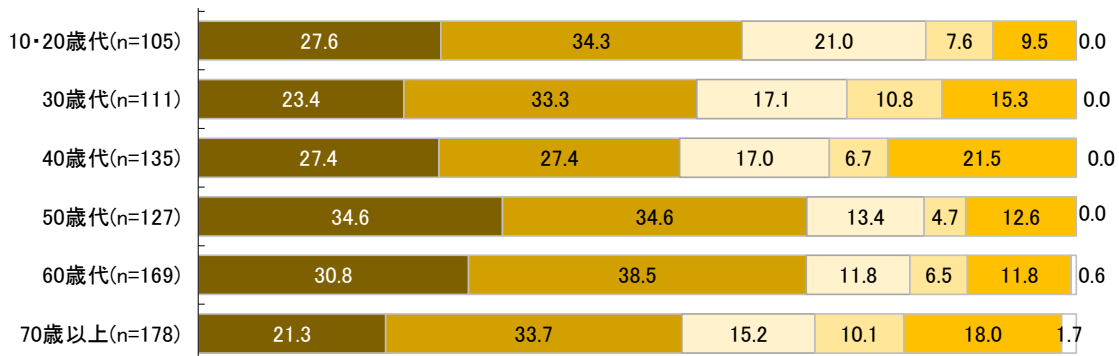
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



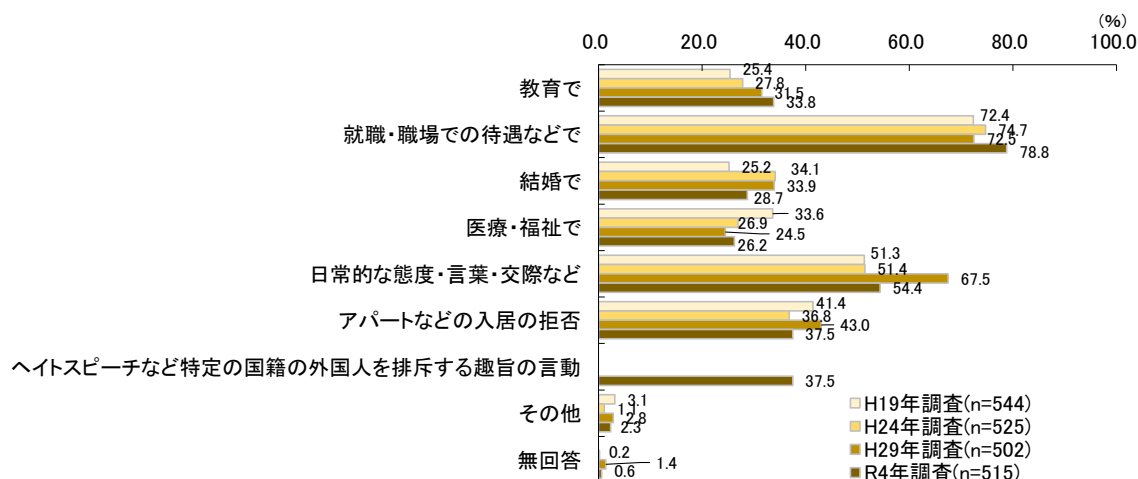
●外国人に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方

(2) 外国人に対する差別・偏見があると思う場面

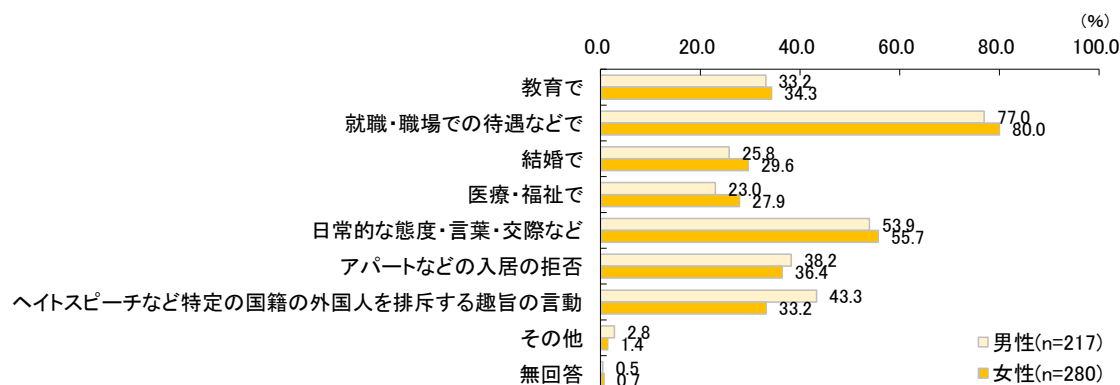
問10-1 どのような面で外国人に対する差別・偏見があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「就職・職場での待遇などで」が78.8%と最も高く、過年度と比較して微増している。また、「教育で」もやや増加傾向にある一方、「医療・福祉で」はやや減少傾向にある。
- 多くの項目において、男性に比べ、女性の回答割合が高くなっている。
- 年代別では、10・20歳代で「日常的な態度・言葉・交際など」の割合が、他世代に比べて高い。一方、年代が上がるほど「医療・福祉」の割合が高くなっている。

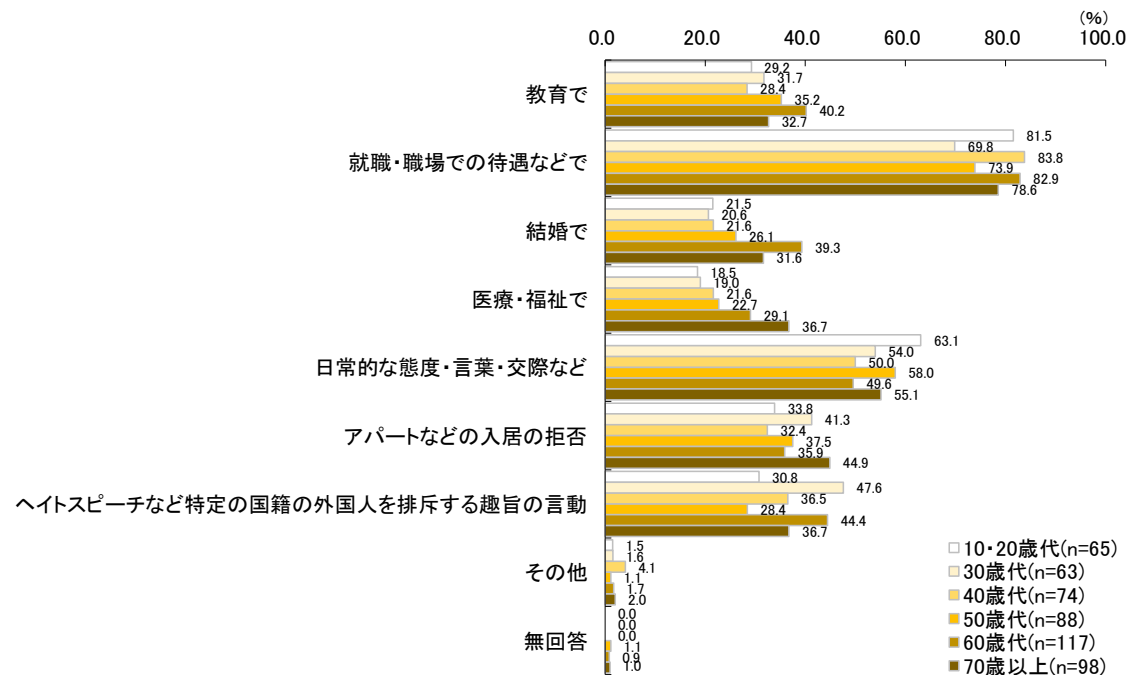
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



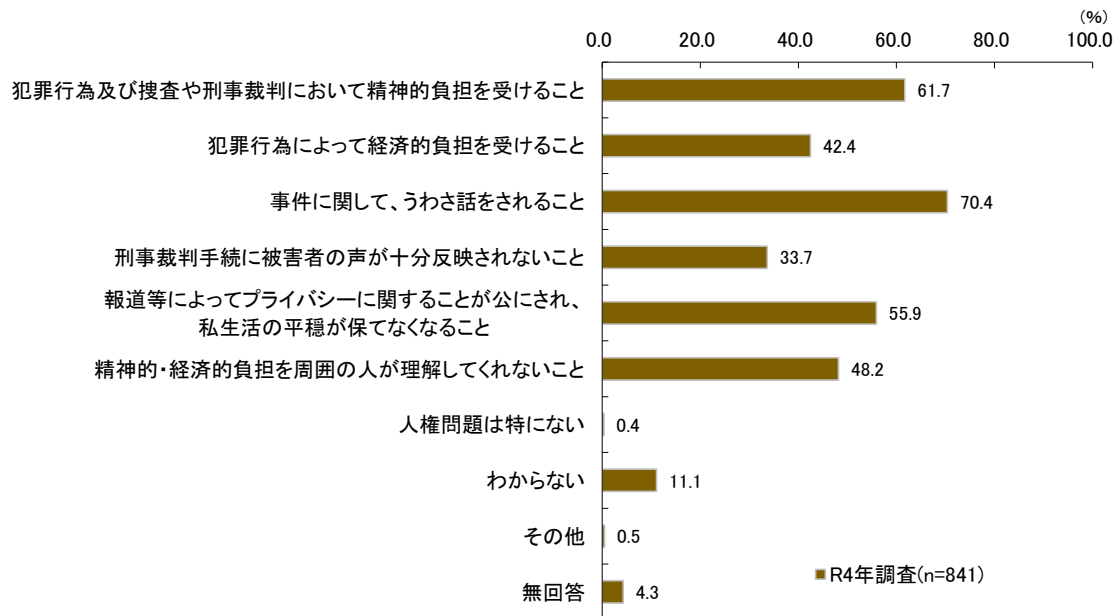
4-6. 犯罪被害者等に対する人権問題について

問15 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

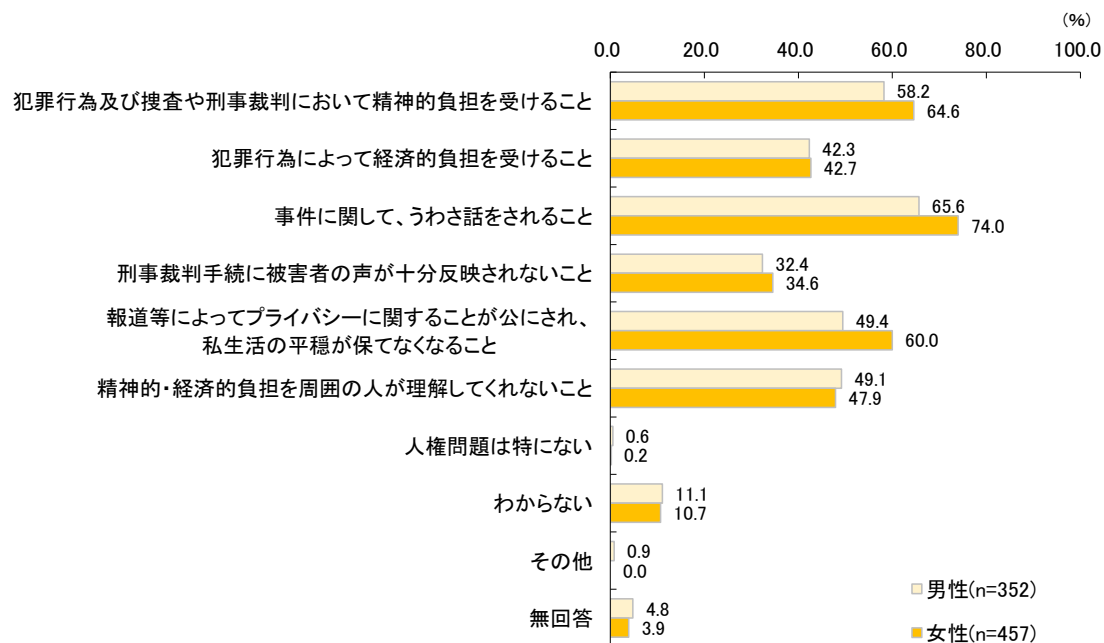
(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「事件に関して、うわさ話をされること」が70.4%と最も高い。次いで「犯罪行為及び捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること」、「報道等によってプライバシーに関することが公にされ、私生活の平穏が保てなくなること」となっている。
- 性別では、男性に比べ、多くの項目において女性の回答割合が高くなっている。

◆全体

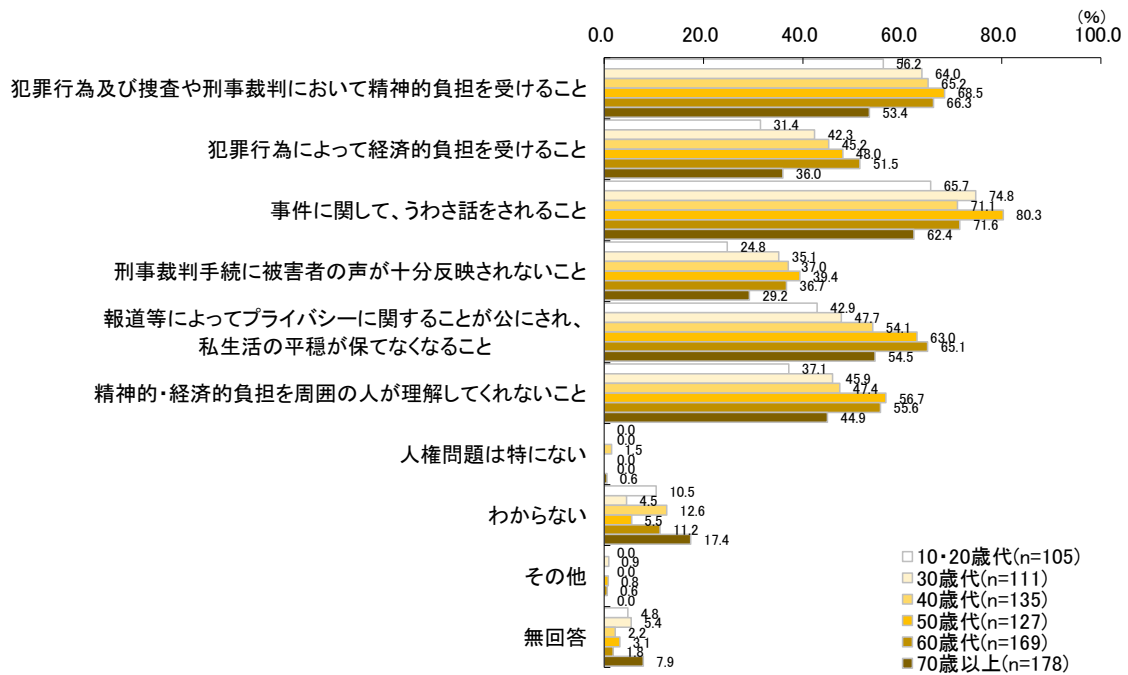


◆性別



- 年代別では、全体的に10・20歳代の若い世代と70歳以上で低く、50～60歳代で高い傾向がみられる。

◆年代別

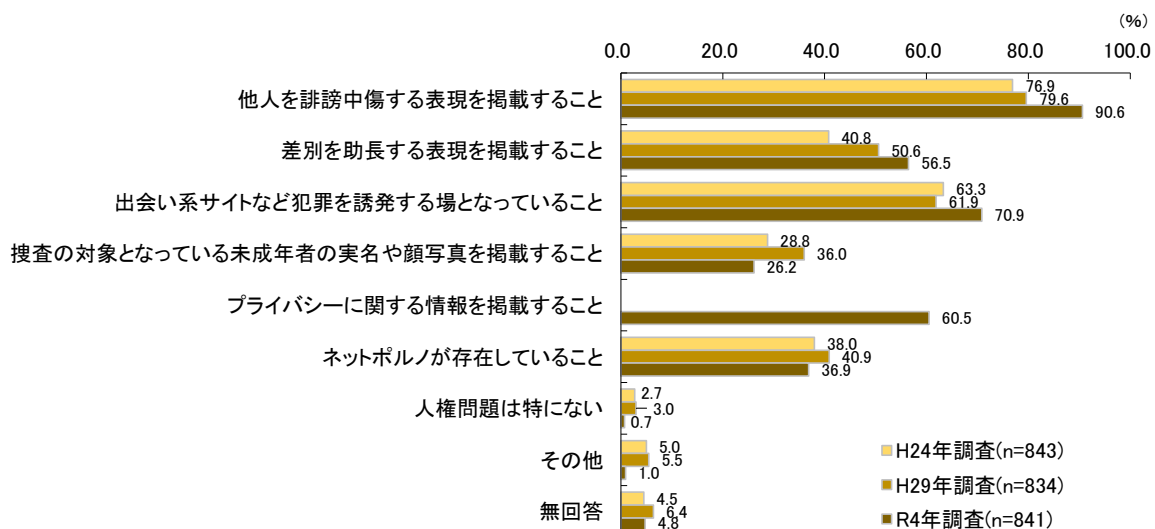


4-7. インターネットによる人権問題について

問13 あなたは、SNSをはじめとしたインターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

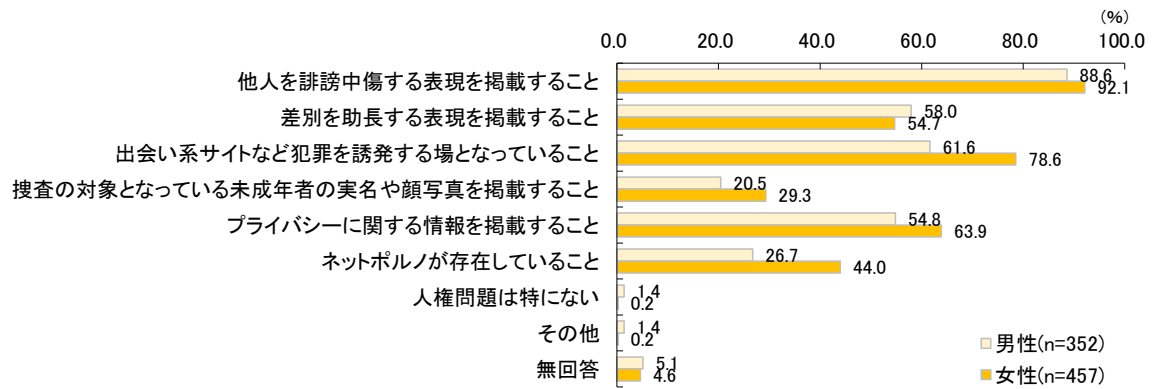
- 全体では「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」が90.6%と最も高くなっている。過年度と比較すると、「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」「差別を助長する表現を掲載すること」「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」の割合が増加傾向にある。

◆全体(経年比較)

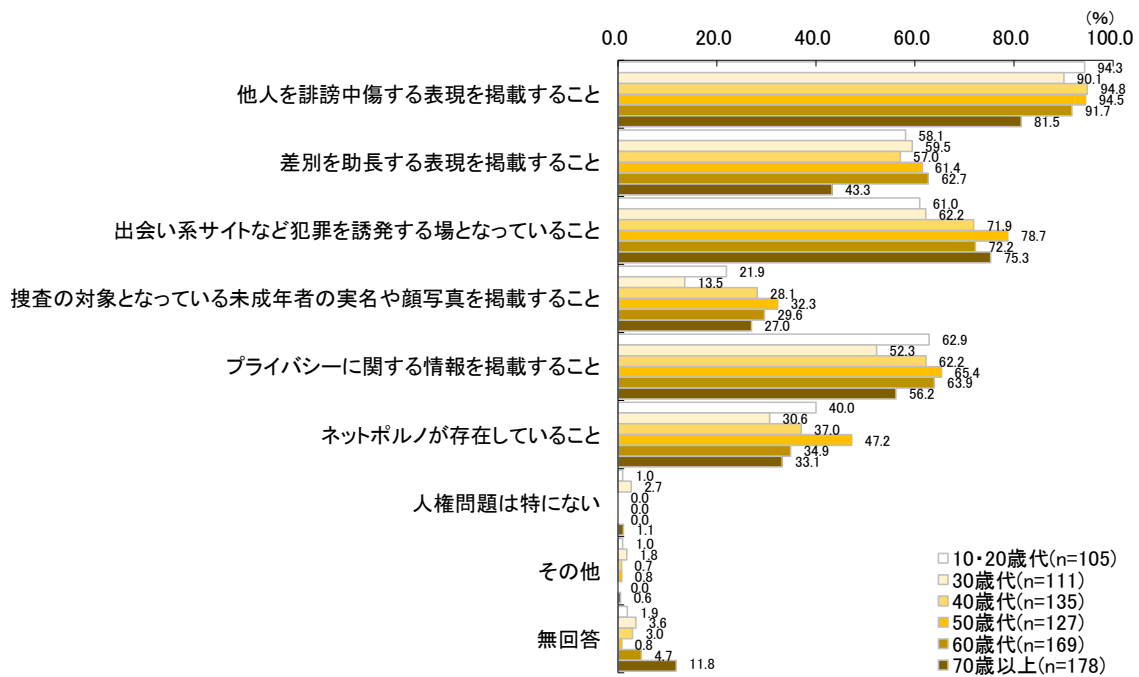


- 性別では、男性に比べ、「差別を助長する表現を掲載すること」を除く項目において、女性の回答割合が高くなっている。
- 年代別では、どの年代においても大きな傾向は変わらない。

◆性別



◆年代別



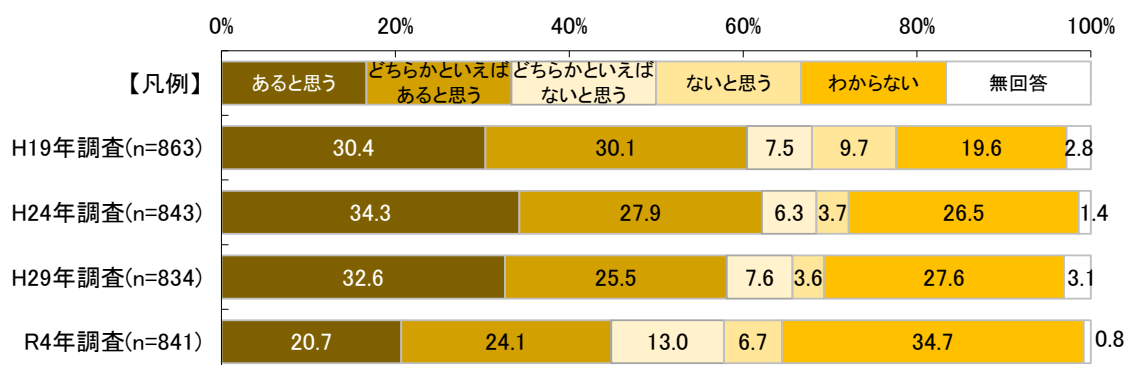
4-8. HIV 感染者・エイズ患者等に対する意識について

(1) HIV 感染者・エイズ患者等に対する差別・偏見への考え

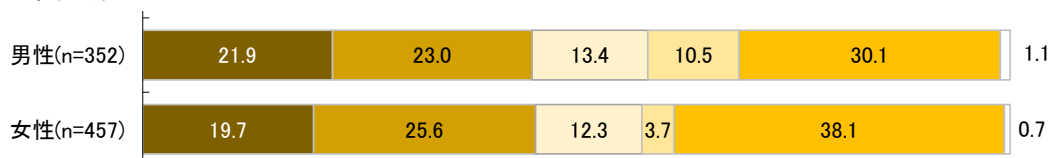
問11 あなたは、現在の社会で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は44.8%となっており、過年度より大きく減少している。一方、「わからない」割合は3割以上と増加傾向にある。
- 男性に比べ、女性の方が「わからない」の割合が高くなっている。
- 年代別では、10・20歳代～60歳代において、年代が上がるにつれて、「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合が高くなっている。

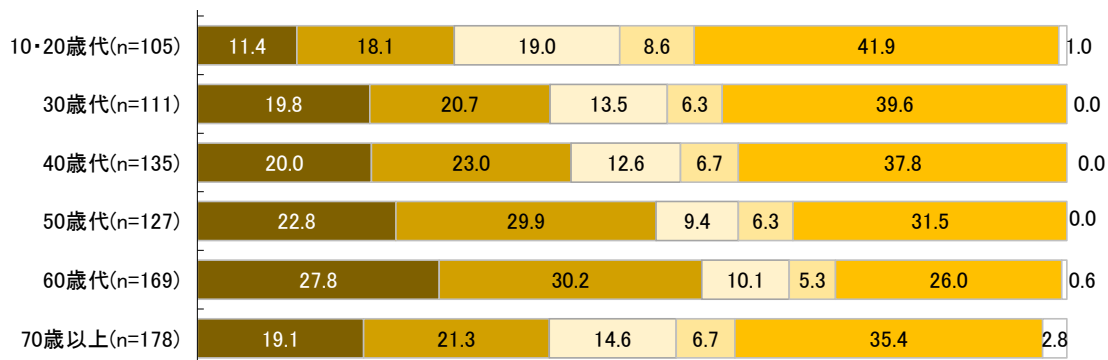
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



※H19年調査では、設問が「あなたは、HIV 感染者、ハンセン病患者・元患者等に対する差別・偏見があると思いますか。」という聞き方をしているため、単純に比較できない。

●HIV 感染者・エイズ患者に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方

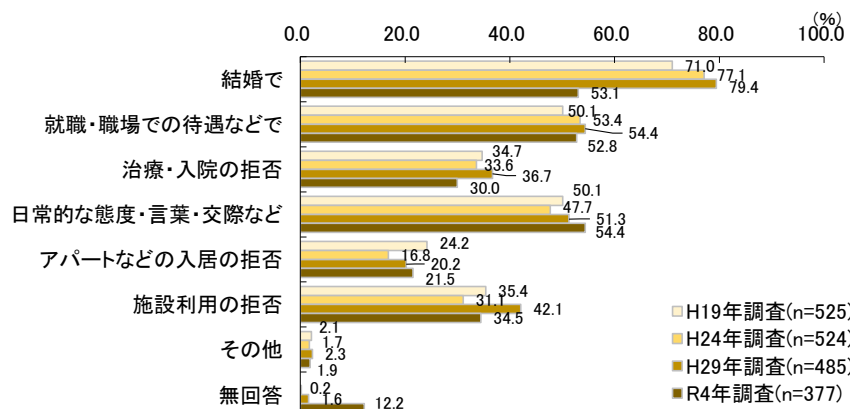
(2) HIV 感染者・エイズ患者に対する差別・偏見があると思う場面

問11-1 どのような面で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

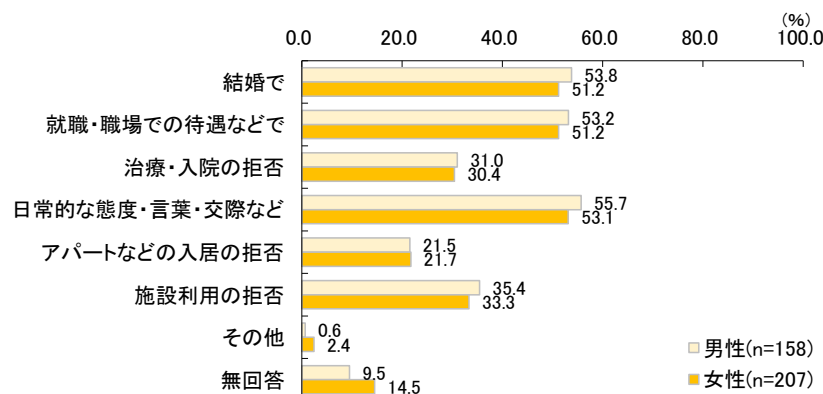
(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「日常的な態度・言葉・交際など」が54.4%と最も高く、次いで「結婚で」となっている。過年度と比較し、「結婚で」は26.2ポイント減少している。一方、「日常的な態度・言葉・交際など」はやや増加傾向がみられる。
- 性別では、男女別における差はみられず、全体と同様の回答傾向である。
- 年代別では、30歳代以下で「日常的な態度・言葉・交際など」の割合が高い。「アパートなどの入居の拒否」や「施設利用の拒否」では、年代が上がるほど割合が高くなっている。

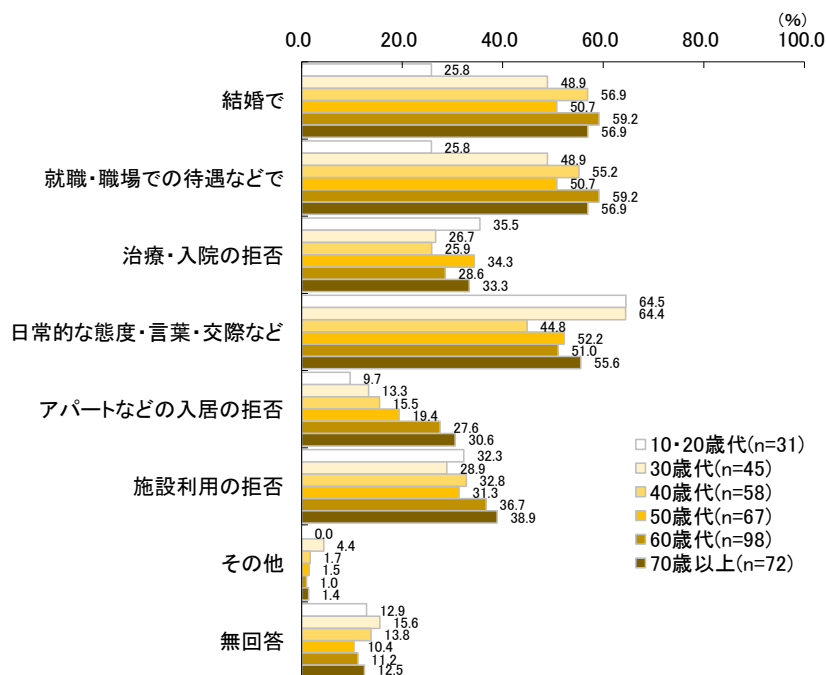
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



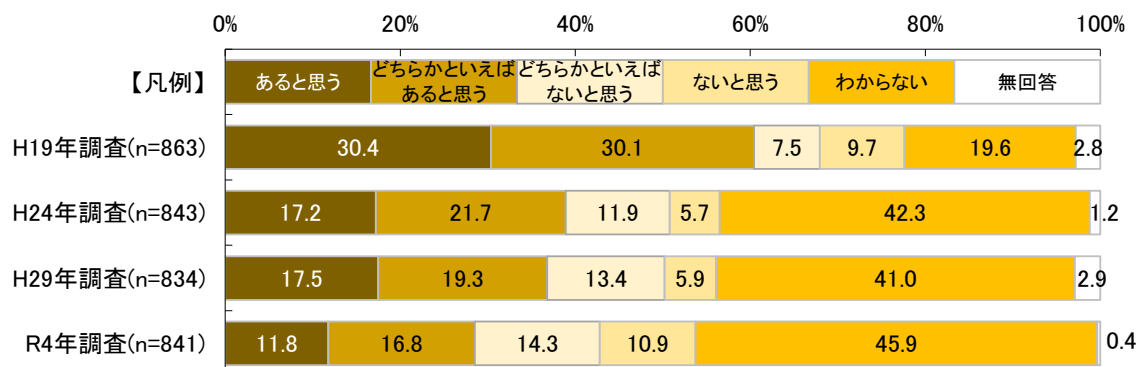
4-9. ハンセン病患者・元患者等に対する意識について

(1) ハンセン病患者・元患者等に対する差別・偏見への考え

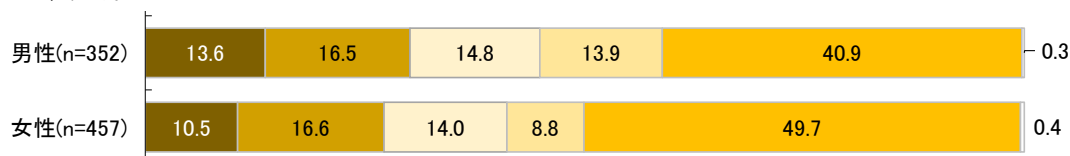
問12 あなたは、現在の社会でハンセン病患者・元患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

- 全体で「あると思う」「どちらかといえばあると思う」を合わせた割合は28.6%となっており、過年度より大きく減少している。一方、「わからない」割合は45.9%と、過年度と比較し、やや増加している。
- 男性に比べ、女性の方が「わからない」の割合が高くなっている。
- 年代別では、特に30歳代で「わからない」の割合が6割以上と高くなっている。

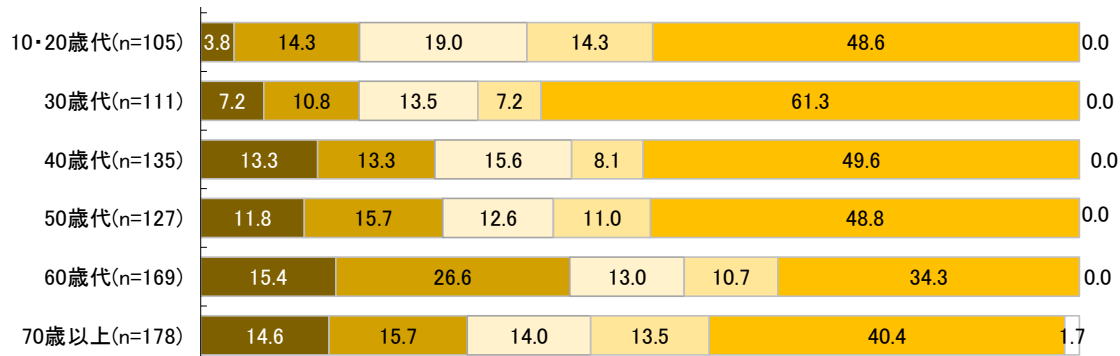
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



※H19年調査では、設問が「あなたは、HIV感染者、ハンセン病患者・元患者等に対する差別・偏見があると思いますか。」という聞き方をしているため、単純に比較できない。

- ハンセン病患者・元患者等に対する差別・偏見が「あると思う」「どちらかといえばあると思う」と答えた方

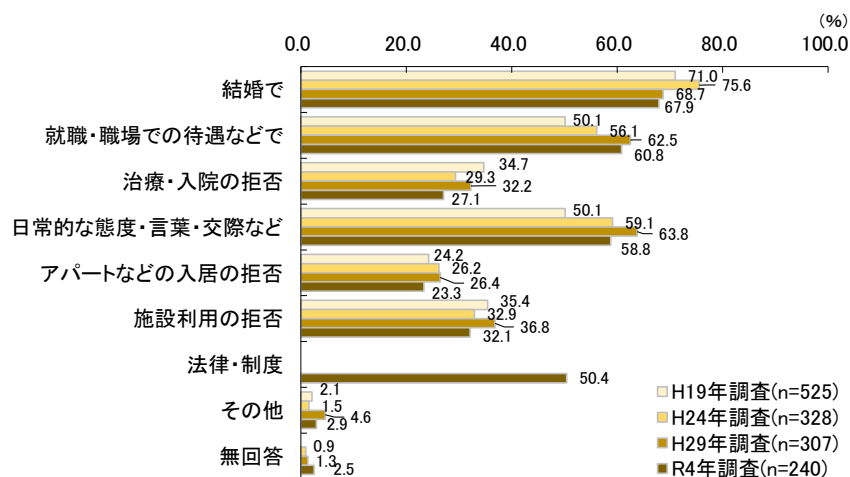
(2) ハンセン病患者・元患者等に対する差別・偏見があると思う場面

問12-1 どのような面でハンセン病患者・元患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

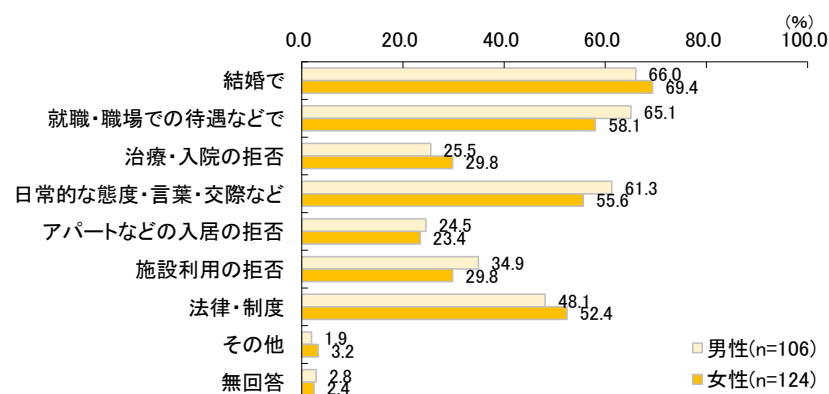
(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「結婚で」が67.9%と、最も高い。過年度と比較し、「結婚で」の割合はやや減少傾向にある一方、「就職・職場での待遇などで」の割合は増加傾向がみられる。なお、令和4年調査で新たに聞いた、「法律・制度」では50.4%と半数以上が回答している。
- 男女別における大きな差はみられない。
- 年代別では、「結婚で」や「法律・制度」は、70歳以上が高い。

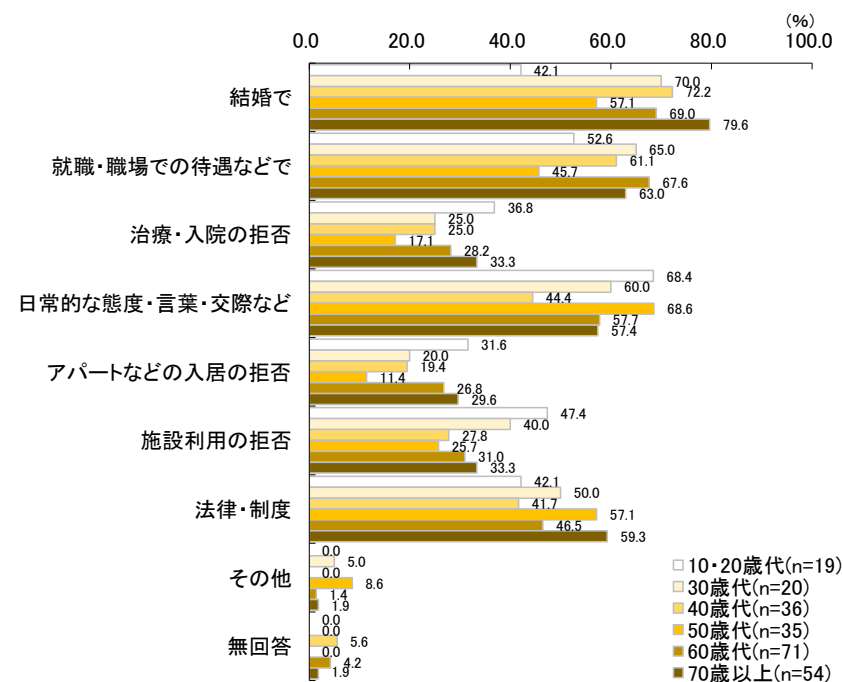
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



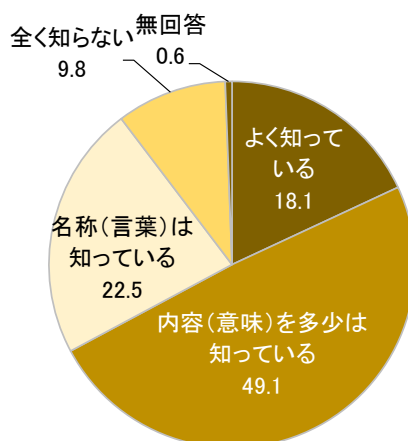
4-10. LGBTQ 等の性的少数者の方々に対する意識について

(1) LGBTQ の言葉の認知度

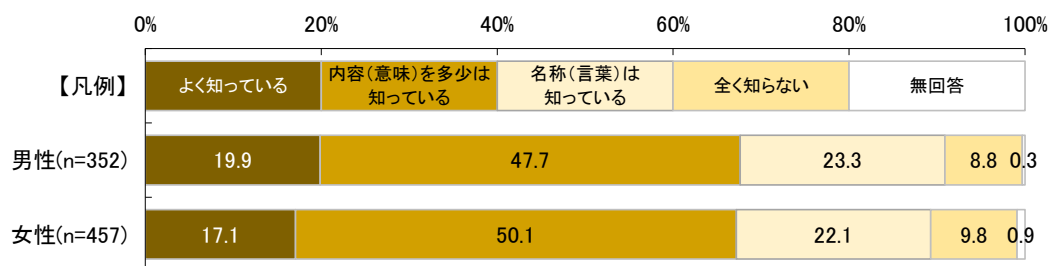
問14 あなたは、LGBTQ¹という言葉について、知っていますか。

- LGBTQ の言葉の認知度は、全体で「よく知っている」は18.1%、「内容(意味)を多少は知っている」は49.1%、「名称(言葉)は知っている」は22.5%となっている。「全く知らない」と回答している割合は約1割である。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別では、若い世代ほど認知度は高くなっている。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験がある人の方が認知度は高い。

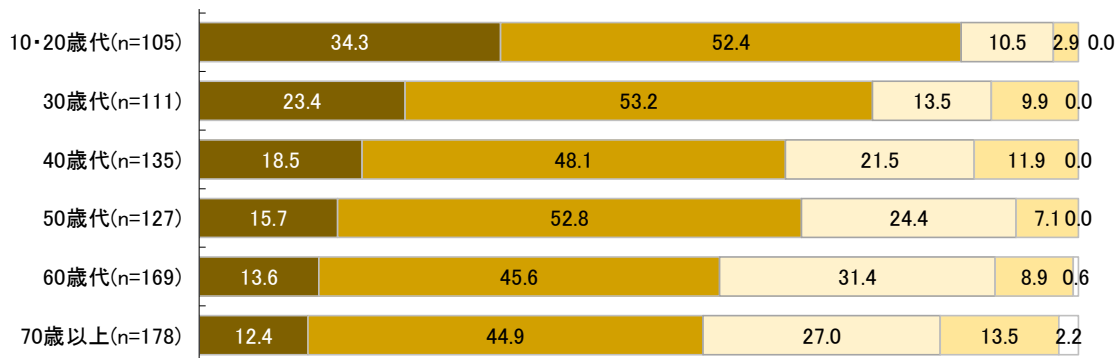
◆全体(経年比較)



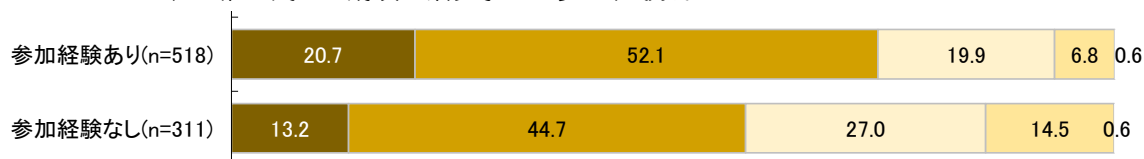
◆性別



◆年代別



◆人権に関する講演・研修等への参加経験別



¹ LGBTQ…女性同性愛者(レズビアン)、男性同性愛者(ゲイ)、異性も同性も好きになる人(バイセクシャル)、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人(トランスジェンダー)、性自認や性的指向が明確でない人(クエスチョニング)の略

●LGBTQ という言葉について「よく知っている」「内容(意味)を多少は知っている」と答えた方

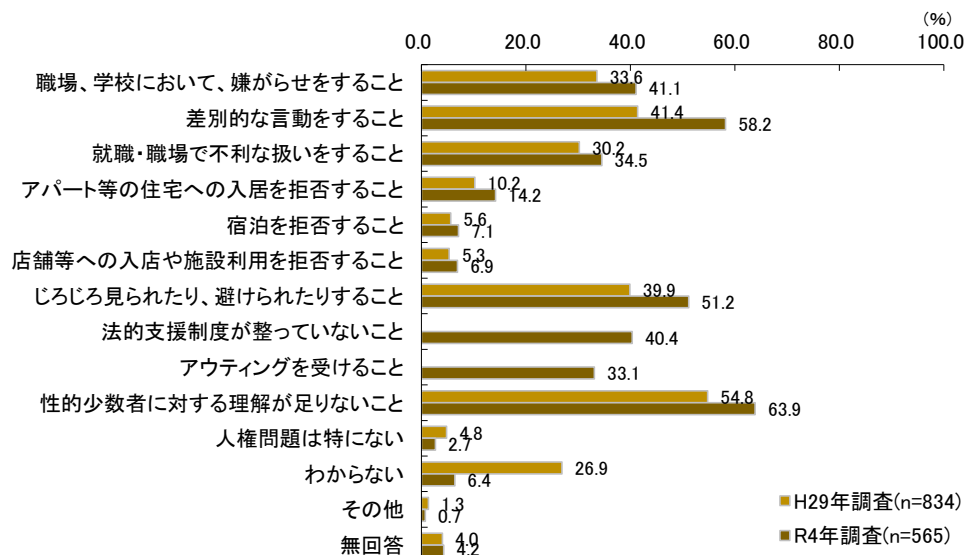
(2) LGBTQ 等の性的少数者の方々に対する人権問題があると思う場面

問14-1 あなたは、LGBTQ 等の性的少数者の方々に、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

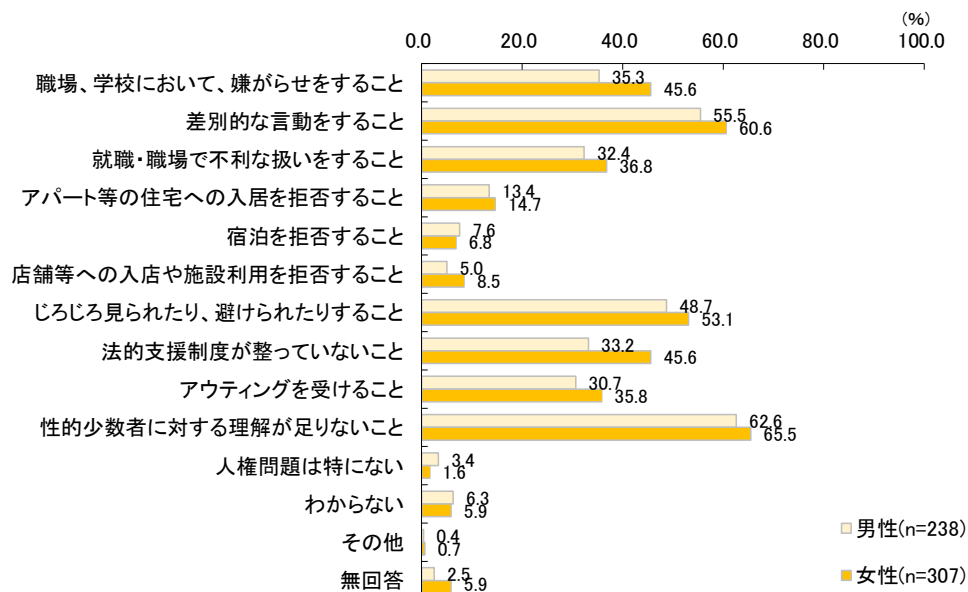
(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「性的少数者に対する理解が足りないこと」が63.9%と最も高く、次いで「差別的な言動をすること」、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」となっている。平成29年度調査と比較し、各項目における回答割合は増加傾向にある。
- 男性に比べ、多くの項目において女性の回答割合が高くなっている。

◆全体(経年比較)

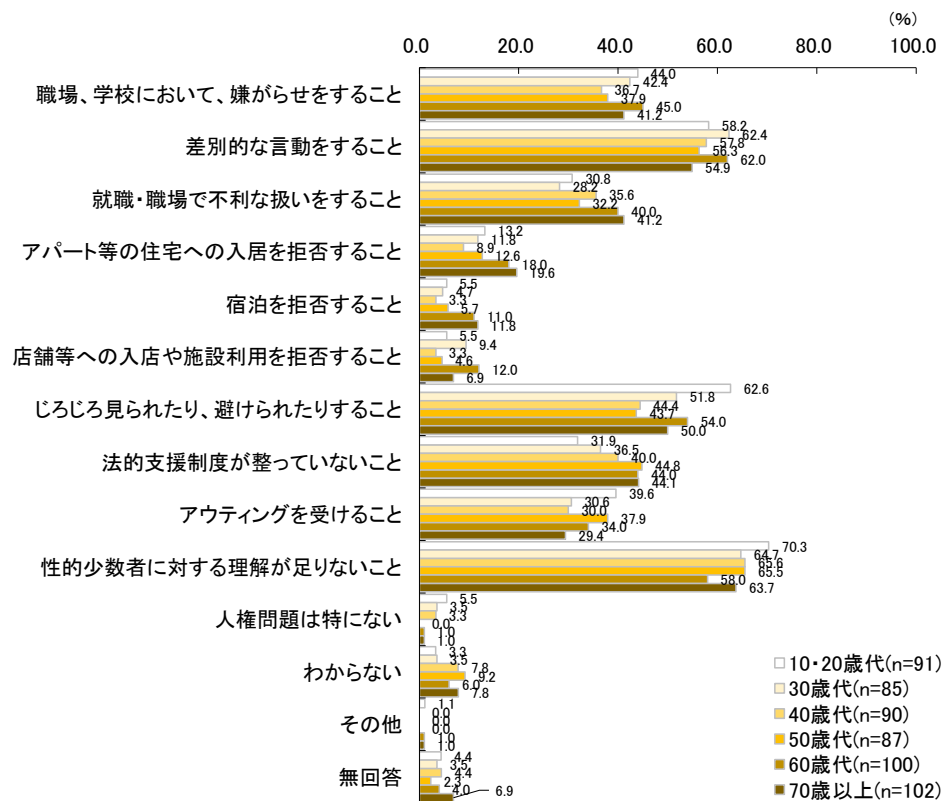


◆性別



- 年代別では、「性的少数者に対する理解が足りないこと」の割合は若い世代ほど高い。また、10・20歳代において「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が特に高くなっている。

◆年代別



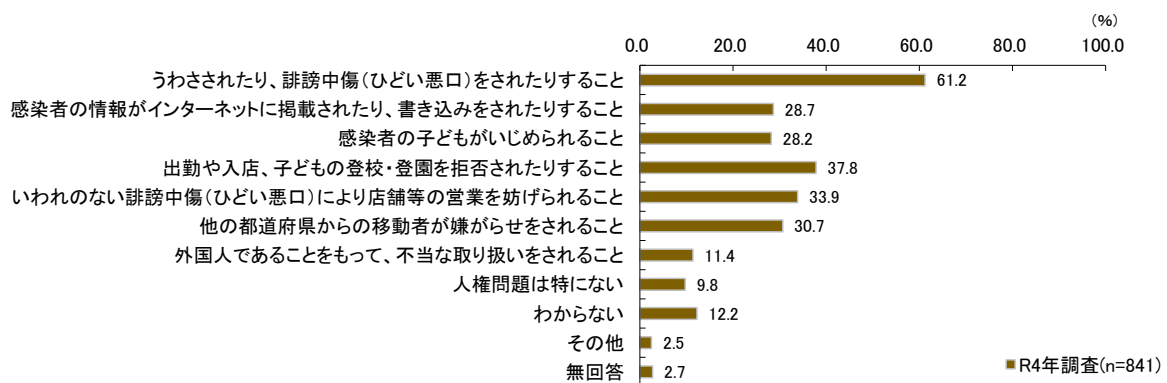
4-11. 新型コロナウイルス感染症に対する意識について

問16 あなたは、新型コロナウイルス感染症に関連し、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

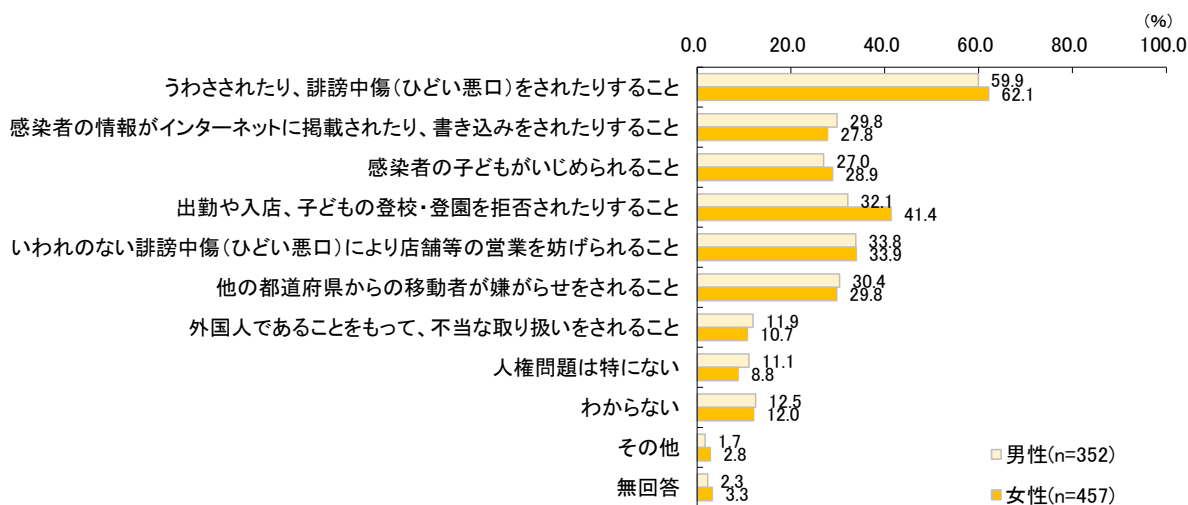
- 全体では、「うわさされたり、誹謗中傷（ひどい悪口）をされたりすること」が61.2%と、突出して高くなっている。

◆全体

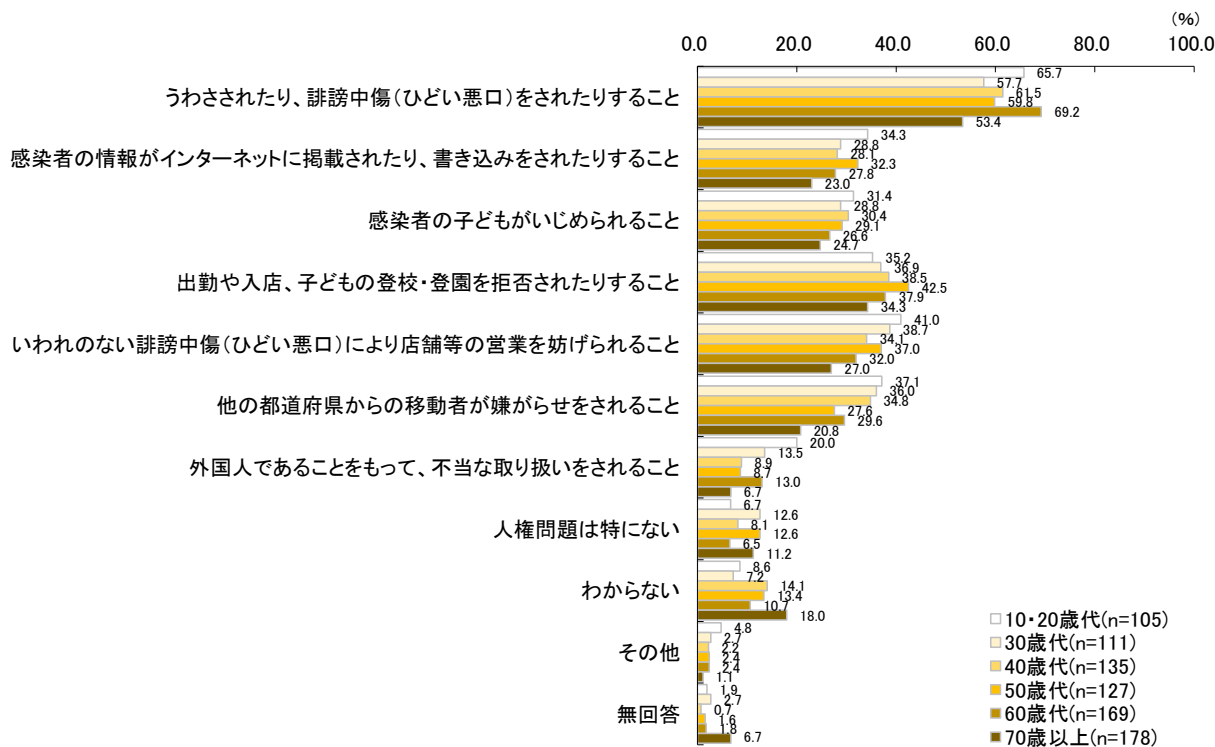


- 男性に比べて女性の方が「出勤や入店、子どもの登校・登園を拒否されたりすること」の割合が高くなっている。
- 年代別にみると大きな傾向は変わらない。「いわれのない誹謗中傷（ひどい悪口）により店舗等の営業を妨げられること」や「他の都道府県からの移動者が嫌がらせをされること」で若い世代ほど割合が高くなっている。

◆性別



◆年代別



【小括】各分野における人権課題に関する意識について

● 女性

- ・ 差別や偏見があると思う割合は増加傾向にあり、そう思う場面は、「職場」以外の項目で増加傾向がみられる。ジェンダー平等の問題は解消されていないといえる。
- ・ 性別による差への問題が以前より意識化されている傾向がうかがえ、解消に向けた一層の推進が必要である。

● 子ども

- ・ 子どもの人権が「守られていると思う」の割合は減少しており、「学校などでのいじめ」の問題が課題としてあげられる。また、過年度に比べ、「子どもの意見を大人が尊重しないこと」は、今回調査において最も高くなっており、子どもの人権問題には引き続き取り組んでいく必要がある。

● 高齢者

- ・ 差別や偏見があると思う割合は減少傾向にあり、高齢者への差別や偏見の意識は改善されつつあると考えられる。今後一層、高齢社会となることを踏まえ、高齢者の社会参加の促進や、介護状態や認知症などに関連する人権問題に注力していく必要がある。

● 障がい者

- ・ 差別や偏見があると思う割合は過年度と比較して大きな変化はみられない。
- ・ 障がい者への理解が足りないとの声が多くみられ、引き続き、理解促進に向けた啓発や社会参加の促進に取り組んでいくことが必要である。

● 外国人

- ・ 差別や偏見があると思う割合は過年度と比べて大きな差はみられない。
- ・ 就職・職場での待遇などにおける差別や偏見があるとの回答割合は高く、過年度と比較しても微増しており、職場における理解や環境整備は重要と考えられる。

● 犯罪被害者等

- ・ 事件に関して、うわさ話をされることが人権問題としてあると回答する割合が高くなっており、犯罪被害者の問題への理解を深める啓発活動が求められる。

● インターネットによる人権侵害に対する問題

- ・ 「他人を誹謗中傷する表現を掲載すること」「差別を助長する表現を掲載すること」「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっていること」が増加傾向にある。
- ・ SNSなどのインターネット上でのコミュニケーションが当たり前になっている現在、誰もが当事者になり得る身近な問題として周知し、理解を深めていくことが必要である。

● HIV 感染者・エイズ患者、ハンセン病患者・元患者等

- ・ HIV 感染者・エイズ患者や、ハンセン病患者・元患者等に関しては実際の状況が分からないと回答する割合が増加している。国のデータによると、全国的にエイズ患者・HIV 感染者や、ハンセン病患者は減少傾向にあるが、引き続き正しい理解と対応について周知していくことは必要と考えられる。

● 性的少数者に対する意識の変化や、新型コロナウイルス感染拡大などによる新たな人権問題

- ・ LGBTQ の言葉の認知度は「全く知らない」が約1割と低いが、性的少数者への理解が足りないことは課題として挙げられており、言葉の認知だけではなく、性的少数者への理解を促す学びの機会が必要と考えられる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に関連した人権問題については、「感染者やその家族について、うわさされたり、誹謗中傷（ひどい悪口）をされたりすること」が6割と、突出して高い。いまだ終息がみえない中、誰でも起こり得ることとしての正しい理解と対応について引き続き周知していく必要があると考えられる。

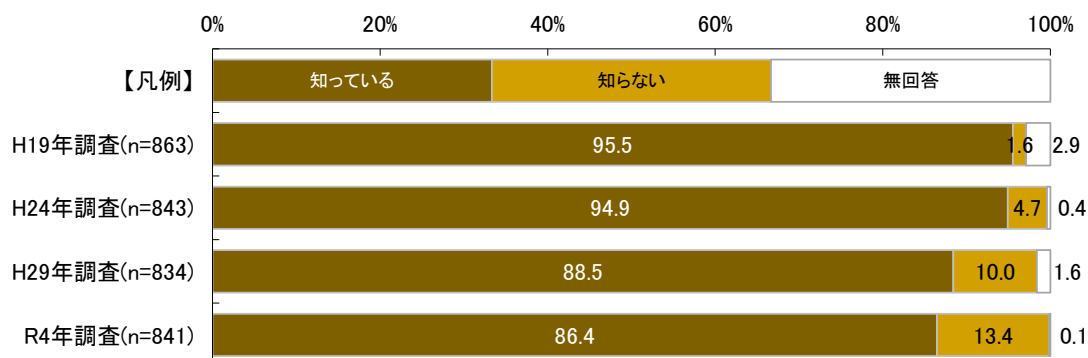
5. 同和問題に関する意識について

5-1. 同和問題（部落差別）の認知度

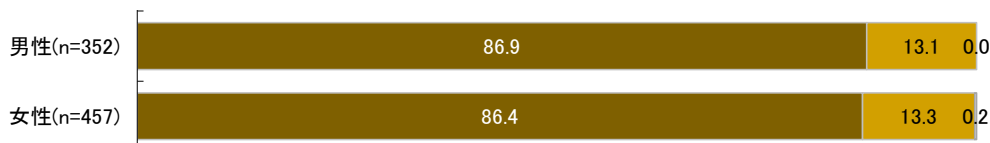
問17 あなたは、同和問題（部落差別）を知っていますか。

- 全体で「知っている」の割合は85.7%、「知らない」の割合が13.4%である。過年度と比較し、「知らない」の割合は増加傾向にある。
- 男女別における差はみられない。
- 年代別にみると、30歳代以下では「知らない」の割合が3割以上と高くなっている。
- 人権に関する講演・研修等への参加経験がある人の方が「知っている」の割合が圧倒的に高い。

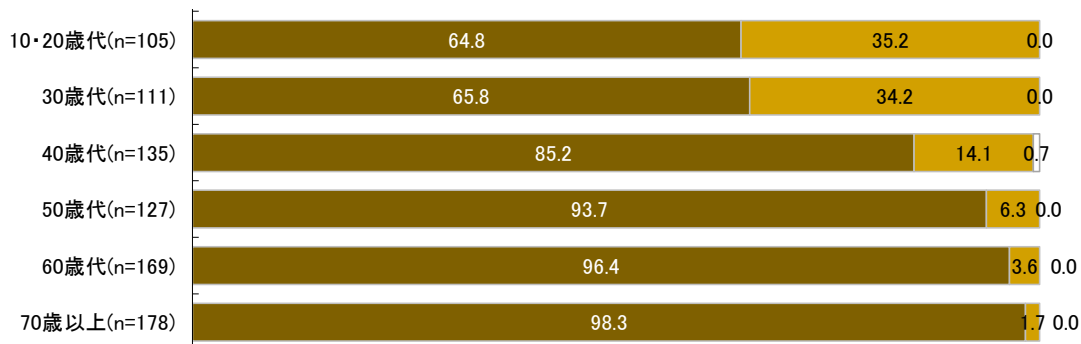
◆全体（経年比較）



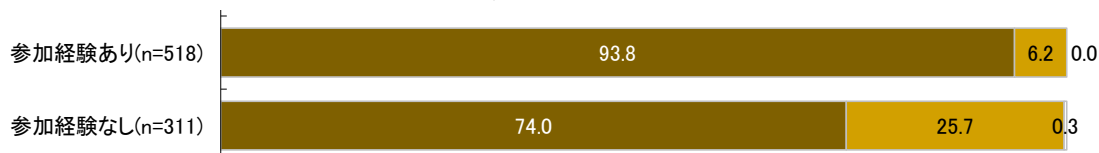
◆性別



◆年代別



◆人権に関する講演・研修等への参加経験別



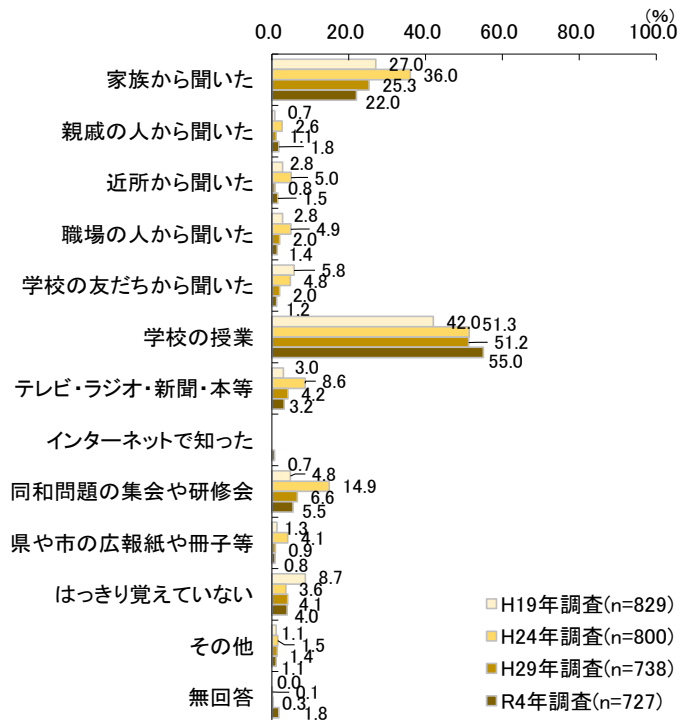
●同和問題(部落差別)を「知っている」と答えた方

5-2. 同和問題(部落差別)を知ったきっかけ

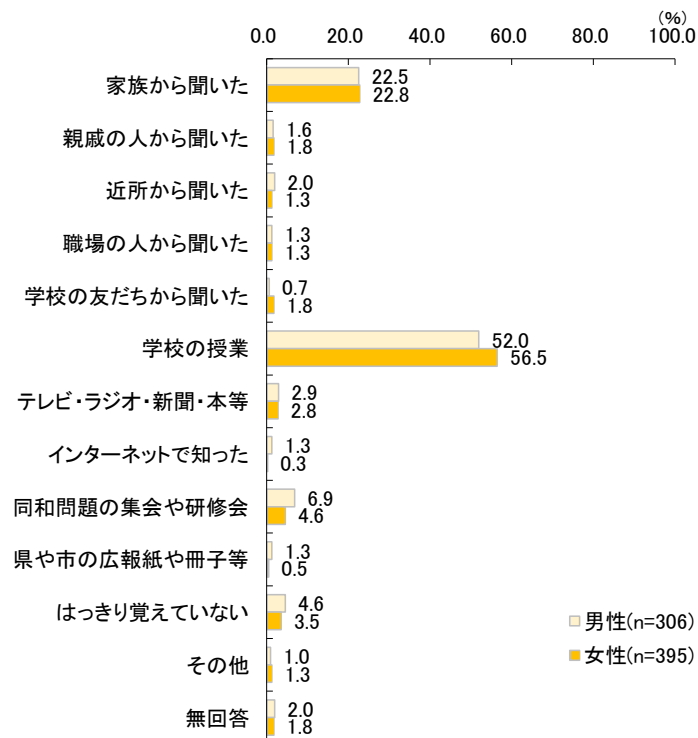
問18 あなたが、同和問題を知ったきっかけは次のどれですか。

- 全体では「学校の授業」が55.0%と最も高く、次いで「家族から聞いた」が22.0%となっている。過年度と比べ、「学校の授業」は微増し、「家族から聞いた」は減少傾向にある。
- 男女別における差はみられない。

◆全体(経年比較)

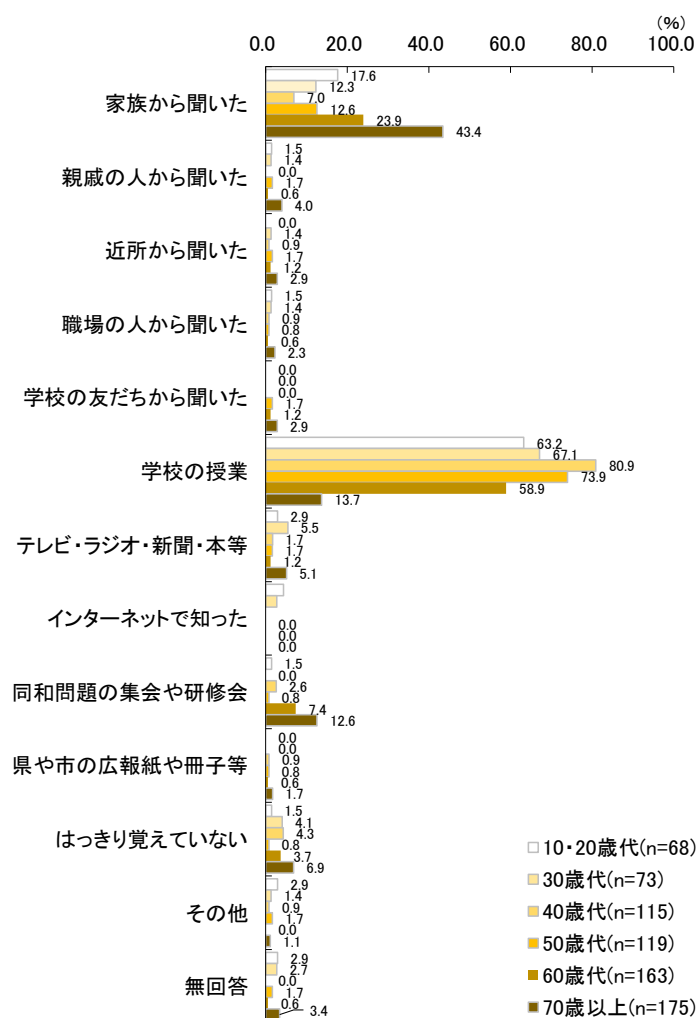


◆性別



- 年代別にみると、10・20歳代～60歳代においては「学校の授業で学んだ」の割合が高く、70歳代以上では「家族から聞いた」の割合が他世代に比べ、高くなっている。

◆年代別



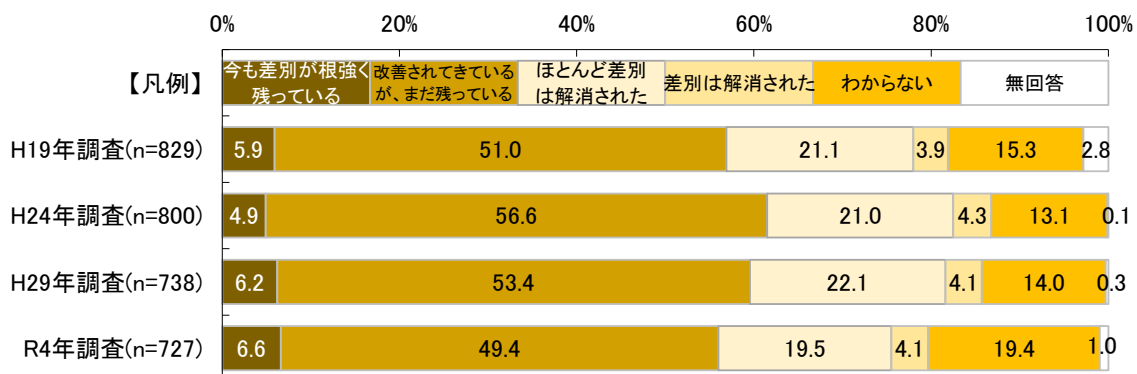
●同和問題(部落差別)を「知っている」と答えた方

5-3. 同和問題(部落差別)に対する考え

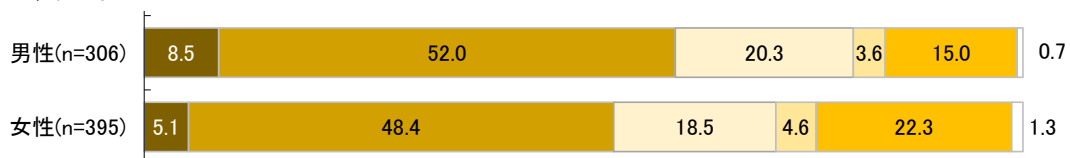
問19 あなたは同和問題についてどのようにお考えですか。

- 全体で「今も差別が根強く残っている」「改善されてきているが、まだ残っている」を合わせた割合は 56.0%と依然として過半数が問題視している。過年度に比べ、「わからない」の割合が増えている。
- 性別では、女性に比べ、男性の方が「今も差別が根強く残っている」「改善されてきているが、まだ残っている」を合わせた割合がやや高くなっている。
- 年代別にみると、年代が上がるほど、「今も差別が根強く残っている」「改善されてきているが、まだ残っている」を合わせた割合が高く、特に60歳代で高い。一方、10・20歳代では「わからない」の割合が高い。

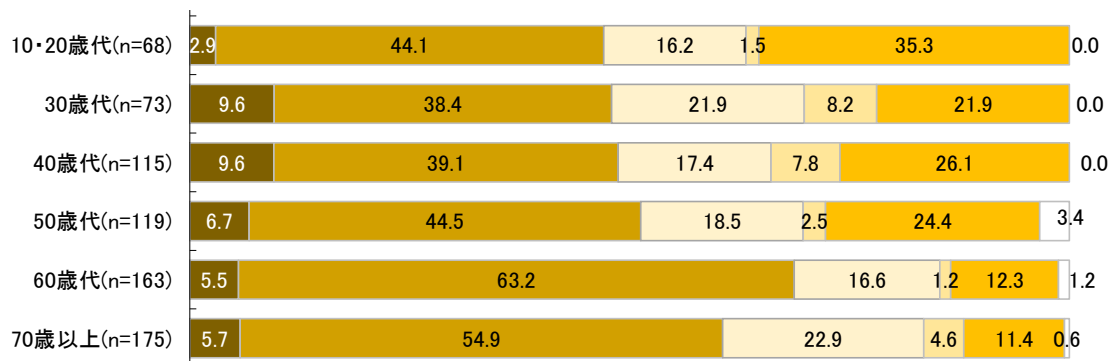
◆全体(経年比較)



◆性別



◆年代別



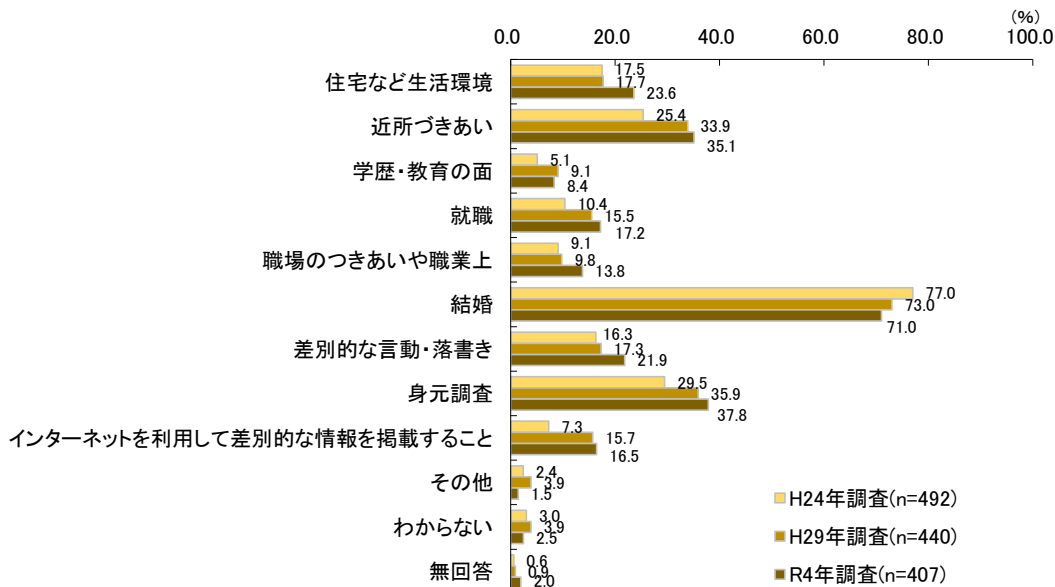
●同和問題（部落差別）が「今も差別が根強く残っている」「改善されてきているが、まだ残っている」と答えた方

5-4. 同和問題（部落差別）があると思う場面

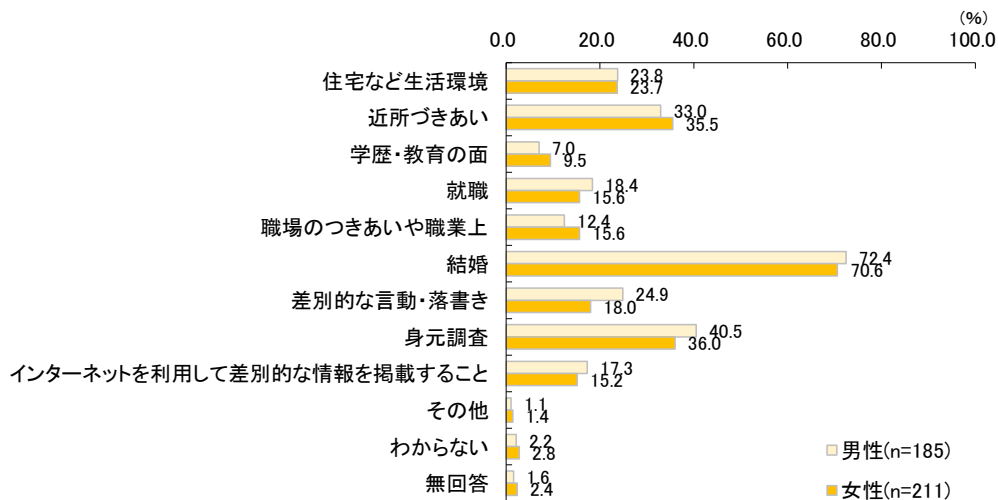
問19-1 現在どのような面に同和問題（部落差別）があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 全体では「結婚」が71.2%と、最も高くなっている。過年度と比較すると、「結婚」は減少傾向にあるが、その他の多くの項目では増加傾向にある。
- 男女別における差はみられない。

◆全体（経年比較）

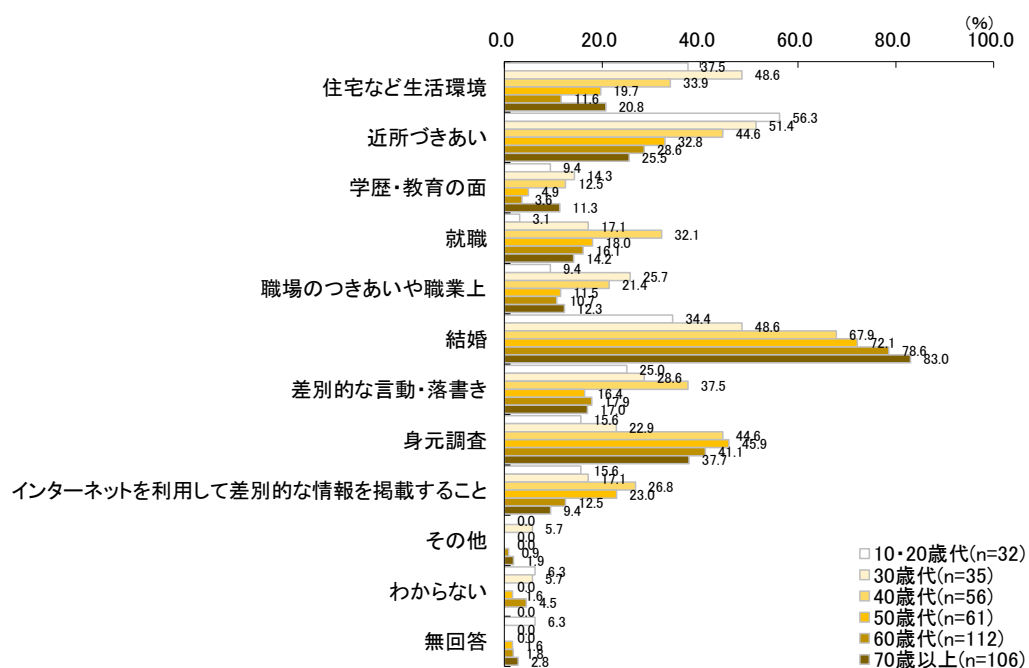


◆性別



- 年代別では、年代が上がるほど、「結婚」が高くなっている。10・20歳代では「近所づきあい」が他の世代に比べ高くなっている。30歳代以上では、「住宅など生活環境」や「身元調査」において、若い世代ほど回答割合は高くなっている。

◆年代別



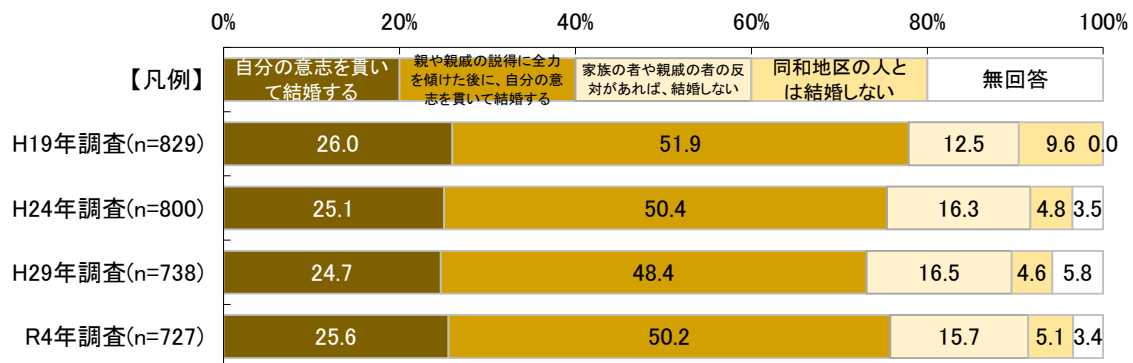
●同和問題（部落差別）を「知っている」と答えた方

5-5. 同和地区の人との恋愛や結婚についての考え

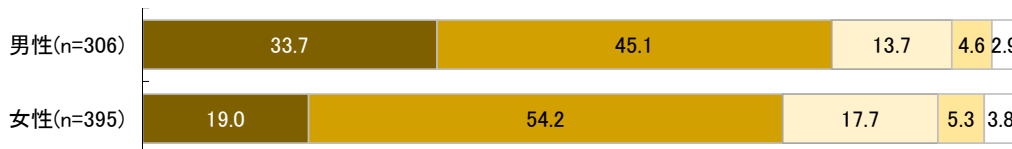
問20 あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとしたとき、親や親戚から反対されたら、あなたはどうしますか。
(既婚の方も未婚だと仮定してお答えください。)

- 全体で「自分の意志を貫いて結婚する」「親や親戚の説得に全力を傾けた後に、自分の意志を貫いて結婚する」を合わせた割合は、75.8%である。過年度と比較し、大きな差はみられない。
- 性別では、女性に比べ、男性では「親や親戚の説得に全力を傾けた後に、自分の意志を貫いて結婚する」を合わせた割合が高くなっている。
- 年代別では、若い世代ほど「自分の意志を貫いて結婚する」「親や親戚の説得に全力を傾けた後に、自分の意志を貫いて結婚する」を合わせた割合は高く、30代以下では9割以上を占めている。

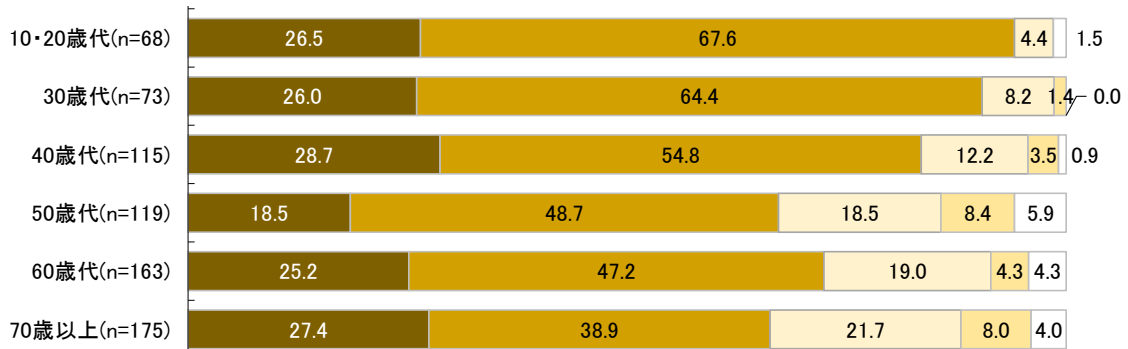
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



●同和問題（部落差別）を「知っている」と答えた方

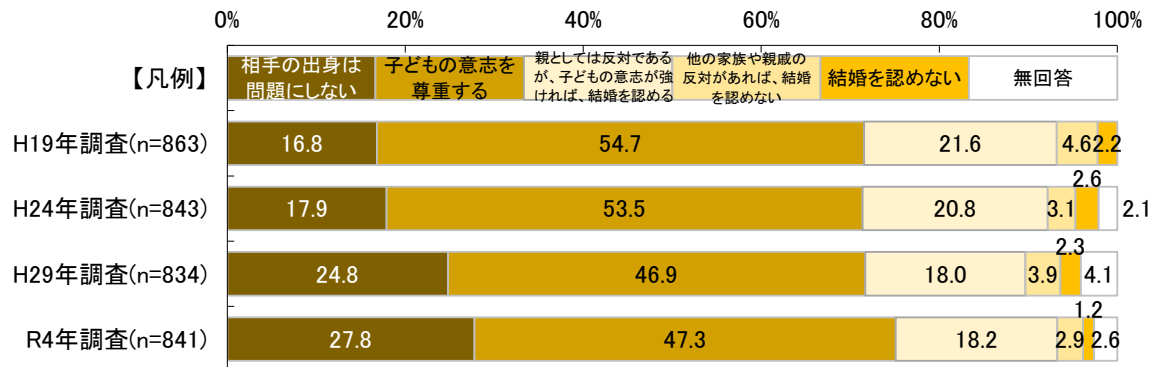
5-6. 同和地区の人との恋愛や結婚に対する対応

問21 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であった場合、あなたはどうしますか。

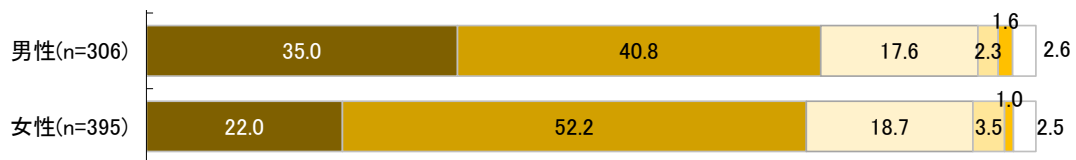
（お子さんがすでに結婚されていたり、今現在お子さんがいない方も、ご自分のお子さんがこれから結婚すると仮定してお答えください。）

- 全体で「相手の出身は問題にしない」の割合は27.8%で、過年度と比較して増加している。
- 女性に比べ、男性の方が「相手の出身は問題にしない」の割合が高くなっている。
- 年代別でみると、若い世代ほど「相手の出身は問題にしない」の割合が高くなっている。

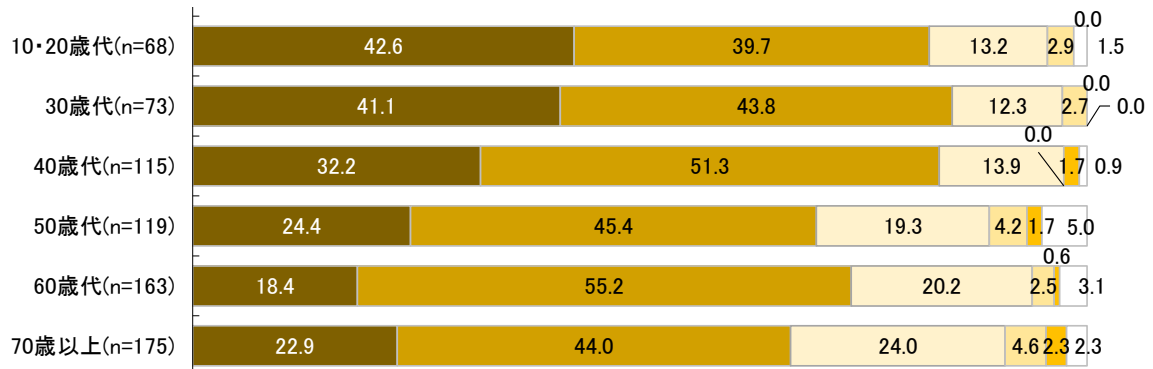
◆全体（経年比較）



◆性別



◆年代別



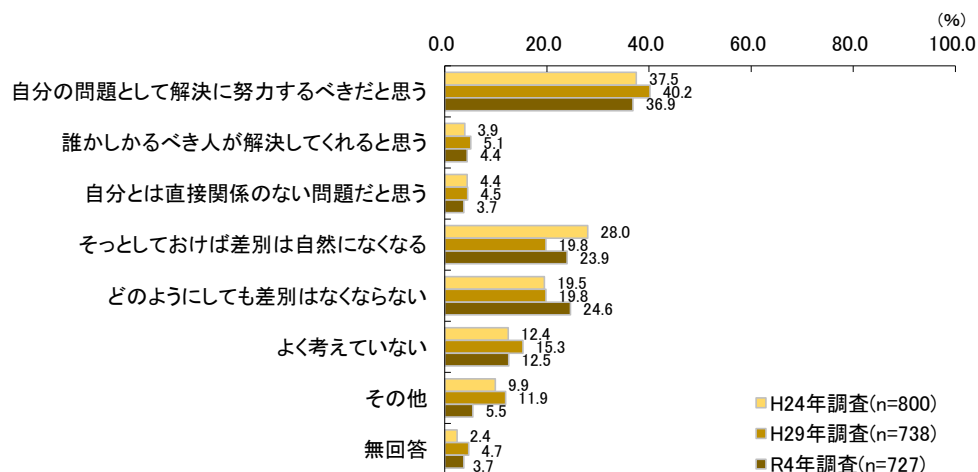
●同和問題（部落差別）を「知っている」と答えた方

5-7. 同和問題の解決策

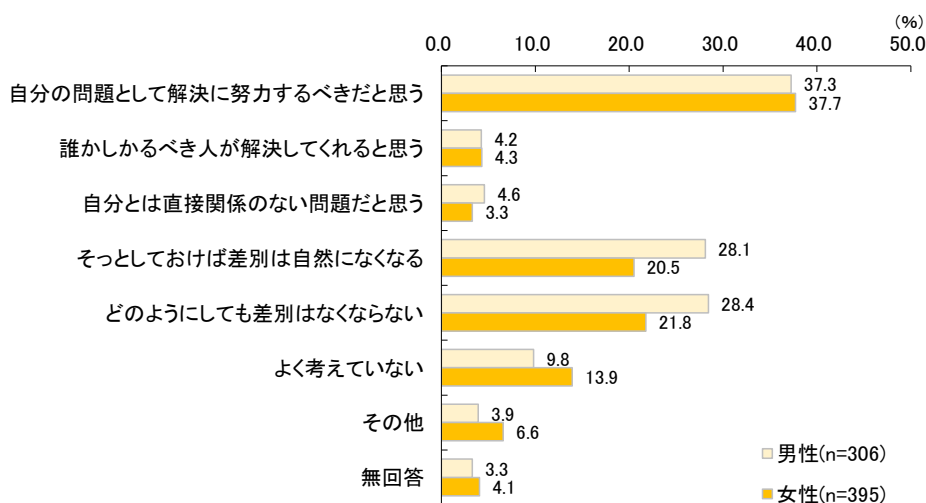
問22 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

- 全体で「自分の問題として解決に努力すべきだと思う」の割合は36.9%と最も高い。過年度と比較し、概ね同様の傾向にある。
- 性別では、男性では「そっとしておけば差別は自然になくなる」、「どのようにしても差別はなくなる」の割合が高い。なお、女性では男性に比べ、「よく考えていない」の割合がやや高い。

◆全体（経年比較）

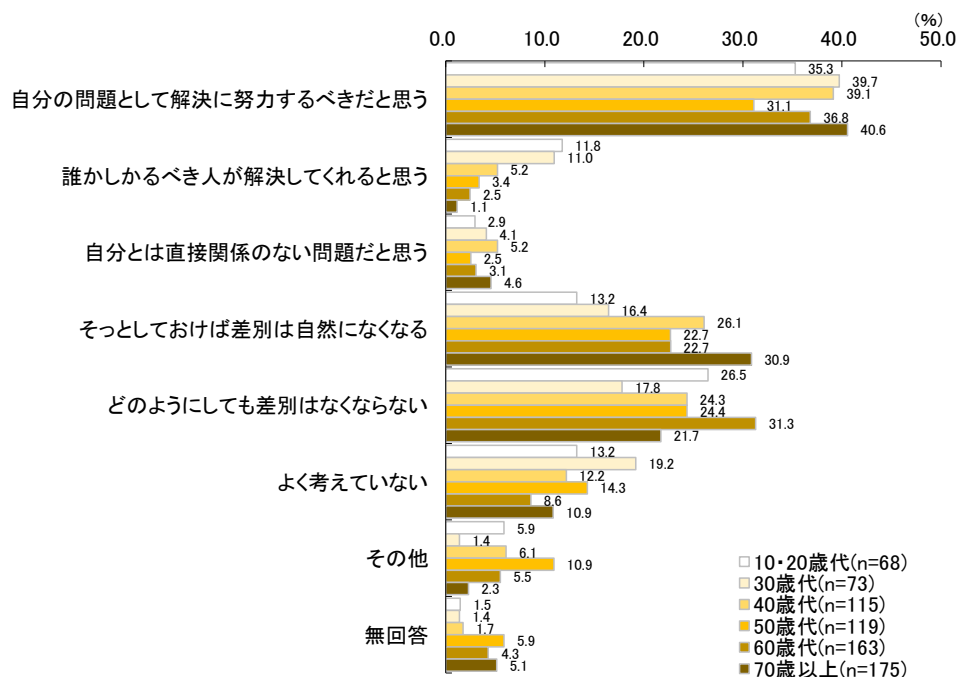


◆性別



- 年代別では、「そっとしておけば自然になくなる」「どのようにしても差別はなくなる」の割合は年代が上がるほど高く、特に、「そっとしておけば自然になくなる」は70歳代以上で、また、「どのようにしても差別はなくなる」では60歳代において高くなっている。一方、若い世代ほど「誰かしかるべき人が解決してくれると思う」や「よく考えていない」の割合が高くなっている。

◆年代別



【小括】同和問題に関する意識について

- 認知度
 - ・ 認知度は86.4%で、これまでの調査の中で一番低くなっている。逆に、過年度と比較し、「知らない」割合は増加傾向にあり、同和問題への認知・関心は薄れてきているといえる。
- 考え方
 - ・ 同和問題がまだ残っている考える人は56.0%と過半数以上である。同和問題がある場面として、「結婚」が最も高いが、過年度に比べ減少傾向にあり、解消しつつあるといえる。
- 同和地区の人との恋愛や結婚についての自身の考えや対応
 - ・ 若い世代ほど消極的に考える割合は低く、「自分の意志を貫いて結婚する」「親や親戚の説得に全力を傾けた後に、自分の意志を貫いて結婚する」を合わせた割合や、「相手の出身は気にしない」「子どもの意志を尊重する」と回答する人が多い。
- 同和問題の解決策
 - ・ 多くの人にとって同和問題は学校教育で学ぶものとなっており、自身の切実な問題として捉えている人は減少しつつある。
 - ・ 同和による差別問題がなくなる社会を目指して、引き続き正しい認識・理解と対応を進める必要がある。

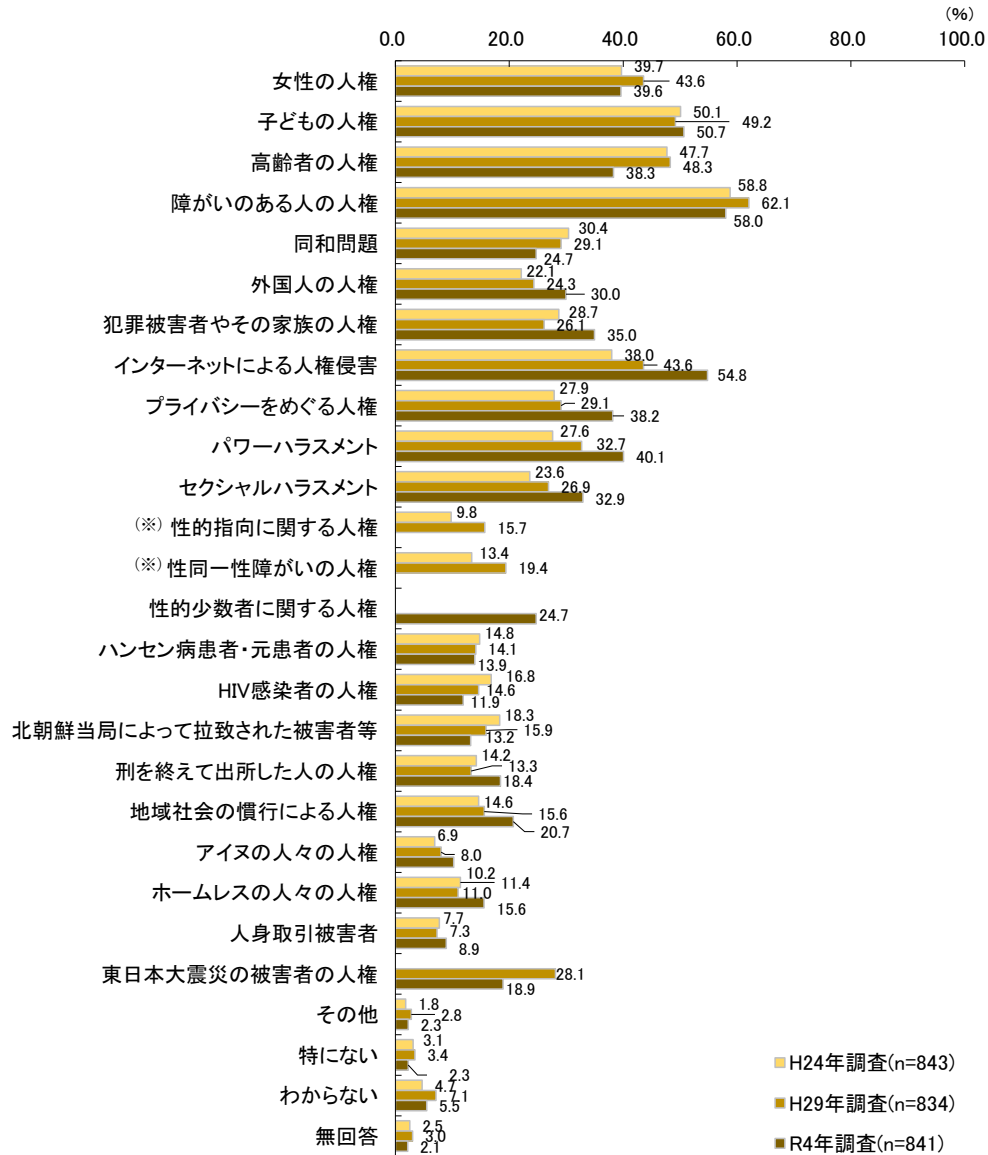
6. 人権課題を解決する方策について

6-1. 市が積極的に取り組む必要があると思われる課題

問23 今後、人権課題として、市が積極的に取り組む必要と思われる課題はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「障がいのある人の人権」が58.0%と最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」となっている。過年度と比較すると、特に、「インターネットによる人権侵害」、「プライバシーをめぐる人権」、「パワーハラスメント」、「セクシャルハラスメント」、「性的少数者に関する人権(※)」で増加傾向がみられる。

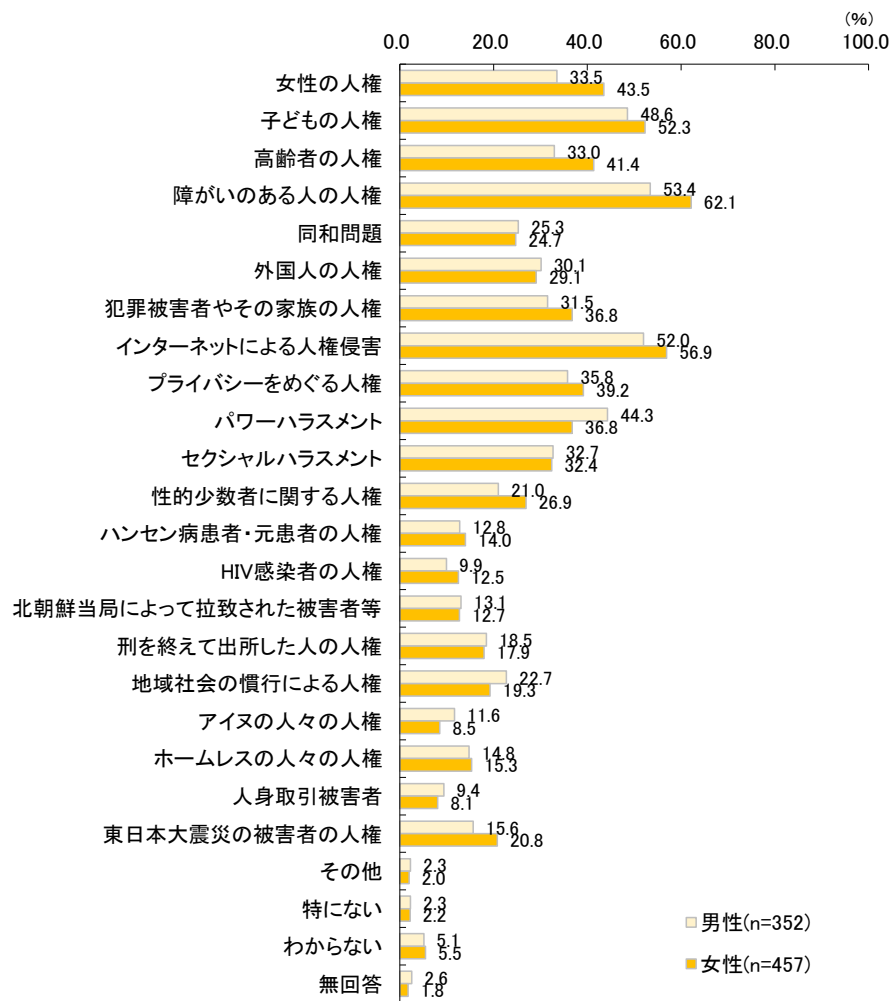
◆全体(経年比較)



※H24年、H29年調査では、「性的指向に関する人権」と「性同一性障がいの人権」の2つの選択肢に分かれていたが、R4年調査では「性的少数者への人権」の選択肢のみとなっている。
 なお、性同一性障がいは世界保健機関より障害ではないと宣言されており、現在では性的違和といわれている。

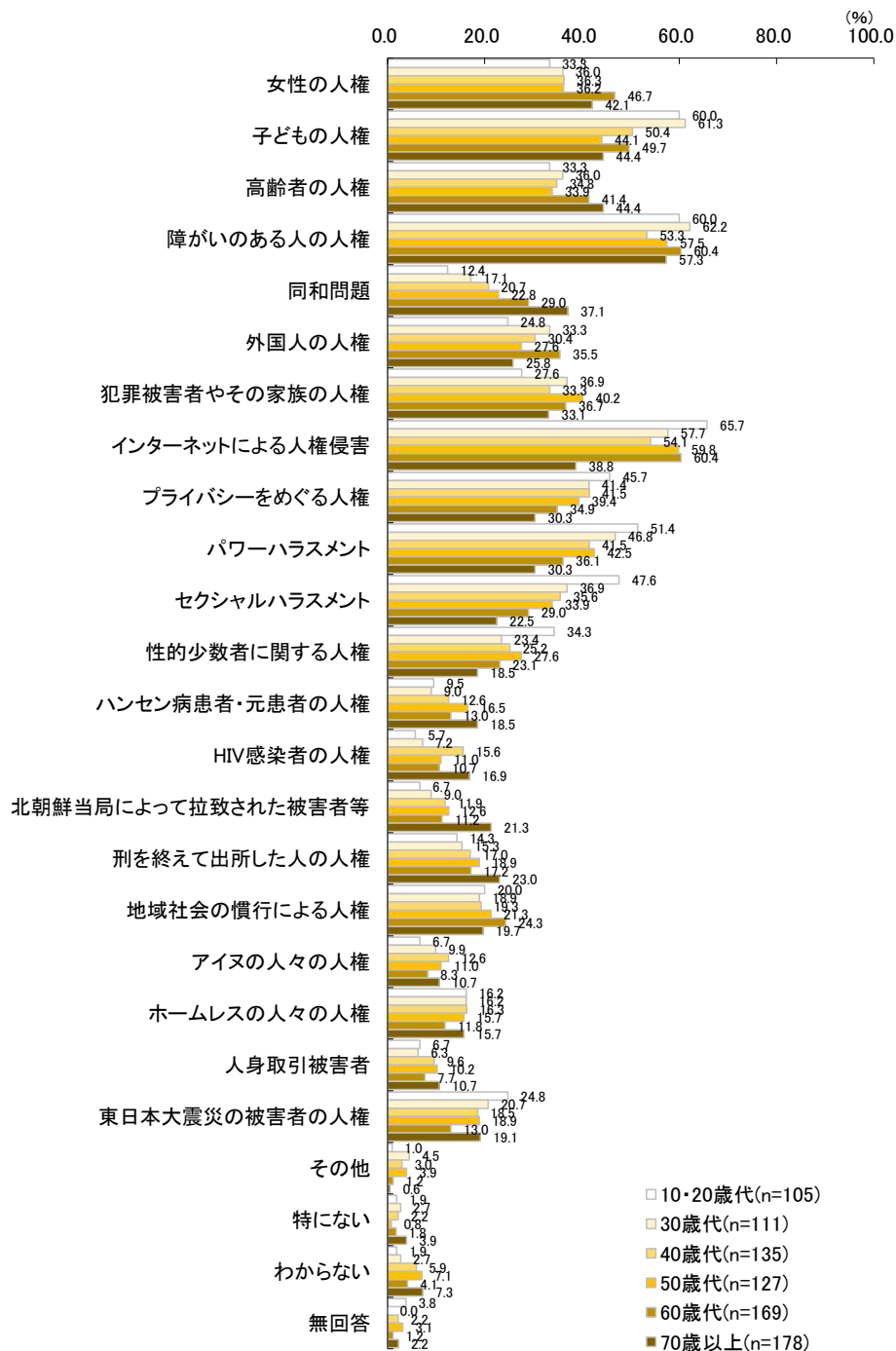
- 性別では、男女ともに「障がいのある人の人権」が最も高くなっている。
- 男女で差がみられるものとしては、女性では、自身の権利としての「女性の人権」が男性に比べて10.0ポイント高くなっている。一方、男性では「パワーハラスメント」が女性よりも7.5ポイント高くなっている。

◆性別



- 年代別では、若い世代ほど「子どもの権利」、「インターネットによる人権侵害」、「プライバシーをめぐる人権」、「パワーハラスメント」、「セクシャルハラスメント」、「性的少数者に関する人権」が高くなっている。一方、年代が上がるほど、「女性の人権」、「高齢者の人権」、「同和問題」が高くなっている。

◆年代別

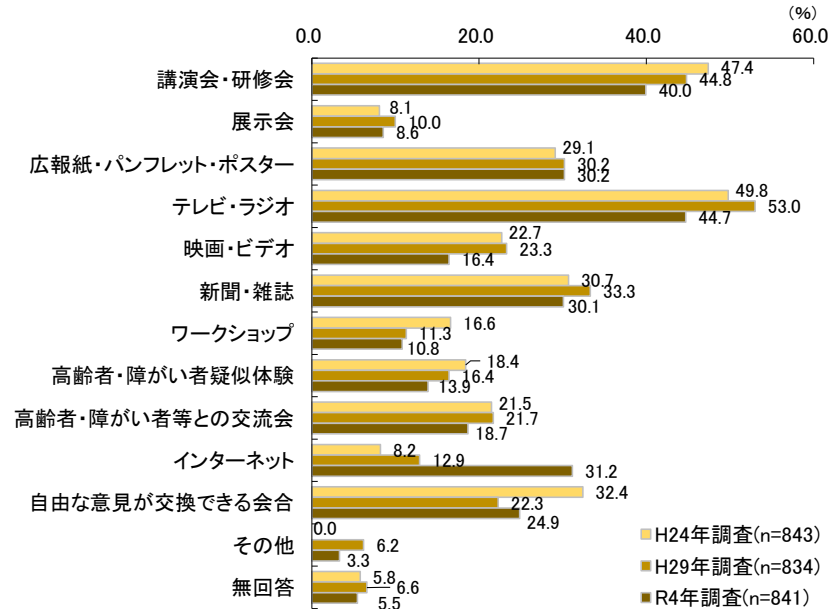


6-2. 人権啓発を推進するために効果的だと思う啓発活動

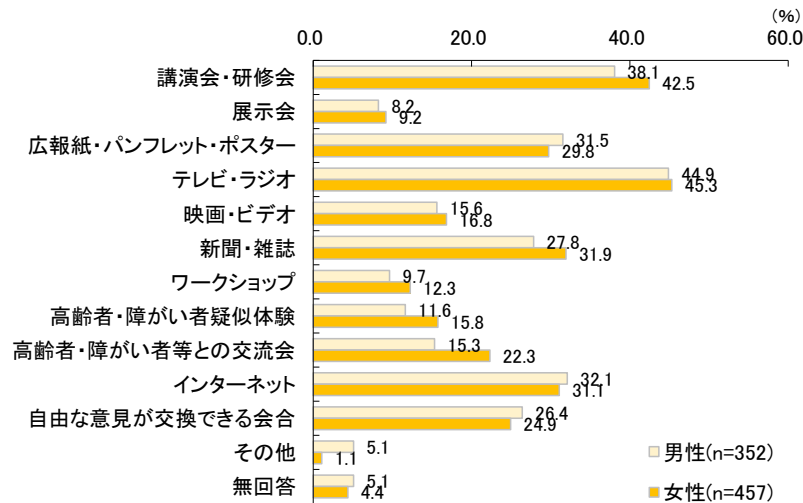
問24 あなたは、人権啓発を推進するためには、どのような啓発活動が効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 全体では「テレビ・ラジオ」が44.7%と最も高い。次いで「講演会・研修会」となっているが、過年度と比較して減少傾向にある。一方、「インターネット」は大きく増加している。
- 男性に比べ、女性の方が「講演会・研修会」、「新聞・雑誌」、「高齢者・障がい者等との交流会」の割合がやや高い。

◆全体（経年比較）

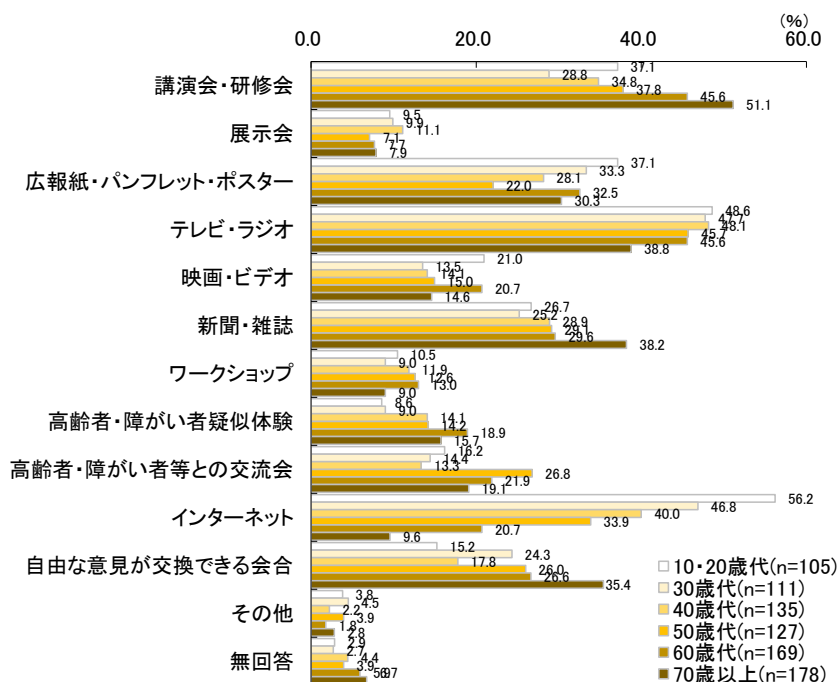


◆性別



- 年代別では、若い世代ほど「インターネット」が高く、10・20歳代では突出して高くなっている。また、「テレビ・ラジオ」も若い世代でやや高い。一方、年代が上がるほど、「講演会・研修会」や「新聞・雑誌」、「自由な意見が交換できる会合」が高い。

◆年代別

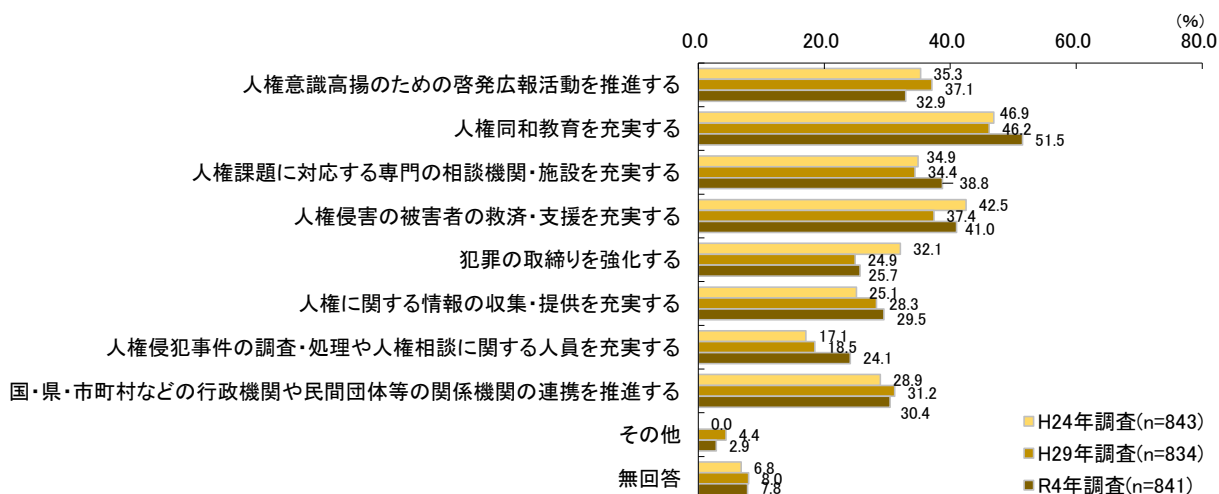


6-3. 人権課題を解決するために必要と思われること

問25 人権課題を解決するために必要と思われることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

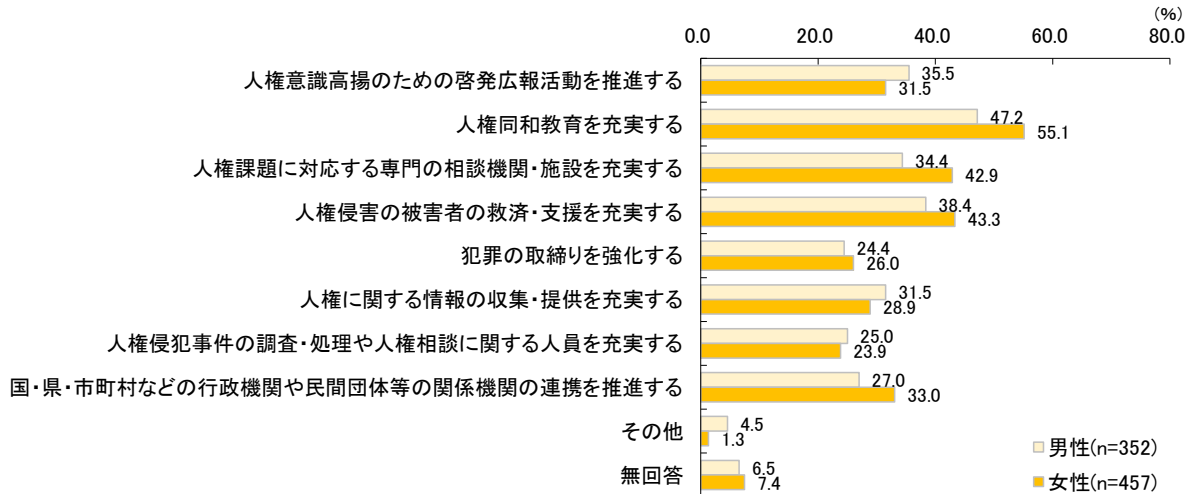
- 全体では「人権同和教育を充実する」が51.5%と最も高く、次いで「人権侵害の被害者の救済・支援を充実する」となっており、過年度と同様の傾向がみられる。

◆全体(経年比較)

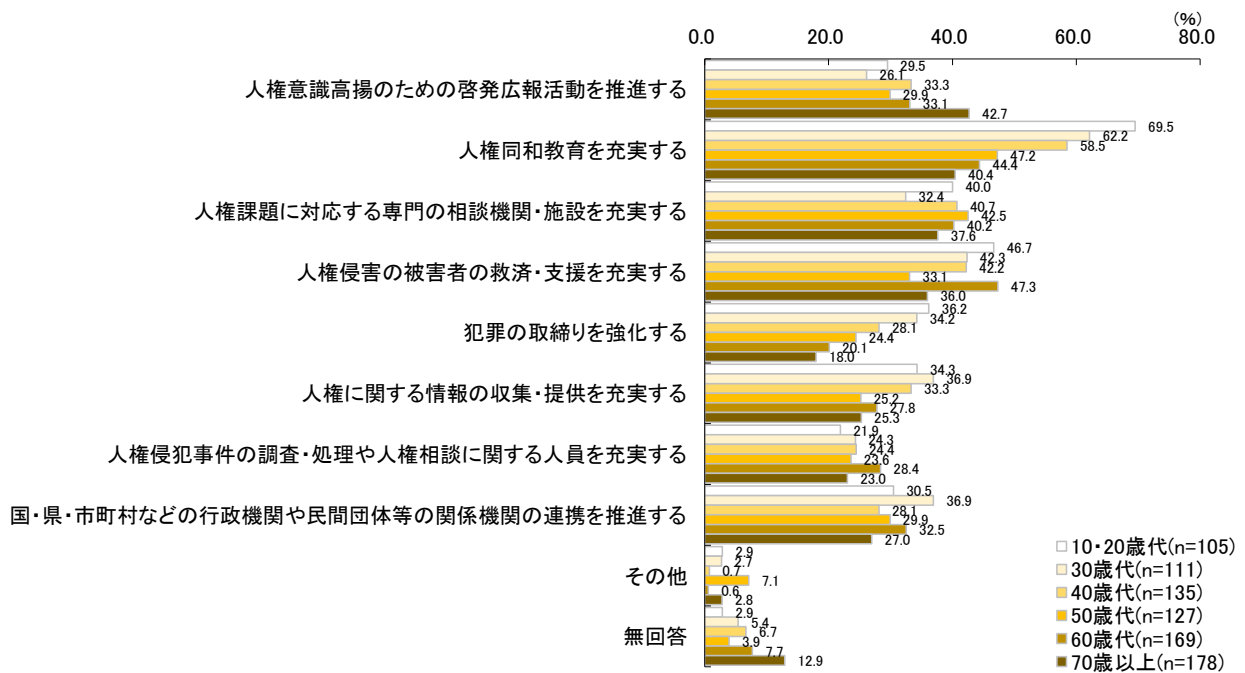


- 性別では、男性に比べ、女性の方が「人権同和教育を充実する」、「人権課題に対応する専門の相談機関・施設を充実する」「人権侵害の被害者の救済・支援を充実する」、「国・県・市町村などの行政機関や民間団体等の関係機関の連携を推進する」の割合がやや高い。
- 年代別では、若い世代ほど「人権同和教育を充実する」が高く、10・20歳代で突出して高くなっている。また、「犯罪の取締りを強化する」や「人権に関する情報の収集・提供を充実する」も若い世代ほど高くなっている。一方、年代が上がるほど、「人権意識高揚のための啓発広報活動を推進する」の割合が高い。

◆性別



◆年代別



6-4. ご意見・ご希望

問26 あらゆる人権課題の解決などについて、ご意見・ご希望をお書きください。

(1) 記述の分類と主な内容

主な記述内容	件数
人権問題解決に向けた取組に対する肯定的な意見	
人権について考える・学ぶ場や機会の充実	79
自分ができる取組を行う・自分事として捉える	23
人権意識高揚のための広報や啓発活動の推進	19
行政による積極的・継続的な取組・体制整備	18
人権侵害の被害者の救済・支援の充実	13
社会的なサポート・制度などの充実	14
市や教育者・保護者などへの指導や学習機会の充実	11
加害者への対応	6
人権に関する正しい情報の収集・提供	5
古い慣習やしきたり・考え方などを改める	4
支援の範囲を定めたうえでの取組の実施	2
人権問題解決に向けた取組に対する消極的な意見	
人権問題を特に取り上げる必要はない	20
なくならない・解決できない	5
その他	34

(2) 記述の具体的内容

主な人権問題解決に向けた取組に対する肯定的意見
「人権について考える・学ぶ場や機会の充実」
教育を軸とした啓発を根気よく続けていく必要があると考えられる。
成人してから価値観を変えることは難しいので、義務教育のなかで人権意識や差別問題の啓発活動を行うことが大事だと思う。
誤認識されない基礎教育を定期的に行い、一人ひとりが人権について学び、人権問題の関わりを大切にしていけることが重要だと思う。
特に人権問題として取り上げるのではなく、社会全体が全てのことに意識を持って暮らしていくなかで育まれるものだと思うので、社会的・政治的・文化的にいろいろ学べる場を作っていくことが行政の役割だと思う。小学校、中学校の頃から障がい者、高齢者等の施設にボランティアに行くことも一つの案だと思う。
人権教育について充実させてほしい。若い世代（高校生、大学生などある程度社会のしくみを理解できるようになった人たち）への教育、啓発に力を入れれば、未来が少し明るくなるかもしれない。
無意識ハラスメントを減らす研修など、管理職以上の人たちに今一度人権を考える機会を設けてほしい。
お互いが率直に人権について気軽に語り合える機会をもちたい。
「自分ができる取組を行う・自分事として捉える」
普段の生活において自分でできることから始める、一人ひとりの多様性を受け入れる、職場や学校、家庭など身近な環境における人権問題に意識を向ける、など自分ができるところから行う。
目の前で、人権侵害や差別事象があったらその場で勇気をもって、言って正してやるのが大事だと思う。最も良くないことは見て見ぬふりをするということである。間違っていることは正しく教えていないと、問題はなくなっていくかと思う。
一人ひとりの個人としては、人権課題意識をもち続け、学び続けることが大切だと考える。
人権を侵害されている方の話をよく聞き、その問題を解決する為に何ができるか、を自分の事として考えることが大切だと思う。

「人権意識高揚のための広報や啓発活動の推進」
講習会などは本当に興味がある人しか参加しないと思う。ポスターや映像を駅や市役所といった人が集まるところに設置し、情報に触れる機会を増やすことで、今まで意識しなかった人達の認知の向上に繋がるのではないかと思います。
テレビドラマなどを通じて共感を促すことで、人権について自然に考えられるようになるのではないかと思います。
実際に住んでいる市町村などでどのくらいの数の被害が起こっているのかなどある程度数字でみえるものも必要だと思う。実際に数字でみえることにより身近な所で起こっている問題なのだと人権に関する意識も高まってくるのではないかと思います。
テレビ CM や駅での広告は有効なのではないかと思います。また、若い人たちへは SNS を活用すると思う。
「行政による積極的・継続的な取組・体制整備」
粘り強く継続的に活動を実施する必要がある。
人権教育や同和問題は、そこに携わる人だけではなく上田市全体の問題として市長を中心として動くようにしてほしい。いろいろな問題がありすぎてすぐには解決できないから少しずつ真剣に取り組んでほしい。
専門に推進する組織を拡充させる。
政治家、社会を先頭に立って事を動かす方々が、何事も正直に謙虚に取り組む姿勢を持って、行動してもらえれば自然と人権啓発になると思う。
人権課題を解決する方策については行政機関の重点度が予算や人材等大きく左右すると考えられ、関係機関との連絡を密にし、併せて組織の体制をしっかり立てて業務を行うことが必要だと思う。
「人権侵害の被害者の救済・支援の充実」
相談の窓口を多くの市民が知っていることが大事だと思う。
対面ではなく相談できる場所（SNS や電話など）があると思う。
社会に出た時に職場での不当な扱いや、上から攻撃的な圧等で心の病気になる人が沢山いると思います。そういう人の逃げ道を（相談員等）作ってほしい。
差別が起きた時の相談窓口を強化してほしい。
「社会的なサポート・制度などの充実」
社会的弱者への保護は、重要な課題だと思う。実りのある対策をしてほしい。
女性は中途採用者の賃金、正社員雇用への移行などの改善が必要だと思う。あまりに低賃金なので、大至急の改善を求める。
現在の政治では子どもを育てる親の人権（権利）が蔑ろにされているように感じる。所得制限による児童手当の制限など、子どもが生きやすくなるための支援や政策を充実させてほしい。
障がい者の就職先や職場への窓口が狭いので充実してほしい。
同性婚や事実婚のもっとしっかりした制度を整えてもらいたい。
経済的弱者への教育面での支援をして、職業の選択肢を広げるにより生活上の差別は減少するのではないかと思います。
「市や教育者・保護者などへの指導や学習機会の充実」
良識を持った大人が子どもに正しい教育を重ね、何世代か後になって今よりも少し良くなっている程度だと思う。江戸時代からの差別が残っているのが何よりも示していると思う。
差別観の基本は親から子への伝達が強いと思うので、差別世代の意識の改善が必要だと思う。
人権侵害の最初は学校教育からだと思う。いじめる側の理由や不満など、じっくり聞いてあげる大人がいてもいいと思う。子どもたちが笑顔でくらせる上田市であってほしい。
「人権に関する正しい情報の収集・提供」
インターネット上は偏った情報もあふれていて、正しい情報であるかどうかを判断しにくくなってきているので、行政機関や民間団体などがもっと正しい情報発信に力を入れていくことがとても重要ではないかと思います。
情報をしっかり整理し、きちんと認識したうえでの差別解消でなければならないと思う。

「加害者への対応」
差別を行った人を厳しく罰する事のできる仕組みを整備することで、社会全体の空気を変えていくことが大事なのではないかと思う。
「古い慣習やしきたり・考え方などを改める」
新しい考えをそれぞれ言えて、受け入れられるような市にしていてもらいたい。
昭和の家制度があらゆる差別を発していると思う。
人の生き方は様々なので、寛容であることが大事なのではないかと思う。
「支援の範囲を定めたいでの取組の実施」
行きすぎ、やりすぎ（結果的に）による逆差別には注意が必要だと思う。例えば「女性登用」に重きを置くと、女性当事者は望んで登用される訳ではなく、無理やり登用されているように見える場合もあると考えられる。

主な人権問題解決に向けた取組に対する消極的意見
「人権問題を特に取り上げる必要はない」
人権問題はあまり騒ぎすぎない方がいいのではと思う。
同和教育をしなければいけないのか。知らなければそれで済むのになと思ってしまう。
同和教育は学校で習ったのをきっかけに地区や部落を意識するようになった。“寝た子を起こす”必要はないと感じる。
学校での同和教育は不要である。わざわざ差別地域を知らない子どもに教えるから、引き継がれる。
「なくならない・解決できないと思う」
人それぞれの性格があるため完全に解決はできないと思う。
差別の問題は子どもの頃から道徳などで学んだが、いまだに無くならないのはそれだけ世の中が荒んでいるからだと思う。
生活水準が平等にならなければ何も解決しないと思う。

その他意見
何気なく使う言葉は他人にとっては傷ついたりすることがある。言葉選びも難しい。
周りに大きな問題を抱えた人たちがいないため、新聞やテレビで情報を収集している限りで、それが正しいのか疑問に思うこともしばしばある。答えを出すのは大変な世の中になっているなとつくづく感じており、本を読むなど、多方面からの考えを探す見方や考えを持つことが必要だと思う。
様々な年代の方が様々な意見を持って生活しているので完璧な状態というのは難しいと思うが、今まで以上に生活しやすい上田市になっていけば嬉しい。
こうでなければならぬと強く勧めるべきことではないと思う。敵と味方ではなく同じ人間で仲間なのだから、を起点にしていけたらと思う。
本来当たり前である「差別してはいけない」という意識が低すぎる。差別のない住みよいまちになってほしい。
個人が人に左右されない生き方が出来るかが大事だと思う。

【小括】人権課題を解決する方策について

- 今後、人権問題として市が積極的に取り組む必要があると思われる課題
 - ・ 障がい者の人権問題を課題として挙げている人が最も多い。
 - ・ 過年度と比較すると、特に、「インターネットによる人権侵害」、「プライバシーをめぐる人権」、「パワーハラスメント」、「セクシャルハラスメント」、「性的少数者に関する人権」の割合は増加しており、現代的な人権問題として関心の高さがみられる。
- 人権啓発を推進するために効果的だと思う啓発活動
 - ・ 「テレビ・ラジオ」、「講演会・研修会」の割合が高い。自治会、地域の公民館、学校における講演会や研修会は年配の方や保護者の方の参加割合が一定数いることから、今後も継続していくことは必要といえる。
 - ・ また、若い世代ほど「インターネット」や「テレビ・ラジオ」の割合が高く、特にインターネットは10・20歳代で高くなっている。今後は、人権に関する講演・研修等への参加経験が他の年代に比べて低い若い世代に向けて、インターネットを通して様々な人権について学べる機会や情報を提供することは必要と考えられる。
- 人権課題の解決に向けて必要なこと
 - ・ 「人権同和教育を充実する」の割合が最も高くなっており、年代にあった学習の充実が求められている。
 - ・ 次に、「人権侵害の被害者の救済・支援を充実する」が高くなっている。人権被害にあったときの相談窓口や施設の充実や周知といった、セーフティネットの整備も重要である。

Ⅲ 調査資料

1. 調査票

人権に関する市民意識調査

令和 4 年 8 月
上田市・上田市教育委員会

アンケート調査ご協力のお願い

日頃から市政にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。
上田市では、「一人ひとりの人権が尊重される社会の実現」を目指して、「上田市人権施策基本方針」に基づき施策を推進しております。

このたび、今後の人権施策の参考とするため、市民の皆様から人権についてのお考えをお聞かせいただくことといたしました。この調査は、18 歳以上の上田市民から無作為に 2,000 人の方を選び、質問にお答えいただく方法により実施いたします。その一人として、あなたにお願いすることになりました。

なお、この調査は無記名の調査であり、お答えいただいたことはすべて統計的に処理し、他の目的に使用されることはありませんので、日頃のお考えを率直にお書きくださるようお願いいたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

【調査に関するお問い合わせ】

上田市教育委員会 生涯学習・文化財課 〒386-8601
上田市大手一丁目11番16号
電話 0268-23-5197 FAX 0268-23-6368

上田市市民まちづくり推進部 人権男女共生課 〒386-0014
上田市材木町一丁目2番2号
電話 0268-23-5393 FAX 0268-23-5393

1

ご記入にあたってのお願い

封筒のあて名のご本人がお答えください。ご本人による回答が困難な場合は、可能な範囲で、ご家族等がご本人から聞き取るなどとしてご回答くださいますようお願いいたします。

ご回答方法

このアンケートは、A か B いずれかの方法で一回のみご回答ください。

A この調査用紙を使って回答する場合

- 1 回答は、基本的に選択形式です。あてはまる答えの番号を選んで質問の右側に設けてある記入欄にご記入ください。
- 2 質問によって1つだけ選んでいただく場合と複数選んでいただく場合がありますので、各質問の説明に従ってご回答ください。
- 3 調査用紙に回答をご記入いただきましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に調査用紙を折って入れていただき、ポストに投函してください。

B WEB(インターネット)を使って回答する場合

- 1 下記の URL、もしくは QR コードからご回答ください。
- 2 インターネットでご回答いただいた方は、紙の調査用紙の返送は不要です。

https://s-kantan.jp/city-ueda-nagano-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=23869



QR コード

ご回答期限 令和4年9月15日(木)

2

問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ(印象、感想)をもっていますか。

A 重要である (次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1 1: A
2 1: A
3 1: A
4 1: A
5 1: A

B 自分に関係が深い (次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1 1: B
2 1: B
3 1: B
4 1: B
5 1: B

問2 日本の社会では、女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題、性的少数者などの差別をはじめさまざまな人権問題がありますが、あなたは、人権問題に関心を持っていますか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1 関心がある
2 少し関心がある
3 あまり関心がない
4 関心がない

問3 人権に関する講演会・研修会・懇談会・学習会・イベントに参加したことがありますか。(参加したことがあるものすべてに○をつけてください。)

1 市が行う講演会・研修会・イベント(人権を考える市民のつどい・ふれあい人権の集い・人権セミナー・人権フェスティバルなど)
2 自治会(公民館分館)の懇談会
3 地域の公民館等の講演会・研修会・集会
4 学校・PTA の講演会・研修会
5 職場内の講演会・研修会・集会
6 その他()
7 参加したことはない

3

問4 あなたは、次の法律についてご存じですか。

(次の中からあてはまる番号をそれぞれ1つずつ選び、○で囲んでください。)

	内容を含め知っている	法律名だけ知っている	知らない
A 部落差別解消推進法(*1)	1	2	3
B ヘイトスピーチ解消法(*2)	1	2	3
C 障害者差別解消法(*3)	1	2	3

*1 部落差別解消推進法……「部落差別の解消の推進に関する法律」、平成 28 年 12 月施行
*2 ヘイトスピーチ解消法……「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」、平成 28 年 6 月施行
*3 障害者差別解消法……「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」、平成 28 年 4 月施行

問5 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1 ある
2 ない

●「ある」と答えた方は、次の問5-1へお進みください。
「ない」と答えた方は、問6へお進みください。

問5-1 その人権侵害はどのようなものでしたか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

1 悪口・うわさ
2 仲間はずし・無視
3 プライバシーの侵害
4 差別待遇
5 暴力・脅迫・強要
6 パワーハラスメント
7 セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)
8 その他()

4

問8 あなたは、現在の社会で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

8

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問8-1 どのような面で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 生活面で
2 ☐ 医療や福祉で
3 ☐ 家庭内での嫌がらせ・虐待
4 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
5 ☐ 働ける能力を発揮する機会が少ない
6 ☐ その他()

問9 あなたは、現在の社会で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

9

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問9-1 どのような面で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 生活面で
2 ☐ 医療・福祉で
3 ☐ 教育で
4 ☐ 就職・職場で
5 ☐ 結婚で
6 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
7 ☐ 障がい者に対する理解が足りないこと(合理的配慮(*)が提供されていないなど)
8 ☐ 法律・制度(旧優生保護法により強制的に不妊手術が行われたことなど)
9 ☐ その他()

*合理的配慮…障がいのある人から、社会の中にあるバリア(施設などの問題点)を取り除くために何らかの対応をしてほしいという意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること

7

問10 あなたは、現在の社会で日本に居住している外国人に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

10

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問10-1 どのような面で外国人に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 教育で
2 ☐ 就職・職場での待遇などで
3 ☐ 結婚で
4 ☐ 医療・福祉で
5 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
6 ☐ アパートなどの入居の拒否
7 ☐ ヘイトスピーチなど特定の国籍の外国人を排斥する趣旨の言動
8 ☐ その他()

問11 あなたは、現在の社会で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

11

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問11-1 どのような面で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 結婚で
2 ☐ 就職・職場での待遇などで
3 ☐ 治療・入院の拒否
4 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
5 ☐ アパートなどの入居の拒否
6 ☐ 施設利用の拒否
7 ☐ その他()

8

問8 あなたは、現在の社会で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

8

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問8-1 どのような面で高齢者に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 生活面で
2 ☐ 医療や福祉で
3 ☐ 家庭内での嫌がらせ・虐待
4 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
5 ☐ 働ける能力を発揮する機会が少ない
6 ☐ その他()

問9 あなたは、現在の社会で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

9

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問9-1 どのような面で障がいのある人に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 生活面で
2 ☐ 医療・福祉で
3 ☐ 教育で
4 ☐ 就職・職場で
5 ☐ 結婚で
6 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
7 ☐ 障がい者に対する理解が足りないこと(合理的配慮(*)が提供されていないなど)
8 ☐ 法律・制度(旧優生保護法により強制的に不妊手術が行われたことなど)
9 ☐ その他()

*合理的配慮…障がいのある人から、社会の中にあるバリア(施設などの問題点)を取り除くために何らかの対応をしてほしいという意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること

7

問10 あなたは、現在の社会で日本に居住している外国人に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

10

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問10-1 どのような面で外国人に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 教育で
2 ☐ 就職・職場での待遇などで
3 ☐ 結婚で
4 ☐ 医療・福祉で
5 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
6 ☐ アパートなどの入居の拒否
7 ☐ ヘイトスピーチなど特定の国籍の外国人を排斥する趣旨の言動
8 ☐ その他()

問11 あなたは、現在の社会で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。
(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
2 どちらかといえばあると思う
3 どちらかといえばないと思う
4 ないと思う
5 わからない

11

● 「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問11-1 どのような面で HIV 感染者・エイズ患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。
(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- 1 ☐ 結婚で
2 ☐ 就職・職場での待遇などで
3 ☐ 治療・入院の拒否
4 ☐ 日常的な態度・言葉・文脈など
5 ☐ アパートなどの入居の拒否
6 ☐ 施設利用の拒否
7 ☐ その他()

8

問12 あなたは、現在の社会でハンセン病患者・元患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 あると思う
- 2 どちらかといえばあると思う
- 3 どちらかといえばないと思う
- 4 ないと思う
- 5 わからない

12

●「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」と答えた方にお聞きします。

問12-1 どのような面でハンセン病患者・元患者やその家族に対する差別・偏見があると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| ☐ | 結婚で |
| ☐ | 就職・職場での待遇などで |
| ☐ | 治療・入院の拒否 |
| ☐ | 日常的な態度・言葉・交際など |
| ☐ | アパートなどの入居の拒否 |
| ☐ | 施設利用の拒否 |
| ☐ | 法律・制度(旧優生保護法により強制的に不妊手術が行われたことなど) |
| ☐ | その他() |

問13 あなたは、SNSをはじめとしたインターネットによる人権侵害に関し、現在、どのような問題が起きていると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|---|
| ☐ | 他人を誹謗中傷する表現を掲載すること |
| ☐ | 差別を助長する表現を掲載すること |
| ☐ | 出会い系サイト、LINE(ライン)、ツイッターなどのSNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること |
| ☐ | 捜査の対象となっている未成年者の名や顔写真を掲載すること |
| ☐ | プライバシーに関する情報を掲載すること |
| ☐ | ネットボロボロが存在していること |
| ☐ | 人権問題は特に関心がない |
| ☐ | その他() |

問14 あなたは、LGBTQ(※)という言葉について、知っていますか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 よく知っている
- 2 内容(意味)を多少は知っている
- 3 名称(言葉)は知っている
- 4 全く知らない

14

※ LGBTQ…女性同性愛者(レズビアン)、男性同性愛者(ゲイ)、異性も同性も好きになる人(バイセクシュアル)、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人(トランスジェンダー)、性自認や性的指向が明確でない人(クエスチョニング)の略

9

●「よく知っている」、「内容(意味)を多少は知っている」と答えた方にお聞きします。

問14-1 あなたは、LGBTQ 等の性的少数者の方々に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ☐ | 職場、学校において、嫌がらせをすること |
| ☐ | 差別的な言動をすること |
| ☐ | 就職・職場で不利な扱いをすること |
| ☐ | アパート等の住宅への入居を拒否すること |
| ☐ | 宿泊を拒否すること |
| ☐ | 店舗等への入店や施設利用を拒否すること |
| ☐ | じろろ見られたり、避けられたりすること |
| ☐ | 法的支援制度(パートナーシップ宣誓制度(※1)など)が整っていないこと |
| ☐ | アウティング(※2)を受けること |
| ☐ | LGBTQ 等の性的少数者に対する理解が足りないこと |
| ☐ | 人権問題は特に関心がない |
| ☐ | わからない |
| ☐ | その他() |

※1 パートナーシップ宣誓制度… 地方自治体が、同姓のカップルを「婚姻に相当する関係」と認め、自治体独自の証明書を発行する制度

※2 アウティング… 性的指向・性自認について、本人の了解を得ずに、第三者に暴露する行為のこと

問15 あなたは、犯罪被害者やその家族に関し、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|---|
| ☐ | 犯罪行為及び捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること |
| ☐ | 犯罪行為によって経済的負担を受けること |
| ☐ | 事件に関して、うわさ話をされること |
| ☐ | 刑事裁判手続に被害者の声が十分反映されないこと |
| ☐ | 報道、取材や一般人のSNS等によってプライバシーに関することが公にされ、私生活の平穏が保てなくなる |
| ☐ | 精神的・経済的負担を周囲の人が理解してくれないこと |
| ☐ | 人権問題は特に関心がない |
| ☐ | わからない |
| ☐ | その他() |

10

問16 あなたは、新型コロナウイルス感染症に関連し、どのような人権問題が起きていると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|--|
| ☐ | 感染者やその家族について、うわさされたり、誹謗中傷(ひどい悪口)をされたりすること |
| ☐ | 感染者やその家族の氏名・住所等の情報がインターネットに掲載されたり、書き込みをされたりすること |
| ☐ | 感染者の子どもがいじめられること |
| ☐ | 医療従事者等の家族が出勤や店舗等への入店を拒否されたり、子どもの登校・登園を拒否されたりすること |
| ☐ | いじめのない誹謗中傷(ひどい悪口)により店舗等の営業を妨げられること |
| ☐ | 他都道府県からの移動者が嫌がらせをされること |
| ☐ | 外国人であることをもって、不当な取り扱いをされること |
| ☐ | 人権問題は特に関心がない |
| ☐ | わからない |
| ☐ | その他() |

IV 部落差別等の同和問題に関する意識について

問17 あなたは、同和問題(部落差別)を知っていますか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 知っている
- 2 知らない

17

●「知っている」と答えた方は、次の問18へお進みください。
「知らない」と答えた方は、13ページの問23へお進みください。

問18 あなたが、同和問題を、知ったきっかけは次のどれですか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 家族(祖父母・父母・兄弟姉妹など)から聞いた
- 2 親戚の人から聞いた
- 3 近所から聞いた
- 4 職場の人から聞いた
- 5 学校の友だちから聞いた
- 6 学校の授業で学んだ
- 7 テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った
- 8 インターネットで知った
- 9 同和問題の集会や研修会で知った
- 10 県や市の広報紙や冊子等で知った
- 11 はっきり覚えていない
- 12 その他()

18

11

問19 あなたは同和問題についてどのようにお考えですか。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 今も差別が根深く残っている
- 2 改善されてきているが、まだ残っている
- 3 ほとんど差別は解消された
- 4 差別は解消された
- 5 わからない

19

●「今も差別が根深く残っている」、「改善されてきているが、まだ残っている」と答えた方にお聞きします。

問19-1 現在どのような面で同和問題(部落差別)があると思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

- | | |
|---|---------------------------|
| ☐ | 住宅など生活環境 |
| ☐ | 近所づきあい |
| ☐ | 学歴・教育の面 |
| ☐ | 就職 |
| ☐ | 職場のつきあいや職業上 |
| ☐ | 結婚 |
| ☐ | 差別的な言動・落書き |
| ☐ | 身元調査 |
| ☐ | インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること |
| ☐ | その他() |
| ☐ | わからない |

問20 あなたが同和地区の人と恋愛し、結婚しようとしたとき、親や親戚から反対されたら、あなたはどうしますか。(既婚の方も未婚だと仮定してお答えください。)

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 自分の意志を貫いて結婚する
- 2 親や親戚の説得に全力を傾けた後に、自分の意志を貫いて結婚する
- 3 家族の者や親戚の者の反対があれば、結婚しない
- 4 同和地区の人とは結婚しない

20

問21 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であった場合、あなたはどのようにしますか。(お子さんが既に結婚されていたり、今現在お子さんがいない方も、ご自分のお子さんがこれから結婚すると仮定してお答えください。)

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

- 1 相手の出身は問題にしない
- 2 子どもの意志を尊重する
- 3 親としては反対であるが、子どもの意志が強ければ、結婚を認める
- 4 他の家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない
- 5 結婚を認めない

21

12

1 ☐ 自分の問題として解決に努力すべきだと思う
2 ☐ 誰かしるべき人が解決してくれると思う
3 ☐ 自分とは直接関係のない問題だと思う
4 ☐ そっとしておけば差別は自然になくなると思う
5 ☐ どのようにしても差別はなくならないと思う
6 ☐ よく考えていない
7 ☐ その他()

V 人権課題を解決する方策について

問23 今後、人権課題として、市が積極的に取り組む必要があると思われる課題はどれですか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

女性の人権
子どもの人権
高齢者の人権
障がいのある人の人権
部落差別等の同和問題
外国人の人権
犯罪被害者やその家族の人権
インターネットによる人権侵害
プライバシーをめぐる人権
パワーハラスメント
セクシャルハラスメント
LGBTQ(＊)等の性的少数者に関する人権
ハンセン病患者・元患者の人権
HIV 感染者・エイズ患者の人権
北朝鮮当局によって拉致された被害者等のの人権
刑を終えて出所した人の人権
地域社会の慣行による人権
アイヌの人々の人権
ホームレスの人々の人権
人身取引被害者の人権
東日本大震災の被害者の人権
その他()
特にない
わからない

* LGBTQ…女性同性愛者(レズビアン)、男性同性愛者(ゲイ)、異性も同性も好きになる人(バイセクシャル)、性自認が出生時に割り当てられた性別とは異なる人(トランスジェンダー)、性自認や性的指向が明確でない人(クエスチョニング)の略

13

問24 あなたは、人権啓発を推進するためには、どのような啓発活動が効果的だと思いますか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

4	講演会・研修会
5	展示会
6	広報紙・パンフレット・ポスター
7	テレビ・ラジオ
8	映画・DVD
9	新聞・雑誌
10	ワークショップ(専門家を交えた少人数の討論会)
11	高齢者・障がい者等の疑似体験
12	高齢者・障がい者等との交流会
13	インターネット(ホームページ、ツイッターなどの SNS)
14	自由な意見の交換ができる会合
15	その他()

問25 人権課題を解決するために必要と思われることは何ですか。

(あてはまるものすべてに☑をつけてください。)

人権意識高揚のための啓発広報活動を推進する
人権同和教育を充実する（学校や社会）
人権課題に対応する専門の相談機関、施設を充実する
人権侵害の被害者の救済・支援を充実する
犯罪の取締りを強化する
人権に関する情報の収集・提供を充実する
人権侵害事件の調査・処理と人権相談に関する人員を充実する
国・県・市町村などの行政機関や民間団体等の関係機関の連携を推進する
その他（ ）

問26 人権教育や人権啓発の推進、同和問題をはじめとするあらゆる人権課題の解決などについて、ご意見、ご希望をお書きください。

[illegible]

14

◇ 調査結果を統計的に処理するために、ご記入をお願いします。

あなたの性別をお書きください。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1	男性
2	女性
3	その他
4	答えたくない

27

27

あなたの年齢をお答えください。

(次の中から1つ選んで番号をお書きください。)

1	10 歲代
2	20 歲代
3	30 歲代
4	40 歲代
5	50 歲代
6	60 歲代
7	70 歲以上

28

28

お忙しい中、調査にご協力をいただき、ありがとうございました。

15

2. 調査結果表

問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ(印象、感想)を持っていますか。(重要である)

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
そう思う	612	10	25	30	42	33	62	54	0	9	37	47	49	51	66	72	0	2	11	12
まあそう思う	169	2	6	11	10	10	13	20	0	0	9	14	18	20	17	13	1	1	1	3
どちらともいえない	45	0	2	3	2	4	0	4	0	0	2	3	3	5	7	9	0	0	1	0
あまりそう思わない	11	0	0	1	2	1	0	3	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0
そう思わない	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問1 あなたは「人権」ということについて、どのようなイメージ(印象、感想)を持っていますか。(自分に関係が深い)

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
そう思う	263	5	8	15	20	19	24	26	0	7	13	16	21	19	24	34	0	1	5	6
まあそう思う	249	3	12	16	20	12	23	19	0	1	18	31	18	18	32	14	0	0	6	6
どちらともいえない	186	1	10	6	7	9	18	18	0	0	9	9	22	25	24	22	1	2	2	1
あまりそう思わない	100	3	3	7	8	6	6	12	0	1	6	6	6	10	9	17	0	0	0	0
そう思わない	29	0	0	1	1	3	2	2	0	0	2	1	2	3	2	9	0	0	1	0
無回答	14	0	0	0	1	0	2	4	0	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問2 日本の社会では、女性、子ども、高齢者、同和問題などの差別をはじめさまざまな人権問題がありますが、あなたは、人権問題に関心を持っていますか。

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
関心がある	366	4	8	11	19	21	39	45	0	6	28	32	25	25	32	56	0	2	8	5
少し関心がある	356	6	19	21	25	15	29	25	0	3	18	29	35	39	47	29	1	1	6	8
あまり関心がない	107	2	6	9	11	12	7	10	0	0	3	3	9	12	11	11	0	0	0	1
関心がない	11	0	0	4	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1
無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問3 人権に関する講演会・研修会・懇談会・学習会・イベントに参加したことがありますか。(あるものすべてに○)

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
市が行う講演会・研修会・イベント	134	0	0	1	7	8	17	26	0	0	3	3	9	12	17	27	0	0	0	4
自治会(公民館分館)の懇談会	209	0	0	2	9	11	28	44	0	1	0	0	10	22	36	44	0	0	0	2
地域の公民館等の講演会・研修会・集会	142	0	1	2	5	6	20	31	0	0	0	1	8	14	17	32	0	0	0	5
学校・PTAの講演会・研修会	282	4	11	10	10	10	17	14	0	8	18	19	29	44	43	32	1	1	6	5
職場内の講演会・研修会・集会	149	0	6	9	10	11	24	13	0	0	6	9	11	16	15	14	0	1	2	2
その他	17	0	1	2	2	0	3	2	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	2
参加したことはない	311	8	17	22	32	22	17	22	0	0	24	39	29	20	24	22	0	1	8	4
無回答	12	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	3	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問4-1 あなたは、平成 28 年 12 月に施行された部落差別解消推進法についてご存知ですか。

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
内容を含め知っている	151	2	2	8	8	10	19	20	0	5	5	6	3	9	16	33	0	0	1	4
法律名だけ知っている	308	6	7	12	19	14	27	41	0	3	17	22	24	34	42	32	1	1	2	4
知らない	357	4	22	24	28	25	26	18	0	1	26	33	41	31	31	27	0	2	11	7
無回答	25	0	2	1	2	0	3	2	0	0	1	3	2	2	2	5	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問4-2 あなたは、平成 28 年 6 月に施行されたヘイトスピーチ解消法についてご存知ですか。

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
内容を含め知っている	77	1	1	4	7	9	11	5	0	2	4	5	4	6	7	10	0	0	0	1
法律名だけ知っている	287	2	12	17	20	14	35	34	0	2	13	18	23	32	31	25	1	1	3	4
知らない	445	9	18	24	28	25	26	36	0	5	31	38	41	36	50	55	0	2	11	10
無回答	32	0	2	0	2	1	3	6	0	0	1	3	2	2	3	7	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問4-3 あなたは、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法についてご存知ですか。

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
内容を含め知っている	121	1	2	9	7	8	10	11	0	4	6	6	5	13	10	26	0	0	1	2
法律名だけ知っている	312	5	12	15	22	14	32	36	0	4	20	22	21	31	40	27	1	1	3	6
知らない	383	6	17	20	26	26	31	31	0	1	22	32	42	32	38	40	0	2	10	7
無回答	25	0	2	1	2	1	2	3	0	0	1	4	2	0	3	4	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問5 あなたは、今までに、ご自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
ある	325	5	16	10	22	22	27	22	0	3	22	32	28	29	38	33	1	0	8	7
ない	507	7	17	35	35	27	48	59	0	6	26	30	41	47	50	62	0	3	6	8
無回答	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	3	2	0	0	0	0
合計	841	12	33	45	57	49	75	81	0	9	49	64	70	76	91	97	1	3	14	15

問5-1 その人権侵害はどのようなものでしたか。(あてはまるものすべてに○)

	総合計	男性								女性								その他	答えたくない	無回答
		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答			
悪口・うわさ	199	5	10	5	15	11	14	15	0	2	16	20	17	18	23	18	1	0	6	3
仲間はずし・無視	143	2	7	3	10	9	5	4	0	2	12	22	16	12	16	13	1	0	6	3
プライバシーの侵害	77	0	2	4	7	4	7	2	0	1	8	12	5	6	5	4	0	0	6	4
差別待遇	101	1	5	1	7	7	11	7	0	1	4	9	8	7	10	16	0	0	3	4
暴力・脅迫・強要	55	2	2	4	6	5	4	1	0	1	0	11	3	3	5	3	0	0	2	3
パワーハラスメント	142	1	7	6	12	15	16	6	0	0	7	18	12	13	13	11	0	0	2	3
セクシャルハラスメント	35	0	2	0	1	1	1	0	0	0	2	2	6	8	6	2	0	0	2	2
その他	11	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	3
無回答	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	325	5	16	10	22	22	27	22	0	3	22	32	28	29	38	33	1	0	8	7

人権に関する市民意識調査 報告書

令和4年12月

発行 上田市教育委員会 生涯学習・文化財課

386-8601

長野県上田市大手一丁目11番地16号

電話 (0268) 23-5197 (人権同和教育係)

上田市 人権男女生課

386-0014

長野県上田市材木町一丁目2番2号

市民プラザ・ゆう

電話 (0268) 23-5393